第3回日野町議会定例会会議録

令和元年6月13日(第2日)

開会 9時00分

散会 17時12分

1. 出席議員(14名)

1番	野 矢 貴 之	8番	山 田 人 志
2番	山 本 秀 喜	9番	谷 成 隆
3番	高 橋 源三郎	10番	中 西 佳 子
4番	加 藤 和 幸	11番	齋 藤 光 弘
5番	堀 江 和 博	12番	西 澤 正 治
6番	後 藤 勇 樹	13番	池 元 法 子
7番	奥 平 英 雄	14番	杉 浦 和 人

2. 欠席、遅刻、途中退席および早退議員

な し

3. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名(19名)

町 長	藤 澤 直 広	副 町 長	高 橋 正 一
教 育 長	今 宿 綾 子	総務政策主監	安 田 尚 司
教 育 次 長	望 主 昭 久	総 務 課 長	藤 澤 隆
企画振興課長	正 木 博 之	税 務 課 長	山 口 明 一
住 民 課 長	澤 村 栄 治	福祉保健課長	池 内 潔
子ども支援課長	宇 田 達 夫	長寿福祉課長	山 田 敏 之
農 林 課 長	寺 嶋 孝 平	商工観光課長	福 本 修 一
建設計画課長	高 井 晴一郎	上下水道課長	長 岡 一 郎
生涯学習課長	吉 澤 増 穂	会 計 管 理 者	福 本 喜美代
住 民 課 参 事	奥 野 彰 久		

4. 事務のため出席した者の職氏名(2名)

議会事務局長	山 添 昭 男	総務課主査	角 浩 之
--------	---------	-------	-------

5. 議事日程

- 日程第 1 議第 4 4 号から議第 5 0 号まで（日野町清田財産区管理会財産区管理委員の選任についてほか 6 件）および報第 5 号から報第 7 号まで（平成 3 0 年度日野町一般会計繰越明許費繰越計算書ほか 2 件）について

[質 疑]

- 〃 2 議第 4 4 号 日野町清田財産区管理会財産区管理委員の選任について

[採 決]

- 〃 3 議第 4 5 号から議第 5 0 号まで（工事請負契約について（町道西大路鎌掛線道路改良工事（その 4））ほか 5 件）について

[委員会付託]

- 〃 4 一般質問

8 番	山田	人志君
6 番	後藤	勇樹君
7 番	奥平	英雄君
1 2 番	西澤	正治君
3 番	高橋	源三郎君

会議の概要

－開会 9時00分－

議長（杉浦和人君） 皆さん、おはようございます。全員、ご起立をお願いします。
一同礼。

－起立・礼－

議長（杉浦和人君） ご着席下さい。

ただいまの出席議員は全員であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元へ印刷配付のとおりであります。

はじめに、会計管理者から行政報告があります。会計管理者。

会計管理者（福本喜美代君） おはようございます。

議長のお許しをいただきましたので、行政報告をさせていただきます。

去る5月31日、平成30年度の各会計の出納閉鎖を実施いたしましたので、その概要をご報告申し上げます。本日配付させていただきました、平成30年度出納閉鎖状況の資料をご覧ください。

まず、一般会計につきましては、歳入94億8,369万6,149円、歳出89億6,677万1,331円、差し引き5億1,692万4,818円の残額となりました。なお、歳入歳出差し引き額から、繰越明許費に係る一般財源8,164万8,000円を差し引きますと、4億3,527万6,818円になりました。

次に、各特別会計の報告をいたします。

国民健康保険特別会計は、歳入21億6,320万3,854円、歳出21億4,129万2,947円、差し引き2,191万907円の残額となりました。

簡易水道特別会計は、歳入3,109万570円、歳出3,106万6,214円、差し引き2万4,356円の残額となりました。

公共下水道事業特別会計は、歳入8億7,714万4,923円、歳出8億6,596万6,174円、差し引き1,117万8,749円の残額となりました。なお、歳入歳出差し引き額から繰越明許費に係る一般財源1,050万円を差し引きますと、67万8,749円になりました。

農業集落排水事業特別会計は、歳入1億8,798万4,536円、歳出1億8,387万9,828円、差し引き410万4,708円の残額となりました。なお、歳入歳出差し引き額から繰越明許費に係る一般財源240万円を差し引きますと、170万4,708円になりました。

介護保険特別会計（保険事業勘定）は、歳入21億2,113万400円、歳出19億9,665万327円、差し引き1億2,448万73円の残額となりました。

介護保険特別会計（介護サービス事業勘定）は、歳入507万5,101円、歳出503万6,741円、差し引き3万8,360円の残額となりました。

後期高齢者医療特別会計は、歳入2億5,353万6,030円、歳出2億4,987万8,246円、

差し引き365万7,784円の残額となりました。

西山財産区会計は、歳入230万5,492円、歳出195万7,146円、差し引き34万8,346円の残額となりました。

以上、平成30年度出納閉鎖状況のご報告といたします。

議長（杉浦和人君） 会計管理者の行政報告は終わりました。

日程第1 議第44号から議第50号まで（日野町清田財産区管理会財産区管理委員の選任についてほか6件）および報第5号から報第7号まで（平成30年度日野町一般会計繰越明許費繰越計算書ほか2件）について質疑を許可いたします。

質疑はございませんか。

13番、池元法子君。

13番（池元法子君） おはようございます。

それでは、私からは大きく4点についての質問をさせていただきます。

1つ目に、議第49号、令和元年度日野町一般会計補正予算（第2号）について、事項別明細書11ページ、民生費、公立保育所運営事業に864万7,000円計上されています。これは10月から開始される幼児教育・保育の無償化に対応するためのシステム改修に必要な経費とのことであります。10月からの消費税増税については、自民党内からも先延ばしするべきとの意見が出ているように、国民の多くが反対する増税ですが、10月からの増税がされなかった場合の当局のお考えについてお尋ねをいたします。

2つ目に、同じく日野町一般会計補正予算の事項別明細書11ページ、土木費の社会資本整備総合交付金事業に7,660万8,000円計上をされております。これは町道西大路鎌掛線および町道奥之池線の整備について国庫補助金の配分が見込みを上回ったとのことであります。また、社会資本整備総合交付金事業、防災・安全についても、936万円が計上されています。これも橋梁修繕および町道舗装等についてであって、またこれも国庫補助金の配分が見込みを上回ったとのこと。そこで、社会資本整備総合交付金事業、同事業の防災・安全について、どのような事業が対象とされているのかお尋ねいたします。また、この交付金事業に、日野町に昨年、平成30年度に補助金の配分がいくらあり、今年度は総額いくら配分されるのかをお尋ねいたします。

次に、議第50号、令和元年度日野町介護保険特別会計補正予算（第1号）について、これについても10月からの消費税増税に伴う低所得者への介護保険料の軽減措置に対して必要となる経費に対するものですが、そこで次の点についてお尋ねをいたします。

1つ目に、このことについても消費税の増税がなされなかった場合、低所得者軽減の実施対応や財源確保の対応についての当局のお考えをお尋ねいたします。

2つ目に、今回の軽減措置がされる住民税非課税世帯で日野町では12段階のうち1・2・3段階の人が対象となりますが、各段階の該当人数、軽減額、合計人数、軽減総額をお尋ねいたします。また、国・県・町の財政負担割合をお尋ねいたします。

3つ目に、介護保険のシステム改修事業補助金が事項別明細書19ページの歳入に107万4,000円計上されており、歳出の21ページにはシステム改修の委託料で一般財源を含む143万2,000円が計上されています。介護保険によくシステム改修が出てきますが、どのような改修が行われるのか、また委託料の内容についてもお教え下さい。

そして、今回、この介護保険の軽減措置に伴って高齢者の医療保険料の見直しもされることが、厚生労働省から、75歳以上で年金が80万円以下の皆様へのお知らせとして出されています。その中で、介護保険料の負担軽減で納付額は月平均440円軽減されるとありますが、日野町ではどのようになるのでしょうか。

また、高齢者医療保険料については、保険料均等割が9割軽減から8割軽減と軽減が下がります。これにより納付額は月平均で380円から750円となっておりますが、県が決めることだと思いますが、日野町ではどのようになるのでしょうか。

また、介護、年金について負担軽減等利益増になっておりますが、この高齢者医療保険についてだけはなぜ負担増となるのかお尋ねをいたします。

議長（杉浦和人君） 13番、池元法子君の質問に対する当局の答弁を求めます。子ども支援課長。

子ども支援課長（宇田達夫君） おはようございます。

ただいま池元議員の方から、議第49号、一般会計補正予算民生費の公立保育所運営事業の中で、システム改修に伴う委託料について質疑をいただきました。

消費税が見送られた場合の無償化についての財源ということでございますが、無償化すること自体はもう決定をされていることでございます。消費税が見送られた場合におきましても、その財源につきましては国の方で責任を持って国の予算配分の中で措置をいただくものというふうに考えております。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） おはようございます。

補正の関係で、社会資本整備総合交付金に関する事で質問をいただきました。

まず、それぞれ見込み分を上回ったということでの補正ということでございますが、防災安全についてはどのようなものに使うのかということでございます。この交付金の防災安全の面につきましては、舗装の補修と、それから橋梁の修繕ならびに点検、それから修繕に係る設計業務等に、防災安全の方については使うというふうにしております。

それから、大型補正に係る補正の総額はいくらかということでございます。これにつきましては、平成30年度の補正で1億円、それから今年度の補正で9,000万円ということで、合計1億9,000万円の交付金がついたということになっております。

議長（杉浦和人君） 長寿福祉課長。

長寿福祉課長（山田敏之君） おはようございます。

ただいま池元議員の方から議第50号、令和元年度日野町介護保険特別会計補正予算（第1号）に関連いたしまして、何点かご質問をいただきましたので、お答えをさせていただきます。

まず、1点目でございますけれども、消費税が増税されなかった場合の低所得者軽減の取り扱いがどうなるのかというようなことでございますけれども、低所得者軽減の拡大につきましては、今年10月1日以降消費税増税を財源としてなされるものでございますけれども、既に平成31年3月29日付で介護保険法の施行令の一部を改正する政令が公布されておまして、平成31年4月1日から施行されております。今年度の保険料の賦課基準日は平成31年4月1日でございますので、日野町の介護保険条例もあわせて改正をさせていただいたところでございます。

仮に消費税が増税されなかった場合ということでございますが、その時点で低所得者軽減を取りやめることになるとなると、平成31年4月1日の賦課基準日にさかのぼり低所得者軽減を取りやめることになるとなるとは思われますので、少なくとも今年度は低所得者に対する軽減措置は何らかの財源を用いまして実施されるのではないかとこのように考えております。

いずれにいたしましても、町単独の制度ではございませんので、消費税が増税されなかった場合は国の法令等に従い対応することになりますが、必要な財源等の措置につきましては、国としても責任を持って対応していただきたいというふうに考えているところでございます。

次に、軽減の対象者でございますけれども、どのように広がったかということでございます。保険料の賦課は例年6月1日付で本算定を行いますので、平成30年度の賦課ベースでの試算となりますけれども、第1段階の該当者の方は614人でありましたが、今回、第2段階、第3段階の方へも軽減が行われますので、第2段階の該当者が411人、第3段階の該当者が465人ということでございまして、1号被保険者が6,320人に対しまして、合計で1,490の方が対象となるということでございます。被保険者に占める割合は23.6パーセントということになるということでございます。

次に、低所得者の保険料の軽減分の予算全体の段階別の保険料はどうなるのかということでございます。第7期の介護保険料は本来、年額が7万4,400円、月額が

6,200円に対しまして、保険料の賦課の第1段階から第3段階までの軽減者が、今、申しあげましたように、1,490人分の各保険料の段階ごとの保険料の差額分の合計は1,039万7,400円となりますので、そのうち国が2分の1の負担ということで519万8,700円、県と町がそれぞれ4分の1の負担となりますので、259万9,350円となるものでございます。

今回の補正では既にこれまでから第1段階の保険料につきましては、負担率の0.05の3万7,200円から3万3,480円に軽減を行ってございましたけれども、さらに今回の政令改正で軽減措置が強化されましたことから、2万7,900円になりまして、第1段階の保険料の差額分が336万7,600円、さらに今回、軽減措置の対象を第2段階、第3段階に広げられましたことから、第2段階の保険料の差額分は382万2,300円、第3段階の保険料の差額分は86万4,900円となりまして、合計では805万4,800円となります。財源は先ほど申しあげましたように国が2分の1、県が4分の1、町が4分の1を負担する仕組みとなっておりますので、補正予算書では国が402万6,000円、県が201万3,000円となりまして、予算上は1,000円未満の端数分を町が繰り上げて負担することとなりますので、町の負担額は201万5,000円になるものでございます。

次に、介護保険のシステム改修の補助金のご関係でございますけれども、今回のシステム改修につきましては、介護保険料の軽減強化支援分と、あわせまして介護報酬の改定等に伴うシステム改修事業の2件でございます。いずれも富士通製の介護保険システムのMCWELのパッケージ購入と適用作業に係る経費について、滋賀県6町行政情報システムクラウド共同利用事業運営会議での協議に基づきまして負担金を計上しているものでございます。

MCWELの低所得者の保険料軽減強化対応パッケージでございますけれども、これは保険料の強化が行われるように特別徴収における仮徴収の変更の見直し、また平準化を行わないとした場合に保険料の徴収額の決定を可能とするもので、導入費用の71万6,000円は全額国費の補助として、財源を国費としていただくものでございます。

また、介護報酬の改定に伴いますシステム改修事業では、単位数とか区分の支給限度の基準額等の受給の管理に必要な情報の影響する機能につきまして、システム改修を行うということでございまして、消費税増税の対応パッケージの導入費用71万6,000円に対しまして、2分の1の国庫補助を見込んでいるということでございます。

後期高齢の関係の軽減見直しの関係につきましては、後期高齢者の医療保険等の関係がございまして、詳しくは住民課長の方からお答えをさせていただきます。

議長（杉浦和人君） 住民課長。

住民課長（澤村栄治君） おはようございます。

ただいま池元議員さんから、議第50号、介護保険特別会計補正予算（第1号）に係る部分で、高齢者医療制度の見直しの部分についてご質問をいただきました。

多分、厚生労働省から出ていますパンフレットを見てのご質問だと思いますけれども、このパンフレットを見る中において、今回、厚生労働省が言っているのが、いわゆる町の介護保険の特別会計見直しの部分に係る部分で、介護保険料の軽減制度を見直して負担減を図るといふ部分と、次は年金生活者に対する支援給付金制度を新たに設けるといふことで、新たな給付金という制度ができるといういふことと、今ご質問いただきました高齢者医療制度に係る部分については軽減制度の見直しによって負担増になるという部分がございまして。

この負担増によりまして日野町の影響額はどうかと、県全体でということもあつたかなと思うんですけども、影響額については、資料としては平成31年2月5日現在で、対象者は473人で9割軽減のときの均等割の年間保険料は4,372円であり、これが7割軽減になると1万3,118円となり、年間で8,746円、1カ月当たりにして728円の負担増になります。

ただ、令和元年度については、10月実施のため半分の4,373円が影響額であり、これを十二月で割り戻しますと、1カ月当たり364円の負担増となります。令和元年度の町全体の影響額は合計しますと約200万円というように見込んでおります。

次に、この軽減特例制度の見直しが導入された理由についてお聞きいただきました。この保険料均等割の軽減特例につきましては、後期高齢者医療制度が平成20年に創設されましたけれども、そのときに当面の暫定措置として特例的に実施されてきたものでございまして。条例本則では7割軽減と規定されておりますけれども、特例的に実施するため、附則の中の規定で対応されてきたものでございまして。こうしたことから、平成28年に社会保障制度改革推進本部が決定されました今後の社会保障改革の実施についての中で、後期高齢者の保険料に係る軽減特例については、介護保険料軽減の拡充や年金生活者支援給付金の支給とあわせて見直しされることになり、2019年、令和元年10月から軽減特例に係る財源の国庫補助金を廃止し、当該後期高齢者保険料を本則どおり7割軽減に戻すという改正をされるものでございまして。

なお、8.5割軽減につきましては、年金生活者支援給付金の支給対象ではないということなどを踏まえまして、今年の10月から1年間に限り、特例軽減に係る国庫補助金の廃止負担増になる所要額については、特例的にまた国が補填されるというように決定されております。

議長（杉浦和人君） 13番、池元法子君。

13番（池元法子君） そうしたら、何点か再質問をさせていただきます。

大きく2番目の質問の、社会資本整備総合交付金事業に係る質問なんですけれども、この交付金事業が来年度までというふうに伺っておりますが、道路の交通安全対策事業や、また近江鉄道に対する事業には対象とならないのでしょうか。お尋ねをいたします。

また、日野町には国にパイプがないというふうに言われている人がいる中で、こんなに補助金がついたのはなぜなのか、先ほど昨年と今年度の総額がいくら配分されるのか聞いたんですけど、その返答がなかったので、それもあわせてお願いをいたします。

そして、介護保険についてはちょっと細かいところですので、また委員会でも質問をしようと思っておりますが、システム改修のところ、介護保険の軽減に対するシステム改修と報酬に対するシステム改修の2つが含まれているということで、軽減のためのシステム改修については全額国費で賄われておりますが、報酬については、だから半分の2分の1が町費ということになるんですね。

それと、最後の質問で、介護保険料の負担軽減で納付額は、国からのお知らせの中には月額440円の軽減というふうにありますけれども、日野町ではいくらになるのかというのを先ほど答えていただけていないと思いますので、お願いいたします。

そして、高齢者医療保険料について、法的には7割軽減だったところを特例的に9割軽減にしていたと。今回はそれが8割軽減に変わるということなんですけれども、2019年、今年1年は8割軽減で、来年度からまた法定の7割軽減に戻すことになるのでしょうか。そのところをお願いいたします。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 社会資本整備交付金の緊急対策分等について再質問いただきました。

緊急対策分ということで、国土強靱化についてきました分につきましては、基本的には西大路鎌掛線の鎌掛工区のためのものをごさいます。これ以外には基本的には使えないということをごさいます。といいますのは、国土強靱化対策ということで3年間で確実に工事が完了するところで、これも条件がごさいます。災害点検が必要な箇所ということで、町の方でも以前にそれぞれの路線も調査しております。その路線で対応が必要な路線に対してこの3年間で整備が完了できるという箇所について、今の国土強靱化の緊急対策分という交付金を充てるということをごさいますので、今、ちょうど西大路鎌掛線の鎌掛工区の方につきましては当然、災害点検が必要な箇所の路線として西大路鎌掛線を挙げておりますので、ちょうど今の工事の中で今の国土強靱化の対策に乗ってくるというところが、今、工事をさせてもらっています西大路鎌掛線の鎌掛工区の1.2キロの部分がちょうどこれに当てはまるということで、今回、インフラ緊急点検対策分として交付金がついてきたとこ

ろでございますので、これを例えば奥之池線の方に回すとかいうことは基本的にはできないということで、西大路鎌掛線の鎌掛工区に今ついてきた対策分については充てるということになりますので、ここで今ついてきた工事分を活用して早期にこの部分を完了するというところでございます。

それから、総額というのは、今の緊急対策分とは別に全体でどれだけついているかということですね。今言いましたように、この補助金につきましては、通常分というのと今の緊急分ということでありまして、今、申しましたように緊急分については平成30年度に1億円、それから31年度に9,000万円、合計1億9,000万円ということでございます。通常分につきましては、30年度が1,955万円、それから31年度が8,040万8,000円ということで、それぞれついておりまして、合計としまして30年度に1億1,955万円、それから平成31年度に2億900万8,000円ということで、それぞれ社会資本交付金の方はついております。うち1億9,000万円につきましては、今も申し上げましたように鎌掛工区での工事に活用するというところでございます。

議長（杉浦和人君） 長寿福祉課長。

長寿福祉課長（山田敏之君） 池元議員の方から再質問をいただきましたので、お答えをさせていただきます。

まず、システム改修の関係でございますけれども、申し上げましたようにシステム改修につきましては報酬の改定につきましては費用は71万6,000円に対しまして2分の1の国庫補助を見込んでいるということでございます。

もう1点の、後期高齢者医療の保険料の均等割の軽減の見直しの説明の中で、介護保険料の負担は全国の月額平均で440円軽減されるということが示されている点でございますけれども、75歳以上の方で年金が80万円以下の方は介護保険料の第1段階となりますので、日野町の第7期の介護保険料は月額が6,200円となっております。第1段階の保険料は月額が3,100円が2,790円に減額されておりますし、今回の政令公布による改正によりまして、日野町の介護保険料の軽減後の月額単価が2,325円となりますので、国が示しております440円に対しましてその差額の465円の軽減となるものでございます。この金額に開きが生じますのは、保険者ごとの保険料の基準額が異なるためでございます。

議長（杉浦和人君） 住民課長。

住民課長（澤村栄治君） ただいま高齢者医療に係る部分で再質問をいただきました。

10月から8割軽減で、来年度以降からは7割軽減になるのかというご質問をいただきました。軽減特例の見直しにつきましては、今年の10月から本則の7割軽減に戻すというものでございますので、今年度は10月から6カ月間でございますので、保険料は年度単位で賦課するものでありまして、通年で平均して今年度は8割軽減とさせていただきます。令和2年度以降は7割軽減とされます。

議長（杉浦和人君） ほかに質疑ございませんか。

12番、西澤正治君。

12番（西澤正治君） 2点ほどお願いしたいと思います。

議第45号の工事請負契約、今も池元議員さんから質疑がありましたが、西大路鎌掛線工事を着々と進めていただいて本当にありがたいことでございます。今回、また580メートルの延長の工事ということで、していただけるわけなんですけど、その中に舗装工事ということが入っております。していただいてすぐに舗装までできて大丈夫かな、ちょっと地盤の養生をしてからの舗装ということをしていただくと、やはり地盤がきちっと締まってよいのではないかな、していただいたところを急に舗装していただいてどうかな、これをひとつお聞きしたいなと思います。

そして、議第46号、工事請負契約、日野小学校のトイレの改修のことでございますが、本当にありがたいことで、たくさんトイレを和式から洋式ということで、本当に子どもらにもよいことだと思いますが、他の小学校、南比都佐、必佐、桜谷といろいろ小学校がございますが、そのトイレの方はどういふようになっているのか、これもひとつお聞きしたいなと思います。

もう1点でございます。議第48号の使用料条例等の一部を改正する条例の制定についてということでございますが、第3条に日野町河川占用料徴収条例とありますが、この中に流水占用料という、これが載っておりますが、これはどういうことかなと思います。これは田の水の今度の消費税が上がったのこととは思いますが、流水占用料というのと河川占用料というのと、どのように、ややこしいことになっておりますが、この違いをちょっと教えていただきたいなと思います。

議長（杉浦和人君） 12番、西澤正治君の質問に対する当局の答弁を求めます。建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 町道西大路鎌掛線の道路改良工事の舗装の事で質問いただきました。

いきなり舗装まで行っても大丈夫なのかということでございますが、今回の工事におきましては、路体工事としましてその埋め戻しについても2層に分けて行います。基本的に一旦埋めて、その道路の下については改良した土を埋め戻して地盤をつくるということになっておりますのと、今回、舗装を仕上げますのは、最終的に仕上がる手前の1段階前までの舗装でございますので、最終的にはもう1回舗装をして仕上げるということになっておりますので、今の舗装が最終的な道路舗装になるということではございません。もう1層、上から最終的には仕上げ、道路舗装を仕上げってしまうというふうになっておりますので、基本的にはご心配いただいている分については大丈夫かなという認識をしております。

それから、流水とは何ぞやということでございます。これもうちの方もなかなか

ちょっと、いろいろ調べてみたんですけども、基本的には河川から水を引く、例えば魚を飼う池用に水を引く、それから工業用ということで石炭を掘ったりするのに川から水を引くということで、川に放流するんじゃなくて、川の水を取ってきてそれを使うということで、基本的には毎秒1リットルでしたか、1リットルが年間に使用するのにいくらやというような金額を設定したものでございます。

今現在、町内でそういうような利用をされているという例はございませんので、基本的には町内でそれに該当するのはないんですけども、基本的に川から水を引いてきて、それをいわゆる営利目的のために使うときに占用料が生じてくるというようなことで認識をしております。農業用の用水とかその辺については該当から外れるということで、これの対象にはなっておりません。

議長（杉浦和人君） 教育次長。

教育次長（望主昭久君） おはようございます。

それでは、議第46号、工事請負契約、日野町立日野小学校トイレの改修工事についての質問を頂戴いたしました。

現在の日野町の各小学校の状況でございますが、トイレの改修工事が終わった小学校が桜谷小学校、必佐小学校におきまして100パーセント洋式化にしております。日野中学校も洋式化になっております。今回の日野小学校の洋式化トイレをさせていただいて、あと残るのは西大路小学校と南比都佐小学校が洋式化ができていないというところでございます。あとの残る2校につきましては、今年度に長寿命化計画をさせていただきますので、その中でどのような時期にどのような形でさせていただくのか検討させていただこうというふうに思っております。また、できていない西大路小学校、南比都佐小学校につきましても、トイレの中には洋式便器はあるという状況で、全てが和式じゃなくて洋式トイレもあるということで今は、現在、使用していただいているというところでございます。

議長（杉浦和人君） 西澤正治君。

12番（西澤正治君） ありがとうございます。答弁いただきました。ぜひとも小学校のことはまた早期に進めていただきたいなと思っておりますので、よろしく願います。

議長（杉浦和人君） ほかに質疑ございませんか。

11番、齋藤光弘君。

11番（齋藤光弘君） それでは、私の方から2つの議案について質問させていただきます。

議第48号の日野町使用料条例等の一部を改正する条例の制定について質問させていただきます。これは社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うため、今年10月1日から消費税8パーセントが10パーセントになるため、日野町使用料条例等の6条例を一部改正するものであります。その中で、日野町上水

水道給水条例の水道料金が改正されるのは10月以降の水道使用料ということで、実際には改正されるのは何月からの請求分となるのかお伺いをいたします。あわせて、下水道の使用料についても上水道の関連から何月請求からの料金が上がるのかをお伺いいたします。また、農村下水道の使用料についてはどうなのか、お伺いをいたします。

次に、議第49号の令和元年度日野町一般会計補正予算（第2号）についてですが、今回の補正は消費税増税対策に伴う幼児教育保育無償化や国土強靱化による国・県の補助事業の交付決定に伴うものとお聞きしておりますが、令和元年度の予算については昨年と比べるとどうなのか、今年度の交付決定状況についてお伺いをいたします。

以上の2点について質問させていただきます。

議長（杉浦和人君） 11番、齋藤光弘君の質問に対する当局の答弁を求めます。上下水道課長。

上下水道課長（長岡一郎君） 齋藤議員さんの方から、使用料条例等一部改正に伴います水道使用料、下水道の方と農村下水道の方の使用料につきまして、消費税10パーセントというふうについてからなるのかというような質問をいただきました。

それで、まず、水道使用料、下水道の使用料につきましては、10パーセントの消費税がかかりますのは10月1日からの水道使用料ということになりますので、ところが水道メーターの方の検針につきまして2カ月に1回ということで実施の方をさせてもっていますので、検針の方が偶数月の地域につきましては、12月の検針の方から消費税10パーセントになります。奇数月の方の地域につきましては、来年1月の検針日から消費税10パーセントとなりますことから、したがって12月に検針の地区にお住まいの方は来年1月の請求の水道料金と2月の請求の下水料金の方から消費税10パーセントになります。そして、来年1月の検針にお住まいの方につきましては、来年2月の請求の水道料金と3月請求の下水道の方の使用料の方から消費税がかかることとなります。

そして、農村下水道の使用料につきましては、毎月納入いただいておりますので、10月の水道使用料の方から消費税が10パーセントになります。

議長（杉浦和人君） 総務課長。

総務課長（藤澤 隆君） 齋藤議員より、議第49号につきまして質疑をいただきました。

議員おっしゃいましたように、今回の補正につきましては、消費税対策に関するものが多くございます。消費税に関しましては国の方で全て消費税財源ということで補填されるというところで、それにつきましては町の新たな負担というものはございませんけれども、国の方の消費税の枠の中で大体8パーセントから10パーセン

トに増税される分、約5兆円規模が増税されるわけでございます。そのうち、本来ですと年金なんかの基礎年金の引き上げとかいった部分に使われるはずだったのが、使い方を変えるということで今、幼児教育の無償化なんかに1.7兆円使うというような枠組みが変えられたというところでございます。基本的な社会保障の充実には1.1兆円使っていこうというような内容でございます。

人づくり革命と言われてはいますが、そういった無償化に関する財源についての枠はそうやって確保はされたというところでございます。ただ、それに伴います事務等、システム改修等、国は財源的には保障されますが、事務の大きな負担はあるというところでございます。

またもう一方で、先ほど池元議員がご質問されました西大路鎌掛線の関係で、国の方が防災のための重要インフラの国土強靱化の3カ年対策ということで7兆円規模の予算をつけられた、3カ年で7兆円規模ということで、それも緊急対策ということで要望に応じたといいますか、要望を上げておきました分の約半分程度の内示が来たということで、今回の補正をさせてもらったというところでございます。

全体の町の昨年との違いといいますと、昨年は大幅に優良企業の税収が伸びてきたということで、それと29年度の交付税の交付率が非常に低かったということで、30年度は交付税の交付率も高く企業の収益もあったということで、非常に30年度は予算的にはありがたかったということで、多くの補正を組ませていただいて、施設の修繕等させていただいたというところでございます。

今年度は、そういった税収が昨年伸びたということは、交付税は今年はおさまってくるということで、非常に緊縮な予算を当初から組ませていただいたというところでございます。

当初賦課が始まったわけでございますけれども、大体見込みどおりというところで、社会保障等の固定費、それから公債費等の固定費が非常にウエートがあるということで、今年度については厳しい。そういった中で別枠で消費税関連等の予算がついてくる中で事業が進められるということで、ご理解いただきたいと思っております。

議長（杉浦和人君） 11番、齋藤光弘君。

11番（齋藤光弘君） 使用料については、水道料金、下水道等、請求については1月、2月ということで、10月からの部分の請求分は後になるということでお聞かせいただきました。大体分かりました。ありがとうございます。

2つ目の、今年度の交付決定の予算についての状況でありますけど、消費税増税対策としていろいろ国からの交付決定がされてきたということではありますが、町当局の職員の皆さんがアンテナを張ってそういった予算請求をしていただいていた成果ではないかなということで、評価させていただくところでございます。

国の消費税増税対策として国土強靱化に貴重な税金を財政支出するよりも、生活

支援や地方の地域公共交通の支援等のメンテナンスに財政支出するよう、切りかえていくべきではないかなというふうに考えます。その辺のところ、町当局はどのように思われているのか、再度お聞かせ願いたいと思います。

議長（杉浦和人君） 総務政策主監。

総務政策主監（安田尚司君） おはようございます。

ただいま齋藤議員より再質問いただきました。その部分でございますと、消費税増税という対策の中で、そうした国土強靱化という部分で、3年間なりの大きな財政支出をするということに対して、その辺についてもっと地域の生活に関連した部分でしっかりと手当てすべきじゃないかというお話でございます。

私どもとしましては、消費税云々の中で大きな事業をどんと出していただくというよりは、国交省の関係の予算からいいますと、やはり地域住民に密着した部分での施設、それから道路も含めまして、そうしたものの長寿命化の支援というのは当然、いただきたいですし、そういう部分は必要だというふうに考えております。

また一方で、全体として人口減少し高齢化が進む中で、国交省として大きなプロジェクトがございます。そうした中で予算が大きく配分されているわけですね。そのプロジェクトの一部を縮小しながら、今言いましたような地域住民の関連するそうした道路も含めてですけれども、先ほどおっしゃったように地域の公共交通、特に高齢化の中で進めていかならない部分についてはしっかりとそういう部分を手当てしていただきたいなというような思いで、私どもも今後、県を通じまして国等への要望の方を上げていきたいなというふうに考えているところでございます。

議長（杉浦和人君） 齋藤光弘君。

11番（齋藤光弘君） 政府への要望等していただきたいと思うんですけど、国土強靱化も大事なことでありますが、消費税増税については社会保障の充実、安定化に充当していただきたいというふうに思います。

議長（杉浦和人君） ほかに質疑ございませんか。

10番、中西佳子君。

10番（中西佳子君） それでは、2点質問をさせていただきます。

議第46号、工事請負契約について、日野小学校トイレ改修工事についてお伺いいたします。

子どもたちの安全や授業に配慮された工事工程となっているというふうには考えますが、着工から完了まで期間予定を教えてくださいたいと思います。また、搬入や工事の安全対策は十分なのでしょうか。その点についてもお教え下さい。

次に、議第49号、一般会計補正予算（第2号）予防接種事業についてお伺いいたします。

風疹の拡大を防ぐため、予防接種を受ける機会が少なかった世代が対象者とお聞きいたしました。町の対象者は何人となるのでしょうか。また、財源内訳についての説明をもう少し詳しくお伺いいたします。

また、国では2022年3月までというふうに聞いておりますけれども、今年度、対象者に通知の発送やクーポン券なども発送されるのではないかなというふうに思いますけれども、今年度以降の予定も決まっておりましたら教えていただきたいと思っております。

議長（杉浦和人君） 10番、中西佳子君の質問に対する当局の答弁を求めます。教育次長。

教育次長（望主昭久君） 議第46号の工事請負契約について、中西議員より質疑を頂戴いたしました。工期につきましては9月27日を予定しております。現実的に工事を行うのは夏休み期間を中心にさせていただきます。工事の主な内容につきましては、便器を和便器から洋便器に変えますので、そう大きな機械を搬入するようなことはないかなというふうに思っておりますが、安全につきましてはこれから、今議会が終わってから本格契約になりますので、そういう中でしっかりと子どもたちの安全ということ考えた対策の中で工事を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

議長（杉浦和人君） 福祉保健課長。

福祉保健課長（池内 潔君） ご質問いただきました予防接種につきまして回答させていただきます。

まず、町の対象者でございますが、全体的に、先ほどおっしゃっていただいたとおり予防接種ができていない世代というのが現実的にありまして、どこの年代かと申し上げますと、昭和37年4月2日以降と昭和54年4月1日未満、ここの分はできていないのはできていないんですけれども、なぜここが対象者になっているかというと、抗体の保有率が他年齢層に比べて低いという状況を問題視して、この年代に特定して予防接種をしていこうというのがまず1点でございます。

日野町においては、その17年間の人数でございますけれども、今のところつかんでおります人数は2,301名でございます。今年度予定しております接種につきましては、その年齢層の中でも若い方から順番に3年かけてやっていこうということになっておりますので、今年については昭和47年4月2日から54年4月1日生まれまでの方を対象にするということで、人数的には1,129名を見込んでおります。

その財源につきましてですけれども、予防接種につきましては町が接種するという、定期接種という法定接種になりますので、基本的には町の財源を使うということになります。今回は厚労省の追加的な対策ということでございますので、一部国費が投入されるということになります。その国費の使われ方なんですけれども、

予防接種を受けていただく際には、まず抗体があるかないかという検査をしていかなければならないということになりますので、まずは抗体検査をしていただく。その抗体検査については国費2分の1を補填していこうということで、町費が2分の1ということになります。予防接種につきましては町の実施事業になりますので、町の一般財源になるということですが、これは交付税で算入していこうという仕組みになっておまして、今回、補正予算で計上させていただいております。国費については、抗体検査の分の2分の1が補填されるということになります。

そして、今後の作業でございますけれども、もう間もなくですけれども今年度対象となる方にクーポン券を発送しようと思っております。予算ベースで見えておりました1,129名よりも若干低目になっておりますけれども1,022名の方に今回、クーポン券を発送しようと思っております。この方々については、今のところ5月15日現在で基準日を定めて締め切っておりますので、今、こういう数字になっておるんですけれども、例えばこの年代層の方以外で先ほど申し上げた17年間の方が、実は予防接種を受けたいという希望を申し出された場合は、今年の対象期間外であっても予防接種を受け付けるということになってございますので、その分を見越して少し予算は多目にとっておるといところでございます。

仕組みにつきましては、クーポン券が発送されますと、まず抗体検査を受けていただくということになります。特定健診等を受けていただく場合には、その際にあわせて抗体検査をしていただくということがあります。それと、会社にお勤めの方については、会社での健康診査がございまして、そのときにあわせてこの抗体検査をしていただくということで、会社の契約されている健診実施機関に、このことについては周知が行き届いておりますので、会社にクーポン券を持っていただくと会社で健康診断の際に抗体検査が受けられる。その結果については一、二週間かかるというふうには聞いておりますので、その結果を受けて陰性であれば予防接種が必要ということで、クーポン券をまた用いていただいて各医療機関で接種をいただくということになっております。

議長（杉浦和人君） 中西佳子君。

10番（中西佳子君） 予防接種についてなんですが、今年クーポンをいただかれた方の期限というなのは、3年間のうちであればいいのでしょうか。その点についてお伺いしたいのと、あと、国ですと抗体保有率というんですか、そういうなの目標値というのが上がっているんですが、町としても目標を定めて取り組んでおられるのかどうかという点についてお伺いいたします。

議長（杉浦和人君） 福祉保健課長。

福祉保健課長（池内 潔君） まず、クーポンの期限でございますけれども、このクーポンの期限につきましては、年度ごとに締め切りをさせていただいて、今年クー

ポンを利用できなかった場合については来年またクーポンを発行させていただくという仕組みになってございます。

日野町の目標ということでございますが、先ほど申し上げた17年間の世代の抗体保有率が80パーセントを切るという状態でございます。他方、その年齢区分以外のところについては90パーセントを超えるところが多いということでございますので、国としてはその底上げをしていきたいという思いでございますが、町として、じゃあその80パーセントを90パーセントにしていこうという詳細な目標は持ってございませんので、国のスキームで決められた分を実施していくということでございます。

議長（杉浦和人君） ほかに質疑ございませんか。

9番、谷 成隆君。

9番（谷 成隆君） 私からは、議第46号、工事請負契約について、日野町立日野小学校トイレ改修工事の指名競争入札を執行されましたことについてお聞きしたいと思えます。

12社が参加されて行われたということを知りました。そのうちの辞退が8社、失格が1社で、結局3社で行われたわけなんですけれども、こうなった理由を聞いておられると思うんですけれども、なぜ辞退されたのかをお聞きしたいと思えます。

議長（杉浦和人君） 9番、谷成隆君の質問に対する当局の答弁を求めます。副町長。

副町長（高橋正一君） ただいま谷議員の方から議第46号の日野小学校のトイレの入札についてご質問いただきました。

これにつきましては、おっしゃられましたように12社を指名させていただきました入札を実施したところでございます。これにつきましては、建設工事で町内のある一定の特定という技術を持っておられる、資格を持っておられる業者さんおよび町内の管工事で申請をされておられる業者さん等を指名させていただきました。12社ということで指名させていただきました。

入札につきましては辞退があったということでございますが、その辞退をされた業者さんの内容を見ますと、業務が多忙であるとか自社の都合であるとかいう、都合によりというのが7社ございまして、指名をさせていただきましたが業者さんのご都合によって、工期的なものもあったかも分かりませんが、自分の業者の業務としては今、辞退をさせていただくという自社都合という理由で辞退をされたというのが多くございましたが、入札としては適正に執行できたものというふうに思っております。

議長（杉浦和人君） 谷 成隆君。

9番（谷 成隆君） 何らかの理由があるんですけれども、その前の5月10日の入札執行された松尾公園の便所の改修工事を見ても、10社が参加されていますが7社が

辞退して3社でこれも行われているというのを見ても、今、副町長が言われるような、何かあるということ进行分析されているのかされていないのか。これは発注側に何かがあるのか、業者に何かがあるのか、何か原因があるさかいにこのようなことになると思うんですけれども、こういうことを分析されて考えておられないのかをお聞きしたいのと、以前も言われていたと思うんですけれども、やはりこちらから指名しているわけですから、辞退された人にペナルティーをつけるとかつかないかとかということも以前、言われていたと思うんですけれども、その点も以前の返答と一緒に何も考えておられないのか、その点をお聞きしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 副町長。

副町長（高橋正一君） 今の入札に関係いたしまして再度質疑をいただきました。

今回の、日野小学校のトイレでございますけれども、先ほど申し上げましたように、町内の管工事に関しましては町内の業者さんで管工事を希望されている、申請されている業者さんということで指名をさせていただいたところでございます。日野町の大多数の工事についてはやはり、町内の業者さんを指名させていただいて、町内の業者さんが施工していただくということが町内の経済循環の中でもいいということを原則に、そのようにさせてもらっているところでございまして、その工種に申請をさせていただいている業者さんにつきましては、町が持っています基準の中で合う業者さんにつきましては指名をさせていただいているという状況でございます。

また、辞退をなされた業者さんの次の指名のときに何か考慮しているのかということでございますが、基本的には、今、申し上げましたように、町外業者さんも含めた指名の中では一定、辞退の内容によって次の指名のときに考慮させていただいていますが、町内業者さんにつきましては、辞退があっても町内業者さんの一定の業種が合うものについては指名をさせていただいているというところで、今、運用をさせていただいているところでございます。

議長（杉浦和人君） 谷 成隆君。

9番（谷 成隆君） 何もないというか、そのままにされているみたいなので、せっかく何社でされていても結局3社で終わっているのやったら、何か聞こえが悪いというか、感じがするので、間違ったことはないと思うんですけれども、以後またそういうふうにとちょっと考えていただいていた方がええかなと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

議長（杉浦和人君） ほかに質疑ございませんか。

8番、山田人志君。

8番（山田人志君） 私からは2点質問させていただきます。

まず1つ目ですが、議第44号、日野町清田財産区管理会財産区管理委員の選任に

ついでですが、これに関連しては、前期で町議会議員を勇退された蒲生行正さんが何回ももう、この話を取り上げはりまして、つまり言うてはったのは、集落単位の財産区は集落で法人格を取ってもらって、つまり地縁団体になってもらってという意味だと思うんですが、その上で集落にお返しするべきやないかということをもう、この議会の席上で何度もお話しされていまして。私の知っている第16期の4年間の間だけでも3回は質疑に立ってはると思います。それだけその関連の議案が出たということなんでしょうけれども、その間、清田財産区と同じく、もう一つの集落の財産区であった中之郷財産区が2年前に発展的解消されていることもあって、直近の昨年12月議会では、そのときは清田の任期途中の補充選任やったと思うんですが、もう、今回の管理委員の任期満了をもつてもう、めどをつけてほしいというようなことを期待を込めて多分、おっしゃっていたと思います。

しかし、今回、任期満了に伴う委員選任の議案が提案されたということは、恐らく蒲生さんの期待しておられたようなことには、結果にはならなかったんやろうなと思ってるんですが、それで誰もそれを言わなくなったというわけにもいかないでしょうから、かわりにお聞きするようなところがあるんですが、今回の提案に至るまでの地元との協議の経緯、それから今後解消に向けた目標とかいうのがあるのかなのか、その辺について教えていただきたいと思います。半年前は総務課長に聞いてはったんですかね。じゃ、その続きで総務課長によろしくお願いしたいと思えます。

それから、2つ目なんですが、議第48号、日野町使用料条例等の一部を改正する条例の制定についての中からお尋ねします。

今回、改正される条例の中にグリム冒険の森各施設使用料とあります。グリム冒険の森は指定管理の施設ですけれども、グリムの指定管理者仕様書を改めて見ると、施設使用料は指定管理者が利用料金として定めて、指定管理者の収入になって、さらに利用料金の収入見込み額は指定管理料の計算から差し引かれるというふうに読みとれるんですけれども、その解釈で合っているのかどうか。別の聞き方をすれば、今回改正する施設利用料は指定管理者が定める利用料金の上限というふうに理解してよいのかということなんですが、さらに仕様書の解釈とは別に、実際の運用はどうなっているのか、あわせて教えていただきたいというふうに思えます。

議長（杉浦和人君） 8番、山田人志君の質問に対する当局の答弁を求めます。総務課長。

総務課長（藤澤 隆君） 山田議員より、議第44号、清田財産区管理会に関しましてご質問いただきました。

この件に関しましては、何度もご質問いただいております、それまでの経過を申し上げてまいったところがございます。以降、経過等若干変わってまいりました

ので、ご報告させていただきたいと思います。

まず、同じ1つの字で清田財産区というのがあるということで、財産を大字というところに引き継いで解散できないかというところでございまして、それには1つ条件があるということで、大字清田が地縁団体としての法人格がないというのが第一条件でございましたが、それにつきましては昨年の11月に臨時総会で地縁団体を設立しようという承認をいただいて、本年の3月末に地縁団体設立がようやくできたところでございます。3月末には日野町の方へ申請がございまして承認がされたということで、現在は大字清田が地縁団体としての法人格を持ったというところでございます。

ただ、設立に当たっての財産の考え方でございます。今後、財産を取得する予定というものが設立のときに申請書類に上がっているわけですが、そこにはこの清田財産区の財産は含まれておりません。といいますのは、それは以前から申し上げておりました財産区の権利者と大字清田の地縁団体の構成員とは若干違うということで、それにはもう少し時間がかかるというところでございます。

まずは今、地縁団体が財産を取得してしまう、地縁団体としての清田区の名義に変えようという手続はまだ登記ができておりませんので、その登記手続を終えて改めて協議を進めていくという段階でございます。もうしばらくかかるということで、ご理解いただきたいと思います。

議長（杉浦和人君） 農林課長。

農林課長（寺嶋孝平君） グリム冒険の森の使用料の改定についてご質問をいただきました。

このグリム冒険の森の使用料につきましては、先ほど議員おっしゃいますように、収入は全て指定管理者の熊野ワークス企業組合の方の収入となりますが、それにあたりましての上限額ということでの考え方をしております。上限額を定めて、その上限額の中で指定管理をしていただいている熊野ワークス企業組合さんの方で使用料の値段設定をしていただいているというようなことになってございます。

そして、指定管理料を5年間という形で協定を結ばせていただいております。その中で、指定管理料の算出におきましても、年度年度の決算の方の報告もいただいております。その過去の決算分を考慮いたしまして、あと支出の方でも人件費等々ございますので、全体を見定めた中で指定管理料の方につきましても算定をしていくというようなことで取り扱いをしております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 1点目についてはよく分かりました。蒲生さんやったらもうちょっと突っ込まはるのかもしれませんが、私はもう、再質問はいたしません。

2点目についても、グリム冒険の森についてはよく理解できました。ただ、同じ

く町の指定管理になっている、例えばブルーメの丘なんかは、ちょっと施設使用料という言い方がなじまない。入園料ですかね。だからブルーメの丘についてはどういう運用になっているのか、あわせて教えていただければと思いますし、またわたむきホール虹とか林業センター、勤労福祉会館は、グリム冒険の森と同じような仕様書の書きぶりになっていたと思うんですけれども、それぞれ消費税率の改正に伴う施設利用料の改定というのがあるかと思うんですが、それは予定はどうなっているか、あわせて教えていただければというふうに思います。

議長（杉浦和人君） 総務課長。

総務課長（藤澤 隆君） 山田議員より、議第48号に関しまして、指定管理のそれぞれの施設の使用料の改定はどうかというようなご質問でございます。

まず、全体的に消費税の改定にあわせまして各町の施設の使用料改定の検討を昨年から庁内でやっております。庁内でいろいろ検討する中で、今回、条例提案させていただいたものを消費税にあわせて改定しようというふうに決定させてもらったところでございます。

では、今、おっしゃいましたわたむきホールや林業センター、勤労福祉会館等はどうなのかというところでございます。そのときの考えの中で、グリム冒険の森というような、いわゆる施設を利用した運営事業ということではなくて、ほとんどが貸館事業としておりますわたむきホールや林業センターについては、全体的に県内の同様の施設がたくさんございますので、そういったところと比較して、今、その部分を改正すべきであるかというようなところも検討させてもらったところで、そこは一定、今については県内と比較して特段、消費税に取り上げて上げるべきではないというような判断をさせてもらったところでございます。

ただ、わたむきホールについては指定管理の協定期間がございまして、それが令和3年3月だと思うんですが、そこに合わせて一定の考え方をまた見直していってはどうかというような考えを持っているところでございます。

ブルーメにつきましては、実はブルーメの施設の中の町の施設は、体験交流施設とか部分的なものが町の施設になっておりまして、その部分部分で使用料を定めておるというところでございまして、入園料とはまた別のものというふうにご理解いただきたいと思います。一定、使用料は上限ということになっておりますので、そこは、日野町とブルーメさんとの指定管理させていただいているところと協議の中で判断するということになっております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 大体理解させていただきました。もう少し聞きたいところが出てきて、来週、連合審査会でまた質疑の機会もあるでしょうから、今回の質疑はこれで終わらせていただきます。

議長（杉浦和人君） ほかに質疑ございませんか。

7番、奥平英雄君。

7番（奥平英雄君） 私の方からは3点お伺いしたいと思います。

まず、1点目ですけれども、議第45号、工事請負契約について、町道西大路鎌掛線道路改良工事（その4）についてなんですけれども、私、素人的なんですけど、以前、3日に課長からいただいた図面なんですけど、道の方が紫に塗ってあるところが傾斜されているんですけれども、これは素人考えなんですけど、カーブになったあるので車が走っていった中で危険だという解釈で傾斜にされているのか、それプラス、今、仮舗装という工事やというのも聞いています。最終的に、危険度が高いようであればガードレールはつくるのであるか、その辺、1点目、聞きたいのと、2点目が第46号、工事請負契約について、日野小学校のトイレ改修工事ですね。これなんですけれども、校舎の中、今回されるようです。以前も中西議員でしたか、質問されたと思うんですけど、西べらにあるトイレ、プール側にあるトイレを結構、私もこの間、日曜日、福祉の方でグラウンドゴルフに参加させていただいた中、あそこを開放いただいてトイレを使っておられたんですけれども、あそこのトイレは全然直されるあはないのか聞きたいのと、それと体育館の中、私、月曜日と昨日も、水曜日、空手の方に行ってトイレも借りているんですけど、あそこは以前直されたんですけど、水は今回、校舎側に水が流れるようになるとは聞いていたんですけど、あそこは時間的には流れないのか、あそこもちょっとにおいがするような、洋式にはなっているんですけれども、水が流れていないような、小便器の方であるんですけれども流れていないようだと思います。それが2点目です。

3点目なんですけれども、議第47号、財産取得について、日野町消防団のポンプ自動車についてなんですけれども、今回、入れていただく車両なんですけど、バックモニターがつけていただけるという話をこの間、課長から聞いたんですけど、これまでに、必佐、日野、西大路、鎌掛と4台、前に入れていただいたんですけれども、その中でバックモニターが皆ついているのかついていないのか、その点、お伺いしたいと思います。

議長（杉浦和人君） ただいま奥平君の質問に対する当局の答弁を求めます。建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 町道西大路鎌掛線についてご質問いただきました。

資料に添付しております断面図の関係で、道路が何で勾配ついてんのやということでございますが、基本的には設計速度に応じて、このカーブのオールであればこれだけの勾配をとりなさいという標準的な決まりがございます、議員申されるように、外へ遠心力ではみ出るのを防ぐというか、この基準であればこの勾配でという決まりがございますので、基本的には遠心力で外へ出ないような対策として内側

に勾配をとっているということでございます。

それから、ガードレールの件につきましては、基本的にこれにつきましてもガードレール設置の基準というのがございますので、今回ガードレールについてはこの工事で見えておりませんので、基準的には設置せんでもええという認識をしています。ただ、開通しましていよいよ使用が始まってから当然、そのようなこともあるとは思いますが、その辺につきましては、開通してから現状を見ての対応になるかなというふうに考えます。

ただ、勾配にしましても、どれだけスピードを出すかというのもございますし、この辺につきましては基本的に設計速度も決まっておりますので、いわゆる交通规则を守っていただければガードレールまでは要らんのかなというふうな認識しております。

議長（杉浦和人君） 教育次長。

教育次長（望主昭久君） 奥平議員より、議第46号の日野小のトイレ改修についてご質問を頂戴いたしました。

現在、日野小学校につきましては、体育館と屋外トイレがございまして、屋外トイレにつきましては洋式便所はなく和便器ということでありますし、体育館の中につきましては洋便器と和便器が改修されてございます。先ほども申しましたとおり、日野町の全体的な小学校の長寿命化計画をさせていただきます。大規模改修につきましても日野小学校をはじめ、あと2校できておりません。また、個々の小学校につきましてもそれぞれの問題が出てきますので、それも含めた中で全て検討させた中で、財政的なことも含めた計画をさせていただきたい、その中でこの問題も含めて検討させていただきたいというふうに考えております。

議長（杉浦和人君） 総務課長。

総務課長（藤澤 隆君） 議第47号の消防ポンプ自動車についてご質問いただきました。

バックモニターについてでございます。今回、バックモニターを標準として装備させていただいたのは、町の所有していますトラックがございすけれども、給水車とか汚泥の乾燥車とかございすが、それも接触事故等を防ぐためにバックモニターをつけておる関係で、大きな車ですので後ろが見えにくいということで、今回、標準装備とさせてもらったところでございます。それで、これまでの各分団でのポンプ自動車はどうかというところでございますが、実は全てがバックモニターがついているわけではございません。ほとんどのところがつけていただいているんですが、そこは地元の寄附によりましてつけていただいているというところで、今回が初めて標準装備とさせてもらったというところでございます。

議長（杉浦和人君） 奥平英雄君。

7番（奥平英雄君） 今、最後のポンプ自動車のことについて再質問なんですけれども、私、以前ですけど長浜の方で、団の方ではないんですけれども署員さんがはしご車をバックされていて挟まれて亡くなられて、今、もう、この消防署もさらになつたんですけれども、そういう事故も起きていますので、できれば、今さらという言い方おかしいんですけれども、地元負担をかけるのではなく町の方でもし考えてもらえたらなど、要望なんですけれども。それと、今の時代ですけれどもドライブレコーダーも、緊急車両として消防団の方、走られるので、事故があったらだめなんですけれども、そういうことに対しても対応できると思うので、公用車も今、徐々につけていはいはるといふのも聞いていますし、できたらこのように考えてもらえたらなど、要望として言うておきますので、答弁結構です、要望として言うておきますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

議長（杉浦和人君） ここで暫時休憩いたします。再開は10時45分から再開いたします。

—休憩 10時33分—

—再開 10時45分—

議長（杉浦和人君） それでは再開いたします。

休憩前に引き続き、質疑を許可いたします。

質疑はございませんか。

6番、後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） それでは、私からも質疑をさせていただきます。ほとんどもう、多くの議員さんがご質問されましたので、私からは簡単に2つお尋ねしたいと思います。

まず1つ目でございますけれども、議第45号、工事請負契約について、町道西大路鎌掛線道路改良工事（その4）についてと、それから議第47号、財産の取得についてとお尋ねしたいと思います。

議第45号につきましてでございますけれども、先ほど西澤議員さんの方からもご質問がございましたけれども、この5月8日の大津の大萱6丁目の痛ましい事故がございましたけれども、これに関連しまして、ここは通学路になる道ではございませんし、お買い物とかいったところで歩かれる方は少ないと思ひますけれども、最近、健康のためか、わりかし歩いていらっしゃる方とかジョギングなさっていらっしゃる方、あるいはサイクリングなさっていらっしゃる方が割と山の奥の方の道でもお見かけすることがございます。そういうこともございますので、歩かれる方も出てくると思ひますけれども、この道に歩道がつくのかどうか、この辺をお尋ねしたいと思います。また、つく場合でしたら、その構造ですとか歩道の道幅といったものもお尋ねしたいと思います。

もう一つ、財産の取得について、日野町消防団消防ポンプ自動車についてでございますけれども、これも先ほど奥平議員さんの方からご質問ございましたけれども、今回、第2分団の方にあたるポンプ自動車ということでお尋ねしたいわけでございますけれども、バックモニターの方が今回は公費で付けていただけるということで、非常にありがたいというふうに私も思っております。あと、桜谷全戸に対して4,000円ずつの寄附ということで、これに対しても私、異議をおっしゃっている方、まだ出会っておりませんし、当然、私たちの安心安全のためでございますので、当然のことと私自身も受け止めておりますけれども、こちらの寄附による各戸4,000円の部分は、ポンプ自動車についてはどの部分の、例えばオプションとかいった装備に充てられるのか、この辺をお尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 6番、後藤勇樹君の質問に対する当局の答弁を求めます。建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） ただいま後藤議員より町道西大路鎌掛線の道路について、歩道がつくのかということでご質問をいただきました。

計画におきましては、歩道については片側2.5メートルの歩道を設置するというで計画をしております。基本的に交通量等の想定もありまして、道路についてはそれに合わせた形ということになるんですけれども、この路線につきましては全線歩道としまして、片側2.5メートルの歩道を設けるという計画で進めております。

議長（杉浦和人君） 総務課長。

総務課長（藤澤 隆君） 議第47号の消防ポンプ自動車についてご質問いただきました。

桜谷の方で1戸当たり4,000円というご負担で、いろいろ分団との話し合いの中で決められたようでございます。若干そういったことは聞かせていただいているんですが、細かな内容は実は町の方も聞いておりませんで、経費といえますか、集められた寄付については納車があった後の地区でとり行われます入魂式の経費とか、それと分団さんとしては追加でもう少しサーチライトというか、そういったものをつけたいなというような経費と、またあともろもろの分団との経費ということで、これは区長会さんと地元の方でご協議されて、4,000円という金額が出されたというところと聞いております。町の方もそれぐらいしか聞いておりませんで、全ては地区でのお話し合いの中というふうに考えております。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） それでは、ちょっと再質問させていただきたいと思っておりますけれども、まず、議第45号の西大路鎌掛線についてでございますけれども、全線2.5メートル片側の歩道がつくということで、非常にありがたいなというふうに思ってお

りますけれども、最終的に完成した状態で、西大路鎌掛の間に交差点というのは何カ所ぐらいできるんでしょうか。また、先般の5月8日の大津の事故も交差点で起こったわけですけれども、交差点での安全対策というのは何か考えていらっしゃるかどうか、この辺もお尋ねしたいと思います。

もう一つ、ポンプ自動車についてでございますけれども、先日、東桜谷におきまして防災懇談会がございました。ここに分団長さんをはじめ幹部の方々がお越しでしたので、ちょっとこの件についてお尋ねしておりましたら、カーナビをつけたいと。それともう一つ、今、課長がおっしゃっていらっしゃったサーチライトといいますか、ライトをつけたいということでございますけれども、当然、最近若い方々が運転される中で、なかなか字の中の細かいところまで道が分からない、住所を聞いてもそれがどこら辺か分からないという方もいらっしゃいますので、カーナビをつけるというのは最近、多くのポンプ自動車が行っていらっしゃると思いますので、あとサーチライトもほとんど自動車では要ると思いますので、こういったところも一緒に見ていただくということができないものでしょうか。これは別に各戸の4,000円の寄附が高いとか言っている意味じゃございません。これは必要なものだとも私も思っております。ですけれども、年間を通してほとんどボランティアで活躍してくださっております消防団員の方々に慰労というのも必要になってまいりますし、あらゆる面でやっぱりサポートもしていくべきやと思いますので、ナビであるとかサーチライトの方も公費で見ただけなら、こういう寄附が少しでもそっちへ回していただけるんじゃないかなと思うんですけれども、この辺、いかがでしょうか。この点についてもお尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 町道西大路鎌掛線の全線開通後の交差点の対策ということで再質問いただきました。

交差点につきましては、始点、終点に大きな交差点、それから道中につきましては、例えば青葉台へ入るところであるとか、幾つか農道との交差点等もあると思いますので、幾つか交差点はできてくるかとは思っております。

交差点の安全対策につきましては、基本的にはそれぞれの交差点の規模や交通量によって基準がございますので、その基準についてはいわゆる道路管理者としては当然、基準に合わせた形で整備をせんなんというふうには考えておりますが、今後、大津の事故を受けてその基準が変わってくるとなると、その基準に合わせた形で整備になるかというふうに思います。特別にそれ以上の整備ということについては、現段階では考えておりません。

議長（杉浦和人君） 総務課長。

総務課長（藤澤 隆君） 議第47号に再質問いただきました。

ポンプ自動車に係ります装備に関しましては、標準的なものを決めていって、それで町で入札をしようというように決めておりました、幹部会でそれはもう、日野町の標準というものを決めております。その中で、カーナビについては、町内ではほとんどが活動するポンプ自動車でございますので、余り議論の対象にはなっていないということと、後で寄附でつけられたところも第3分団ぐらいというところがございます。余りそう議論になっていないというところがございます。

それと、ライトにつきましては、標準で一定ついているということで、これも余り、そこにさらにとというのは、今のところ標準としては考えておられないんですけども、ここは分団分団でいろいろお考えもあると思いますので、一度幹部会の中で、地域によって違うんだと、地形とかによって違うというようなこともあってというような議論を、一度幹部会等でしていただいた中で、標準を見直すという作業を、もしもそれが必要ならばしていきたいなというふうに思います。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） もう1点だけ、ちょっと再々質問させていただきたいわけがございますけれども、西大路鎌掛線についてでございますけれども、幾つか交差点はできると思うというご答弁をいただきましたので、ということは、今現在、交差点の数というのは確定はしていないということでございますでしょうか。それと、この歩道というのは自転車も通行可の歩道になるのでしょうか。その辺をちょっとお尋ねしたいというふうに思います。

というのは、確かに大津の事故のあった交差点から見ますと、交通量も歩行者量も少なくなるとは思いますけれども、その分、地形的にも飛ばしやすいという道にもなるかと思っておりますので、走っている車の速度は大津の大萱の交差点より速いというふうに私は思います。もしも何かあったときには、同じようなことが起こったら突っ込んでくるのも速い速度で突っ込んできますと、あれよりも大ごとになるんじゃないかと。一応、基準は満たしているということでもございましたけれども、大津の大萱の交差点も基準を満たした交差点でもございましたけれども、あのような事故が起こっておりまして、今現在、先日伺いましたら、現場ではフェンスをつくるための工事をやっていらっしゃる最中でもございました。基準の上にああいったことを今、していらっしゃるわけですがけれども、この辺についてはいかががお考えか、再度お尋ねしたいと思います。

また、消防ポンプ自動車につきましてはもう、質問はいたしませんけれども、やはり作業をしてくださる、消火作業であるとか訓練をしてくださる消防団員の方々の安全というのも必要になってくるかと思っておりますので、そういった意味ではやはり少しでも明るい方が作業もしやすいですし安全にもなるかと思っておりますので、サーチライトの要望などがもし今後、初期段階でありましたら、今回でも2,400万円の町

費なわけですけれども、そこにナビが加わったりサーチライトが加わる分というのは、何百万も増えるわけじゃございませんので、今後そういう要望がもしございましたら、ぜひご対応いただきたいというふうに、これは要望ですけどお願いさせていただきます。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 後藤議員より再々質問いただきました。

まず、歩道は自転車も通れるかということでございます。基本的には自転車の通行も可というように認識をしております。

それから、交差点の数はしっかり把握してへんのかいなということでございますが、基本的に最終的に全て実施設計が終わって法線が確定しているわけではございませんので、それぞれ農道との交差点なんかはまた、幾つか増えてくるかと思っております。大きなところではいわゆる青葉台なり五月台に入る交差点等々がございまして、その辺についてはほぼほぼ把握はしておるんですけども、細かいところまでは把握できていないということでございます。

当然、安全対策につきましては今、いろいろありますけれども、現段階では基準以上のことについては、何遍も申しますが、それ以上の整備については今のところ考えてはおりません。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） もう質問はできないわけですが、消防ポンプ自動車についてはもう結構ですが、西大路鎌掛線につきましては、要望でございますけれども、先ほどお話ししましたように、基準を満たした交差点であっても大津のような事故がやっぱり起こるわけでございますし、特に五月台など、子どもさんたちもいらっしゃる場所でもございます。歩行者あるいは自転車ということは考えられますので、ぜひ基準がこうであるからというだけじゃなくて、やはり子どもさんの命、また歩行者の命、自転車の方の命、非常に大事でございますので、基準を超えてでもしっかりこういったものを守っていただけるよう対策をとっていただければ、要望の方をさせていただきます。

議長（杉浦和人君） ほかに質疑ございませんか。

5番、堀江和博君。

5番（堀江和博君） おはようございます。

それでは、私からは大きく2点について質問をさせていただきます。

まず、1点目でございますが、議第47号、財産の取得について、日野町消防団消防ポンプ自動車について質問をさせていただきます。

先ほど来でございますので、重複の部分は割愛をさせていただきますが、今回、第2分団のポンプ車ということですが、1点目にスケジュール的な部分、納車がいつ

ごろなのか、また入魂式やいつから使用されるのかというところが分かりましたらお教えいただければと思います。また、今回の購入で現在使っている車が交換というか役割を終えるということだと思いますが、そのポンプ車、今使っているポンプ車の行き先といいますか、そのまま廃車になるのか、どこかに販売されるのか、下取りになるのか、そのあたり、もし決まっておりましたらお教えいただければと思います。

大きく2点目につきまして、議第49号、令和元年度日野町一般会計補正予算（第2号）につきまして、民生費、児童福祉費、保育所認定こども園費の公立保育所運営事業について質問させていただきます。無償化に伴うシステム改修とのことですが、どういったシステム改修をなされるのか、その詳細の部分をお教えいただければと思います。

議長（杉浦和人君） 5番、堀江和博君の質問に対する当局の答弁を求めます。総務課長。

総務課長（藤澤 隆君） 堀江議員より議第47号のポンプ自動車についてご質問いただきました。

1点目は、納車のスケジュールでございます。工事契約につきましては、最終の納品日が、来年の3月になっているわけでございますけれども、今、業者等と協議する中では年内の12月の頭にはもう、きちっと納車ができているというような見込みであります。ですから、地元の方で入魂式等は年内に開催できるというような予定で、ほぼほぼ地元さんの要望どおりのスケジュールでいけるのではないかと見込んでいるところでございます。

それと、現在の車の下取りの関係でございます。下取りということで、下見をしていただいて今回、入札に入っていたいただいたというところでございまして、まだ業者との、下取った車の活用方法は決まっていないというところでございますけれども、これまでの例でいくと、解体をしまして中のポンプなんかの部分の装置を使ってテスト用に使ったり、またうまく希望と合えば、企業さんで企業内の消防団等をつくっておられるところに中古品として出すというようなこともあるわけですが、ほぼほぼ最近では会社の方で解体をして、必要な部分でのテスト用に使うというような内容でございました。

議長（杉浦和人君） 子ども支援課長。

子ども支援課長（宇田達夫君） ただいま議第49号、一般会計補正予算（第2号）につきまして、公立保育所運営事業についてご質問をいただきました。

システム改修の中身ということでございます。これにつきましては、無償化に対応する業務ということで、まず3歳以上児の無償化への対応、またゼロから3歳児についても非課税世帯の無償化への対応、そして実費徴収の部分で、給食費につい

て、保育園について3歳以上、実費徴収をするわけですが、それについてのシステムの追加ということでございます。それと、周辺の関係整備といいますか、セットアップ業務というようなものが含まれているところでございます。

議長（杉浦和人君） 堀江和博君。

5番（堀江和博君） 1点だけ再質問させていただきます。

ポンプ車につきましては了解をいたしました。どうぞよろしく願いいたします。

もう1点の、無償化に伴うシステム改修ということですが、大体理解をさせていただいたわけですが、今回、無償化が急遽昨年度に決まって、準備等、非常に大変だったかと思いますが、ちょっとざくっとした質問ですが、無償化に伴う準備等は順調に進んでおられるのかということをお聞かせいただければと思います。それに加えて、無償化ということが決定して今年度、応募者に変化、数等、変化があったのか、また来年度も含めると今後、変化が見られる兆候があるのか等、そういったことが分かりましたらつけ加えてお教えいただければと思います。

議長（杉浦和人君） 子ども支援課長。

子ども支援課長（宇田達夫君） 無償化についてでございますが、準備については現在、順調に進んでいるというふうに思っております。あとはシステム改修が順調に進むということが何より重要なことというふうに考えております。また、まだ詳細について来ていない部分もあるところでございまして、来週の20日に京都の方で、滋賀県と京都府全体を対象に国の方から直接説明があるということで、そんな中で最終、詰めていきたいなというふうに思っております。また、応募の状況ということでございますが、この令和元年度に向けて昨年10月に募集したときに、実は3歳の応募が少し幼稚園から保育園の方に1割程度振れてきたということで、それについての対応については、必佐の預かりについて例年より十数名増えるということで対応ができた。それと、0歳児の子が多かったということで、これについては個別にご相談をさせていただく中で、育休の延長などで対応できてきたというふうに思っております。

来年度に向けては、一段と拍車がかかってくるのかなというふうには思っております。既存の施設などを有効利用しながら待機児童を出さないようにしっかり取り組んでいきたいなというふうに思っております。

議長（杉浦和人君） 堀江和博君。

5番（堀江和博君） 準備等、対応等、大変な部分あるかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

議長（杉浦和人君） ほかに質疑ございませんか。

4番、加藤和幸君。

4番（加藤和幸君） 議第46号、工事請負契約、日野小学校のトイレ改修工事につい

て、お聞きいたします。

和式の大便秘器を洋式化するという事で、学校なんかの場合、どうしても和式のものを洋式化するとスペース当たりの面積が広がってくると思うんです。そのままの大きさでそのまま改修工事をすると、どうしても窮屈になってしまうんじゃないかという懸念がございます。大便秘器の数が28というふうに聞いておりますが、それについては現状のままなのか、そのあたりをお知らせ下さい。

それから、工期につきましては、先ほど中西議員が聞かれたことで大体、分かりましたけれども、その間に登校してくる児童、夏休みといっても全然皆無ではないと思いますので、その間に登校してくる児童はどのような形で利用していけばいいのか、その2点についてお伺いいたします。

議長（杉浦和人君） 4番、加藤和幸君の質問に対する当局の答弁を求めます。

教育次長。

教育次長（望主昭久君） 加藤議員から議第46号の日野小のトイレ改修についてご質問、頂戴をいたしました。

和式便所から洋式便所にかえますので、数につきましては小学校ですので、その数は確保したいというふうに考えております。ブースにつきましては、方向が若干変わりますので、今の和式のところにある建具も少し変えますので、そこは若干洋式化になった部分で全部、もう少し構造の方も変えたいというふうに思っていますが、基本的に狭い中ですので、それは限られた中ですので仕方がないのかなというふうに思っております。

そして、工程の方でございます。日野小学校は2階建てになっておりますので、各全ての箇所を一斉に取りかかるわけでもございませんので、できたところから使えるような状態で、供用開始をしながらさせていただきたいと思っております。また、夏休みですので、そう重なることはないかなというふうには思いながら、そのような扱いでさせていただきたいというふうに考えています。

議長（杉浦和人君） 加藤和幸君。

4番（加藤和幸君） ご答弁、どうもありがとうございました。基本的に分かりましたけれども、どうしても1ブース当たりのスペース、狭くならないように、その辺、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、今後の改修について、先ほど奥平議員の方からありましたように、屋外トイレ、それから体育館のトイレについても、できるだけ早急にまた改善をお願ひしたい、これはもう要望という形でお願ひをしておきます。

議長（杉浦和人君） ほかに質疑ございませんか。

1番、野矢貴之君。

1番（野矢貴之君） こんにちは。ありがとうございます。

私としては、住民という立場で、住民にとって分かりやすい言葉で変えさせていただく質問をしたいと思っております。よろしくお願いします。

議題としては45号と49号に係りまして、西大路鎌掛線についての質問をさせていただきます。

この道路につきましては、今からかかるというものではなくて、既にかかっている道路ですので、一般的には常に予算がついて、あるスケジュールに沿って動いているというふうに思われています。今回の議題についても、45号という先に改良工事の請負契約がありまして、49号で補正予算がついている順序でございます。つまり、もともと工事の予定はあって、そこに補正予算というものがついておりますが、よく聞かれるところで、この道路は結局いつどうなるんだいということが一番聞かれます。そこについて分かりやすくお聞きしたいのが、補正予算がついたことによつて、もともと補正予算がつく前の計画がありますね。それについて今回、補正予算がつくことによつてどのように変わるのか、どのように進行していくのかということについて、お聞かせいただきたいと思ひます。

議長（杉浦和人君） 1番、野矢貴之君の質問に対する当局の答弁を求めます。建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 町道西大路鎌掛線のいわゆる全体計画についてご質問をいただきました。

当事業につきましては、議員おっしゃるように当然、計画的に進めておりまして、これもアクションプログラムに載った事業でございまして、そのアクションプログラムでいきますと、確か令和4年までの事業のプログラムとして上がっている事業でございまして、これにつきましては、実質工事に着手したのは平成27年やったと思うんですけども、平成27年から鎌掛側から今、工事の方をずっと進めておりまして、西大路側については橋梁を含めた設計の方を今、進めております。計画でいきますと、令和4年ということなので、計画は4年以内に工事が完了するというプログラムに載っておりますので、現段階では令和4年完成を目指して進んでいるというところでございます。

補正により、強靱化対策で補正がついたことによつて何がどう変わったんやということによつてございまして、基本的に補正で交付金を受けたことによつて、簡単に言いますと2年かかると思っていた工事が1年で完了できるみたいなことのイメージかなと思うんですけども、基本的にもう、工事ができる準備をしている区間での交付金でございまして、それを使って予定よりも早く工事が進捗して、思っていた区間については予定よりも早く仕上がっていくのかなというようなイメージでございまして。

議長（杉浦和人君） 野矢貴之君。

1番（野矢貴之君） これ以上質問はいたしません、この補正予算によってまた新たな計画が立ってくるものと思っておりますので、またそれに皆さん、期待をしているところでございます。安全に早くよりよいインフラが整うことを期待して、質問を終わります。

議長（杉浦和人君） ほかに質疑ございませんか。

— な し —

議長（杉浦和人君） ないようでありますので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ございませんか。

— 異 議 な し —

議長（杉浦和人君） ご異議なしと認め、質疑を終わります。

お諮りいたします。日程第2、議第44号、日野町清田財産区管理会財産区管理委員の選任については、人事案件の関係上、討論を省略し直ちに採決いたしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

— 異 議 な し —

議長（杉浦和人君） ご異議なしと認め、これより採決いたします。

議第44号、日野町清田財産区管理会財産区管理委員の選任について、原案のとおり同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

— 起 立 全 員 —

議長（杉浦和人君） ご着席下さい。

起立全員であります。よって、議第44号、日野町清田財産区管理会財産区管理委員の選任については、原案のとおり同意することに決しました。

日程第3 議第45号から議第50号まで（工事請負契約について（町道西大路鎌掛線道路改良工事（その4））ほか5件）について、委員会付託を行います。

お諮りいたします。委員会付託につきましては、お手元に配付いたしました付託表により、総務常任委員会、産業建設常任委員会、厚生常任委員会および予算特別委員会に付託いたしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

— 異 議 な し —

議長（杉浦和人君） ご異議なしと認め、お手元へ配付いたしました付託表により、総務常任委員会、産業建設常任委員会、厚生常任委員会および予算特別委員会に付託いたします。

ここで昼食のため、暫時休憩をいたします。再開は1時30分から行いますので、よろしくご参集をお願いいたします。それでは暫時休憩いたします。

— 休憩 1 1時19分 —

— 再開 1 3時30分 —

議長（杉浦和人君） それでは、再開いたします。

日程第4 一般質問を行います。お手元へ印刷配付の一般質問通告表に基づき、順次発言を許可いたします。

議長（杉浦和人君） それでは、8番、山田人志君。

8番（山田人志君） それでは、事前の通告に基づきまして、これより一般質問をさせていただきます。

はじめは、議会に対する認識についてということですが、今年3月、彦根市議会で当初予算が否決されるという、思いようによっては結構大胆な結果が出ていました。ただ、彦根市議会ではその前に庁舎の耐震化とか国体会場の事業費の大幅増に関する議論、それに前後して市長に対する辞職勧告決議案とか不信任決議案も出たんですかね。いろいろあった中での結果なので、一概に予算の否決に対するよしあしと評価はできないんですが、とりあえず、でも議会の存在感を再認識できる1つの出来事ではあったのかなというふうには思っています。

一方、日野町議会に目を転じると、私は町議会議員として1期4年間経験させていただきましたが、日野町議会には何か独特の空気や特殊性があるのかなというふうに感じていまして、その結果で議会の存在感が薄まってはいないかという心配もちょっとあります。

そこで、第17期が始まる最初の一般質問として、執行側の町議会に対する認識、それからあわせて町政に係る私自身の立ち位置ということも含めて再確認の意味も含めて、一問一答方式でお聞きすることにしました。

こういうテーマで質問をさせていただくのはちょっと申しわけないという気持ちもあるのはあったんですけども、今期最初の一般質問ということですので、はじめに思っていることを言っておきたいし、それに対して町長が思っていることも聞いておきたいという趣旨ですので、どうかお許しいただいてお付き合いいただきたいというふうに思います。

はじめに、この4年間の中でこの町議会の中で与党、野党という言い方を何度か耳にしたことがあります。さすがに本会議とか委員会の公式の席上でこそありませんけれども、その前後には何回かそういう話を聞いていまして、議員内閣制であるならば与党、野党というのが結構はっきりするんですが、二代表制で果たして与党、野党というのがあり得るのかと。これは一般論としてよく議論になる話ではあります。

そこで、まず一般論で町長にお聞きするんですが、二代表制で与党、野党というのがあり得ると思っておられるでしょうか。

議長（杉浦和人君） 8番、山田人志君の質問に対する町長の答弁を求めます。町長。

町長（藤澤直広君） 山田議員から、議会に対する認識ということでご質問がありました。

今、ご指摘のとおり、国会の場、議員内閣制の場においては与党、野党ということが言われるわけでございますが、地方議会におきましては、知事や市町村長は直接選ばれる二元代表制となっておりますので、地方議会においては与党や野党という関係というのは当てはまらないのではないかと考えております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 二元代表制のもとでは与党、野党というのはないという町長のご認識ということを確認させていただきました。

そこをもう少し掘り下げていきたいと思うんですが、二元代表制の場合であっても与党、野党が存在する場合があるかと思うんです。それは大統領制の国がそうやと思うんですけれども、大統領制はまさに二元代表制なんですけれども、その場合は大統領の候補者を政党が選んで出してはりますので、仮に二大政党、二大勢力の場合、それぞれが候補者を出して、その結果で勝った、負けたができれば、勝った方が与党、負けた方が野党ということになるかと思えます。

地方自治体ではなかなか、そういう政党が選んで候補者を出すと、首長の候補者を出すということが実際、ないと思うんですが、町長自身がどういう経緯で最初、町長に出馬されたかというのは余り経緯は知らないんですけれども、恐らくどこかの政党から、あるいは会派から選ばれて出馬されたわけではないと思うんですけれども、そういうことでよろしいでしょうか。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 大統領制のもとでも与党、野党はあるのではないかということではありますが、おっしゃるとおりアメリカやイギリス等においては二大政党制というような雰囲気があります。事実上、労働党と民主党だったかちょっと忘れちゃったけれども、だからそういうところへそういう使われ方がしているのではないかと思います。厳密に与党、野党という言葉が何かで法的に定義されているわけではございませんので、受け止める方それぞれがそれぞれに使っておられるのではないかと考えております。

私がこの職につかせていただいた経過は、町民の皆さんが既にご承知のとおりであります。平成16年、合併をめぐる住民運動の中で、日野町の合併を強引に進めてほしくないという思いの中で運動が広がり、その中で私が立候補させていただいたという経緯は、多くの町民の皆さん、ご承知のとおりでございます。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 分かりました。一方、議員の方も、日野町議会の議員の多くは政党会派から選ばれたというわけではないので、そういう背景からいうと、日野町議会には与党、野党という関係は成立しないのかなと思っています。したがって、余り安直に与党とか野党とかいう言葉は使うべきではないのかなと思っているん

ですが、基本的にこの辺は、町長、ご賛同いただけますでしょうか。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 先ほど申し上げましたけれども、与党、野党という言葉は別に法的根拠のもとで使われている言葉ではございませんので、誰がどのように使われるかは、その人がそれぞれ思いの中で使われることですので、私が使うとか使おうとかいうようなことを決める立場ではございません。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 町長の考えは分かりました。私はそれでも、余り使うべきではないかなという気持ちではあります。ということは申し添えておきます。

町議会の場合は二元代表制ということではあるんですが、その中で議案の提出権は町長にございます。もちろん議員提案というのものもあるんですが、多くは町長から提案されます。そのために、議員が自らの思う政策実現あるいはその他の理由で、特定の施策、政策に対して町長を応援するということはあり得ると思うんですけれども、ところが日野町議会の場合は、与党、野党という表現が出てくるくらい、聞かれるくらい、その固定化が強いのかなというふうに感じています。その結果で、どうも分断・排除の論理というのがほかの市町の議会よりもきついという特徴があるように感じっていますが、町長はそのように感じられたことはありますでしょうか。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 議会運営の中での分断・排除の論理というご質問の定義自体が分からないので、答えられないところです。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 感じるかどうかをお聞きしただけですから、感じるかどうかだけ答えていただければよかったですけれども。

次、行きます。

町議会の場合は国とか県とは違って、会派別の控室があるわけではないので、1つのところにいますので、普段はみんな仲よく和気あいあいとやっているんですが、たまに、ごくたまに微妙な空気を感じる時があつて、それは私だけではないと思うんですね。

関連で町長に伺うんですけれども、日野町議会は1年前に議会だより、議会の広報を発行するようになりました。それまで県内で議会広報を発行していないのは唯一日野町議会だけやという話を聞いていたんですけれども、なぜ発行できなかったと町長は思っておられましたか。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 議会だよりの発行をするかしないかについては、議会の中で議論をされたことでありますので、私が発行をすべきだともすべきでないとも言った

ことはありませんので、なかなか答えようがない質問です。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） これも発行の是非について町長の意見を聞いているわけじゃないし、町長は何で発行できひんかったと思ってはったのかなということを率直に聞いているだけですから、多分、この調子でいけばずっとこんな調子でこの質問は進むのかなとは思いますが。

私は、議会広報が発行できない理由としては、表向きは例えば議員とか議会事務局に負担がかかってなかなか大変やという声があったのはあったんですけども、どちらかというとなんか本当の理由というのは、負担とかということじゃなしに、どちらかというとなんか町長を日ごろ日常的に応援されている方からのそういう声が多かったんですけども、その背景で聞いても多分、お答えは一緒ですね。一応、念のために聞きます。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 議会の中で議論されて決められたことについて、私が関与していないことについてどうなのかと言われても、答えようがないということです。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） さっきと同じ話で、議会の議論のことについての評価を聞いているわけじゃないし、率直にどう思ってたかという話を聞いているだけのことです。さっきも言いましたけど、多分このまま進むのかなと思いますので、進みます。

議会だよりの件で理由を考えるのに、例え話ですけども、国会で各政党から代表者を出して、広報委員みたいなものを出して、国会だよりの出そうかといった場合に、果たしてどんなものができるのかというのを想像してみたら分かると思うんです。恐らく想像できないですね。日野町議会の広報の話も一緒に、多分想像できないからなかなか発行できなかったんやと思うんですね。簡単に言えば、結構分断という論理がきつい日野町議会の中で、果たして1つの紙面でどうそれをまとめることができるのかと、なかなか想像がつかないということで発行できなかったんじゃないのかなと思っています。もちろん、それぞれの人の心の内までは分かることはありませんが、少なくとも私は想像はできませんでした。

それでも、1年前に発行にこぎつけたことについて、何とか発行できたんですけども、発行したことについては評価はしていただけますでしょうか。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 議会の判断のもとで発行され、税金を使って発行されているのでありますから、よりよいものを発行されることが望ましいのではないかと思います。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 議会だよりが発行できたのは、結果的には議員全員がこの辺ならいいだろうということで妥協したからですね。妥協したということはある意味民主的でもありますし、一定の評価はできると思うんですが、ところがもう一方で、妥協をしたことによって本当の町議会の姿を伝えていないという問題が残ったのかなと思います。具体的に言うならば、委員会で結構ひりひりしたやりとりとか、その姿は伝えていないという問題は残ったかなと思っています。同じことについて、年に2地区でやっています議会報告会についても同じような問題は感じてはいません。

今、分断・排除の話、議会の中での分断・排除の話をしているんですが、多様な意見や考えを持つ議員が集まって議会をやっているんで、さっきも言いましたが、政策に対する議員の意見の違いから政策ごとに、あるいは議案ごとにある程度、分断ということがあり得るのは致し方がない、必ずしも否定するものではないのかなと思っています。問題は、その分断・排除の論理が固定化されて、逆に個々の議員さんの意見が表面に出てこなくなって、結果、それが議会の存在感を薄めることにつながるのが心配なんですけれども、まずは一般論として、こういうことについて町長はどう思っているのでしょうか。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 先ほども申しましたが、議会の中での分断・排除の論理ということ自体の定義が分からないので、私が答えることは難しいです。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） じゃ、ちょっと質問を変えますけれども、町議会で結構賛否が割れる場合というのものあるんですけれども、その場合の傾向をちょっと考えてみたいと思うんですが、町議会の賛否が割れる場合は、その数は一定ではないということとは当然、町長は意識しておられると思うんですが、いかがでしょうか。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 質問の意味が分かりません。もう一度お願いします。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 議会で賛否が割れる結果になったときに、その賛否の数、何対何というのは必ずしも一定ではないというのは、町長は当然ご存じやと思うんですけれども、それは意識されているのでしょうかということを知りたいんですけど。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） それぞれの議員の皆さんがそれぞれ選ばれてこの議場にお見えでございますので、それぞれの議員の方がそれぞれのご判断をされるというふうに思っております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） おっしゃるとおり、それぞれの議員が判断している結果なんでしょうけれども、結果としてはばらばらのときがあります。例えば1年前の6月議会を思い返してみますと、賛否の割れた議案って3つあったんですけれども、それが例えば7対5とか8対4とか、結構結果が割れていたんですよね。さらにはその内訳で見ると、無記名のやつは分からないにしても、会派の中でも賛否が割れている場合があります。ただ、その内訳でいうと、必ず同じ行動をされるグループと、それからもう一方はそうでないグループというふうに分かれていたのかなというふうに思います。

その実態からいうと、先月、地域の情報紙さんが新しい議会の記事を書かれまして、その中で与党会派と是々非々会派という表現をされていたんですけれども、町長は読まれましたでしょうか。もし読まはったら、その表現というのはどう感じられましたでしょうか。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 目を通させていただきましたが、ああ、そういう見方もあるのかなというふうに思いました。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 結構辛抱してもうちょっと続けていきます。せっかくの質問ですから。

日野町議会の会派の話だったんですけれども、会派といっても勉強会ですから、そんなに拘束力がない、単なる勉強会グループだということだと思んですが、特定のグループが固定化されて、そこで分断・排除というのが起こってしまうと、せっかく14人の議員がいるのに多様な考えが表に出てこなくなるということがあるんです。その結果、議会の存在感を薄めてしまうということにつながるのではないかなと思うんですが、具体的な日野町議会の話ということで、もうほとんど町長のご答弁は予測できますけれども、一応、お聞きしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 質問の意味、もう一度お願いします。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 先ほどの、仮に与党会派と是々非々会派という見方があるとなれば、片方、固定化されているグループもあるということで、固定化されることによって、町長がさっきもおっしゃった多様な意見が出てきにくくなるんじゃないかという心配があって、それが議会の存在感を薄める結果につながっていくんじゃないかということもあり得るかと思うんですが、どうでしょうかということを知りたいです。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 昨年、与党会派と是々非々会派というふうにな日野新聞が言ったか分かりませんが、私はそういう見方もあるのかなと言ったのであって、それを是としたわけではありません。現実に日野町議会の会派構成においては、例えば今期、前の会派ですともう、何ぼでも会派の名前があったわけでありますので、それぞれの方々、それぞれの判断をされておりますので、そういうふうにごつちごつちというふうには評価する書きぶりというのは、会派構成という言葉からいとなじまないのではないかなと思いますが、そういうふうに見えることがどうなのかということ、それはそういう見方をされておられるんだなというふうには思いますが、大事なことは山田議員おっしゃったように、それぞれの議員の皆さんが住民の付託を受けてこの場におられるのでありますから、自由闊達な議論を通じて自らの思いや態度を示され、そしてそれが住民の皆さんに分かりやすい形で見えることが民主主義の大事な点なのではないかなというふうには思います。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） もともとこの質問のテーマって、町長とやりとり、やり合いをするつもりで設定したわけではないんですよ。今、まさに最後の方におっしゃっていただいた、それぞれの議員が自由にもっと自分の意見や考えを表に出していくべきじゃないかという感想をいただきたいなということで、そういう思いで設定したテーマですので、ようやく最後の方で言っていただいたのかなというところで、この辺の一連はちょっと終わって、ちょっと話を変えたいと思うんですけども、議会の中での質疑、一般質問ということなんですが、本会議場での質疑応答の後の対応協議などが現在、ほとんど見られません。昨年、一般質問についてという一般質問をさせていただいたときに、議会が終わるごとの検証作業をやっていないと。以前はやっていたのが今はやっていないということでもありますので、そうしたことで質疑や一般質問が、執行側でもそうかもしれんし議員側でもそうやと思うんですが、何かセレモニー化しているんじゃないかなという気がしてならないです。

そこで、町長にちょっとお考えをお聞きするんですが、議場での質疑や一般質問を議会後の政策論議につなげていくように、続いていくようにする、何かそういうお考え、アイデアというのはありますでしょうか。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 議場の中で、さらには委員会の中でいろいろな議論をいただいておりますので、それぞれ所管する課長ならびに職員がそれを受け止めて、それ以降の行政執行に役立てるといのは当然の役場職員の役割であるというふうに思っておりますし、そのことは現在においてもこの執行体制のもとで職員の中で共有をされている考え方であるというふうに思っておりますので、皆さんからいただい

たいろいろな意見についてはできるもの、できないもの、ああ、そういう意見もあるなということも含めて、職員は私も含めて受け止めさせていただいているということで、その後の施策運営に反映をさせているというところでございます。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 今ほどのようなご答弁は、昨年3月議会のときにご答弁いただきましたので、同じことを言っていたらと。そういう意味ではぶれない姿勢というのは評価させていただきたいというふうには思います。

次に、議会での決議ということなんですけど、12月議会で決議に対する町長の認識をお聞きしたんですが、真摯に受け止めると言っていたらと。その一方で、できないことはできないというご発言がございましたが、町長は議会ができないことを議決しているというふうに認識しておられるのでしょうか。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 当然、決議がされるというのはそういう意向があるということでは承知しておりますので、真摯に受け止めるというのは当然のことだと思っております。しかしながら、いろいろな施策を講じるに当たっては当然、財政的な措置も必要となりますし、いろいろなバランスも必要となりますことから、必ずしも直ちにそれを実行するということが、執行に当たっては執行の責任は全て町長にあるわけでありまして、私の責任において執行できないものについては、できないものはできないというふうに考えております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 町長の執行権においてできるかできないかというよりは、するかしないかということだと思っておりますけれども、このことについてご答弁は要りませんが、するかしないかじゃないかなということはお認識いただければなというふうに思います。

もう、なかなかからちがあかない質問になってしまいましたので、ちょっと最後に、今度は議員のまちづくりへのかかわりについてちょっと伺いたいと思うんですが、日野町では議員がまちづくりにかかわってはいけないような、ましてや先頭に立ってはいけないような、ちょっと不思議な空気を感じる場合もあるんですね。町長はそうした空気は感じておられないですか。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） まちづくりという言葉の概念自体、なかなか定義がないものがございますので、いろいろな場面でまちづくりという言葉は使われるわけでありまして、私はそれぞれ議員はもとより町民の皆さんも含めて、いろいろな分野でいろいろな立場で団体、個人も含めて縦横無尽に縦横斜めに多くの人たちが自分の思いを持ってまちの活動をつくっていく、参加していくということは大変望ましいことで

あるなと思いますので、別に議員がしたら参加すべきでないとか、議員が先頭に立つべきだとかいうことじゃなくて、それぞれの住民の皆さんがそれぞれの課題について大いに活躍していただくことは大変いいことなのではないかなと思っています。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 今、議員であつてもなかつても、かかわることが町民の1人として望ましいというご答弁でしたので、それは今日の1問目の質問の1つの成果として受け止めさせていただきたいというふうに思います。

いや、何でこの話を聞いているかといいますと、以前にその理由を聞いたことがあるんですけども、議員は予算の議決にかかわって、その前段階で余り事業や施策にかかわったらあかんのやと、好ましくないんやという話を聞いたことがあるんですけども、もちろん予算、補助金とか受ける事業主体の代表者であれば利益相反というのは気をつけないかんですけれども、そうでなくて議員が地域活性化、今も町長がおっしゃっていたとおり、地域の活性化とか産業振興とか、先頭に立って呼びかけるということが何の問題なのかよく分からんなという思いでは聞いていました。そういう考えでよろしいですね。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） どなたがどんな発言を山田議員にされたのか、私は分かりませんが、議員がそれぞれの分野でいろいろな活躍をされることをおかしいというようなことは誰も思っておられないんじゃないかなというふうに思いますし、私がそういうことに対してお墨つきを与える立場にもございませぬので、山田議員はじめ、いろいろな議員各位もいろいろな分野でご活躍されることはいいことなのではないかと思いますが、それが町長答弁だからどうなのかというようなものではないと思います。私の個人的な一般論として、議員が分け隔てなく、別に住民の一員としていろいろな団体、個人としていろいろな分野で活躍されるということは、普通、社会通念上、当然、結構なことやということになるのではないかと思います。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） この場で一般質問、本会議場でやっている限り、個人的な意見ということやなしに、ここでのご答弁は町長としてのご答弁やというふうに受けさせていただきたいというふうには思います。議事録で（ここは個人的意見）ということになるわけではないでしょうから。

1問目はもう、これ以上続きません。私はまちづくりにも、先ほど来感じている分断とか排除の論理がちょっと影響しているんじゃないかなと感じるときがあるから、こんな話をしているんですが、そもそも政治の世界で分断・排除の論理というのが生まれるのは、1つの体制を確立して、それを続けようと維持しようとする

場合、どうしても情報を統制しようとするので、そこから生まれるものだという
ことだと思っているんです。1つの町にそのような影響があるとすれば、その中で
ある議員活動は結構息苦しいことになると思います。

今、結構この雰囲気も息苦しいなと思いながらやりとりはさせていただくんです
が、と同時に議会運営も閉塞感を感じるようになるのかなというふうに思います。
日野町がそうでないことを願うとともに、もし今後、議員活動に息苦しさを感
じて、あるいは議会運営に閉塞感を感じるようなことになれば、私の議員としての
今期の活動は、次の世代の人たちのためにもそこを何とか打破していくという
ような活動になるのかなと思っていることを申し添えて、1問目は終わらせて
いただきます。

じゃ、2問目は町の伝統を守るとはどういうことかというテーマで質問させて
いただきます。

町内で日野町はどんな町ですかということをお聞きすると、伝統のある町である
とか伝統を守る町というふうに答える人が少なからずいらっしゃって、伝統を守る
ことが町の特徴の1つになっているのかなというふうに感じる場合が多いです。
ところが、伝統を守るということは具体的にどういうことなのか、概念がはっきりし
ませんし、政策的に伝統を守るという方針が明確に打ち出されているわけでもあり
ませんので、なかなか、じゃ伝統を守るってどういうことというのははっきりしな
いところがあります。そうした中で、少子高齢化というか、もう近い将来、少子超
高齢化ですけれども、なったときに、町内のさまざまな伝統が消滅に向かい、近い
将来に日野町は伝統を守る町と言われなくなるのではないかなというふうに危惧
します。

そこで、文化的な資源ということだけに限らず、町に残っているさまざまな伝統
の現状を分析、整理するとともに、伝統ということに限らずさまざまな政策の方向
性を見出すきっかけになればと思って、一問一答方式でお聞きすることにしました。
なお、伝統といっても広くとればすごく広い話になってしまうので、ここでは伝統
行事、それから暮らしの中で見る伝統、それから産業分野に見る伝統という3つの
分野に分けて、それぞれ二、三点ずつポイントを絞ってお聞きしたいというふ
うに思います。

まず、伝統という言葉でまず想像できるのは、無形の文化財でもある祭礼行事か
なと思うんですが、日野町にはユニークな祭礼行事が本当にたくさんあって、主
には神社の祭礼なんですけれども、ほかには野神さんとか山の神さんとか、もとも
と日本にはさまざまに八百万の神がいらっしゃって、いろいろな祭礼行事があり
ます。そうした祭礼行事は、ずっと受け継がれてきた今の形というのをずっとこれ
から先も守っていくべきなのか、いやいや、変えていく部分があってもいいんじ
ゃないかと。守っていくにしても変えていくにしても、その場合、それぞれ何が
課題になる

のかということについて、教育長のお考えをお聞きしたいというふうに思います。

議長（杉浦和人君） 教育長。

教育長（今宿綾子君） 山田議員より、伝統行事として神社等の祭礼についてご質問をいただきましたので、お答えいたします。

祭礼につきましては、豊作ですとか地域の安全を願って地域の人々が代々受け継いできた伝統行事でございます。町内の各地にも数多くの祭礼が伝わっているところでございます。この祭礼というのは、地域固有の歴史ですとか風土が息づいた文化でありますので、古来より地域を活性化させる役割を果たしてきたものというふうに考えております。その意味で、祭礼を継承していくということは、その地域にとって意味のある意義深いことであるというふうに考えているところでございます。

しかし、祭礼の多くは長い時代の変遷とともにその姿、形を少しずつ変化させてきております。またさらに、現在では生活習慣の変化ですとか少子高齢化に伴いまして、祭礼を従来の形のまま受け継いでいくのが困難な状況になっていると。こうしたことが現在においての課題になっているというふうに考えております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 祭礼行事を50年とかそれ以上の長いスパンで見た場合、ほとんど変わっていないなと思うところがあっても、それ以上の期間で見れば、結構細かいところで変わっているのかなというところが見受けられるかと思うんですよね。それは今、教育長がおっしゃっていただいたように、なかなか同じ形で続けていくのが困難やという理由もあるんだと思うんですが、町内の重立った祭礼について、どこの部分がどういうふうに変化してきたのかということは、例えば生涯学習課では把握しておられるのでしょうか。

議長（杉浦和人君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（吉澤増穂君） ただいま山田議員さんの方から祭礼についての部分が記録されてきたのかということでのご質問をいただきましたが、町内の重立った祭礼につきましては、町史の編さんの中の第6巻、民俗編に係る調査を実施した中で、その内容や変化につきまして把握をしてきたところでございます。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 町史の中でどれぐらい細かいところまで把握されているのかというのはなかなか、ちょっと見えづらい部分もあるんですが、いずれにしても細かく把握していただければ、さっきから言っている何を守っていくべきか、何は変えてもいいのかという基準が全体の中ではっきりしてくるのかなと思いますので、そのような作業は続けていただきたいなと思うのと同時に、1つの例なんですけれども、日野祭の中に神幣というのがありますね。日野祭の神調社とかみこし、曳山に

比べると結構地味な存在でなかなか目立たないんですが、実はその中の大窪神幣が今年の日野祭では隊列が人数が半分になったんですよ。結構大きな変化やっと思えます。ただ、この神幣の歴史をずっと前までさかのぼると、もとは各町内が全部神幣を出していたということです。それをある時期に大窪1本にまとめたと、時期があつたらしいというふうに聞いていますので、結構変化はあるのかなと思いますし、その変化の理由というのは、さっき教育長なりがおっしゃっていただいたように、担い手が不足してきて、合理化のために、省力化のためにやったということの理由が多いようです。

このように、氏子だけで、あるいは集落や町内だけでその伝統を守っていく、祭礼行事を守っていくというのがなかなか、今後縮小して消滅に向かうという祭礼行事もやっぱり出てくるのかなと思っています。そのために、町政の施策の中で伝統行事を守るということを考えなければならない時期に来ていると思うんですが、教育長の考えはどうでしょうか。

議長（杉浦和人君） 教育長。

教育長（今宿綾子君） おっしゃっていただきましたように、それぞれの地域の中の祭礼のあり方につきましては、ここ近年、先ほど答弁させていただきましたような状況もございまして、継続について難しいとか、その内容についてどうしていったらいいかというような協議がされているところもあるというふうに把握しております。その地域の中の祭礼のあり方について、本質的なものはどうなのか、何をしっかり守っていくのかというような点において、しっかり各地域で議論をしていくということが大事ではないかなというふうに思っております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 分かりました。関連でもう一つ教育長にお聞きしたいんですけど、文化庁の施策で歴史文化基本構想というのがあったと思うんですけども、祭礼行事は無形の文化財ということもありますので、若干は関係あるのかなと思うのでお聞きするんですが、日野町でそういう構想をつくっていかうかという計画はこれまであったんでしょうか。

議長（杉浦和人君） 教育長。

教育長（今宿綾子君） 歴史文化基本構想でございまして、このことにつきましては、今年度、平成31年4月に文化財保護法が改正になりまして、この考え方が実質的に、言葉が少し変わりますが文化財保存活用地域計画というものに引き継がれているものでございます。この文化財保存活用地域計画というものにつきましては、過疎化、少子高齢化が進んでいく中で、貴重な文化財の滅失また散逸を防ぐために文化財継承の担い手を確保するという、そしてまた地域の文化財をまちづくりに生かしていくという観点で、地域総がかりで取り組んでいくための制度であるという

ふうを受け止めているところでございますが、当町におきましても多くの無形、有形の文化財を有しておりますので、その重要性というものは認識しております。本年度におきましては、文化庁が主催する研修が幾つかございますので、その研修に参加するなどしまして、どのような方向性があるのかといったことについて情報収集を進めてまいりたいと考えているところでございます。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） よく分かりました。先ほども言いましたように、まずは町の誇りというか魅力として、伝統行事、祭礼行事のどの部分は守っていかなあかんのか、そのためにはどの部分を変えていってもいいのかということ、これは多分、専門的な検証が必要だと思うんです。まずはそういうところから先決ではないかと思っておりますので、その点はよろしくお願ひしたいなと思っております。

日野祭の例でもう一つ、ちょっと申し上げますと、日野祭は伝統としての祭礼行事という部分と、もう一つは近年、イベントという部分が合わさって運営している、運営というような言い方もなじまないかもしれないんですが、そういうところがございます。具体的なイベント部分ということでいえば、宵山がまさにそうなんですが、またそれは広い意味での文化財を使ったイベントということで、余りほかの市町では見ないような珍しいイベントでもあるんですが、生涯学習課にお尋ねしますが、日野祭の中のイベントの部分の目的は何であるというふうに捉えていただいているのでしょうか。

議長（杉浦和人君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（吉澤増穂君） ただいま日野祭の中のイベントの部分についてお尋ねいただきました。

日野祭につきましては、地域の皆さんの力で今年も盛大に催行させていただきました。14基の曳山が巡行して850年を記念して1基が御旅所まで巡行されたところでございます。

先ほど宵山のことでおっしゃっていただきましたが、宵祭りでは恒例のスタンプラリーを日野曳山保存会の方でしていただきました。また、祭りの当日は笠懸の宮横の広場で商工会の出店などもしていただいで、祭りを盛り上げていただいたというところがございます。

これらの部分につきましては、日野町の歴史文化だけでなく商工観光を広く伝えるすばらしい機会になったのではないかなと考えております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 商業観光の機会というご答弁をいただきましたが、結果から見れば余りというか、ほとんど商業観光には寄与しているようには思えないんですけれども、現状の結果でいえば、これは住民福祉じゃないのかなと私は思っています。

それも住民自らがやる住民福祉、平たく言いますと、特に曳山を所有されている町内が、自分たちも楽しむから周りの町民さんも皆楽しんでやということになっているのかなと思います。それはそれで、町が元気になる1つの大事な目的であるとは思っているんですが、それだけではなく、先ほども言いましたように文化財を使ってやっているイベントですので、伝統行事を後世に伝えていくという仕掛けを組み込めるんじゃないかなとは思っているんですけども、生涯学習課はこのアイデアについてどう思っただけですか。

議長（杉浦和人君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（吉澤増穂君） 今、曳山のことについて、使っていけるのではないかなというふうなことでお尋ねをいただきました。

確かに、曳山につきましては指定の文化財の中心をなす部分でございます。これにつきましては今後、保存をしていくためにいろいろ手をかけていくことも必要かなというふうなことも考えているところでございますが、これが住民の皆さんの心の中のものとして、議員おっしゃるような形で使っていけるということであれば、文化財保護法の改正の中での活用の部分ということに使っていけるのではないかと考えております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 先ほども教育長から文化財保護法の改正の話もしていただきましたし、今ほども生涯学習課から教えていただきました。そのとおり、文化財の保護、活用については文化財保護法の改正で、さっき教えていただいたとおり、今は文化財保護活用地域計画になったかと思います。その改正で同時に、その守備範囲というのは教育委員会部局の垣根が多分取っ払われたように私は思っています。すなわち、町長部局でも担当できるようになったという改正であったとは認識しているんですが、そのことの理由が1つと、もう一つは平たく町長は毎年、宵山を見て回っているとおっしゃっているので、ぜひその辺で町長の意見も参考にお聞きしたいと思うんですが、いかがでしょうか。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 祭りは大変すばらしい、850年含めて日野祭は住民の皆さんの力でやっているとありますが、まさに住民の皆さんの心意気と、その力でやっておられて、数少ない町内会においても曳山を維持管理、活用していただいておりますし、また周りの町内会がそれをサポート、応援しておられるということも含めて大変大事な、苦労はたくさんあると思いますが、頑張っておられていて、こういう力が続くことはすばらしいことだと思っております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 町長、質問を聞いていただいていたでしょうか。続ける力のために何か仕掛けがあるんじゃないですかと、町長の考えはどうですかということをお聞きしたんですが。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 今も申し上げましたように、祭りというのは住民の皆さんの民衆の力で営々として築かれてきたものでありますので、その中で自由な議論、そしていろいろな状況に合わせた変更も含めて議論をされていかれるというものであると思います。聞いておりますと、1つの山を出すにあたって、出す、出さんの議論もしながら出そう、いや、出さんとう、こういうご苦勞もされて、私たち、外から見ておると、16基の曳山が出て当たり前かのように思っておりますけれども、決してそうじゃなくて、一つ一つを出す、維持するということが地域の皆さんの真摯な議論の中で続けられ、今日に至っているということでありますので、そういう力が育まれ継承されることが大事であると思っております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 先ほど来、住民にお願い、住民の力で続けていくということになしに、町政が施策として伝統行事を守る時期に来ているんじゃないですかということをお聞きして、教育長もそれに対応するお答えをいただいたということが前提で今、やりとりをしているわけですから、ここに来てちょっとはしごが外れてしまったというようなご答弁をいただいたような感じがするんですが、もう先を続けます。

仮に町政で施策として考えるのであれば、曳山をまず公共財として扱えるかどうか、所有する各町内との合意形成が必要になるかと思えます。その上で、保全保持のための責任分担も多分、出てくるのかなというふうには思えます。いずれにしても、先ほど言いましたように、日野町内のどの伝統行事にしても、日野祭はもちろん、もう町政は眺めているだけでは済まない、能動的に考えなければならない時期に来ているということをもう一度申し上げておきたいというふうに思っています。

祭礼行事は民俗学でハレとケという観念がありますよね。ご存じでしょうか。柳田國男が言っている言い方ですけども。祭礼行事は非日常のハレに当たる部分でして、もう一方、ケの部分、いわゆる日常の暮らしの中にも伝統はあるのかというふうに思っています。

ちょっと話は外れるんですが、昨年、日野地区運営協議会が福井県小浜市のまちの駅を視察されまして、それもちょうと参加させてもらったんですが、そのまちの駅はもともと商業施設の跡地を再開発したもので、ハレとケという両方をテーマにして整備されているんですよね。ハレだけじゃなしにケの部分にもスポットライトを当てておられると。少し驚いて感心もしたんですけども、話を戻しまして、日

野町で日常の暮らしの中の伝統という中で、まず思い浮かぶのが日野菜のある暮らしかなと思います。もともと伝統野菜という言葉そのものが曖昧な言い方ですから、伝統的な野菜であっても、それが市場に流れて量販されると、それは食材の野菜という価値で評価されてしまうというところがあるんですが、そうではなく、冬が近づけば日野菜の漬物を漬けると、それを毎年繰り返すというようなことが、日常の暮らしの風物詩が本来の伝統ではないのかなと思うんですが、農林課では日野菜と伝統の関係というのはどう見ていただいているのでしょうか。

議長（杉浦和人君） 農林課長。

農林課長（寺嶋孝平君） 日野菜についてのご質問をいただきました。

日野菜につきましては、農業生産ということだけでなく、今まで500年にわたります歴史、そしてそれを受け継ぐ中で多くの家庭で栽培をされ、そしてその栽培したものが家庭の味として日野菜を漬けられて食されるというようなことが続いております。そういうことから、日野菜を町の伝統であるということに表現してもいいのかなというふうには考えております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 今のご答弁のとおりであるとするならば、関連して町長に伺うんですけれども、昨年の9月議会で日野菜の振興策というテーマで一般質問させていただきました。そのとき、産業振興の意味で農産物加工所の役割ということで質問させていただいたんですが、それに対する町長のご答弁は、加工所の設置については伝統を守るためという答弁をされたというふうに思います。その論法の組み立てがそのときはよく分からなかったんですが、改めてお聞きするんですが、農産物加工所はJAさんの施設、設備であって、JAさんは日野菜を納入する先さんであると。そういう関係の中で、加工所の設置が伝統を守るということとどういう関係が、組み立てが出てくるのか、改めてお聞きしたいというふうに思います。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 日野菜は日野町において特産日野菜ということでありまして、あわせて今、議員がお話しされたように、それぞれの家庭においてもつくられてきた伝統の野菜でもあるということでありまして、それを維持継承するということは大変大事なことでありますし、そのことを、これまでからJAや、鎌掛をはじめ生産者の皆さんの努力によって続けられてきたということでもあります。そういう伝統といいたいまいしょうか、をしっかりと発展させるということで、老朽化した日野菜の加工場をJAが建てかえるということにあたって、町もしっかりと応援をし、加工場設置に補助をしたと。また設置補助をするだけではなくて、当然、日野菜の栽培の面積を増やすということも大事でありますので、日ごろから農家の皆さん、JAを通じていろいろな施策の支援をしてきたということでもあります。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 町長、ご答弁の言語は明瞭なんですけれども、本当にやりとりを聞いていただいていますでしょうか。先ほど農林課の方から、暮らしの風物詩としての日野菜というのが1つの伝統として見られるかなというご答弁をいただいて、それを受けて、農産物加工所とどういう関係があるんですかということをお聞きしたつもりなんですけれども、答えてはいただけなかったのかなと。改めてお聞きしてもよろしいですか。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 今も申し上げましたように、日野菜というのはそれこそ蒲生家の発見から脈々として続けてきた日野菜でありますし、その加工もそれぞれの家庭においてそれをつくり食する、また縁者に送るということも含めて伝わってきていることですので、そういう伝統的な日野菜の栽培、加工について大事な文化、民俗であると思っておりますので、新たに老朽化した加工場を建設しながらそういうような伝統だとか文化だとかを継承するということは大変大事なことだというふうに、今までから思っております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 加工所につながる無理やり感を感じているのは多分、私だけではないと思うんですけれども、分かりました。

話を続けていくんですが、日常の暮らしということをいえば、お年寄りの経験とか知恵といったものが結構大事かなと思います。町内の地域の支え合い事業とかいうことで、お年寄りから暮らしの中の伝統を聞く、あるいは伝えてもらうというような取り組みの事例はありますでしょうか。これは長寿福祉課にお聞きしたいと思うんですが。

議長（杉浦和人君） 長寿福祉課長。

長寿福祉課長（山田敏之君） 高齢者の方の知恵や経験をお借りするような支え合い事業の取り組みの事例があるのかということでございますけれども、これからさらに迎える超高齢化社会、そのことを予測した上で、高齢者の方々を支えてあげるといような視点ではなくて、必要ですよと言われるような地域社会であるべきであるというふうに考えております。高齢者の方々が日常の暮らしの中の、昔の生活の中の伝統や文化を継承していただくということは、世代間の交流となるだけでなく、高齢者の方々の生きがいを育み、また高齢者自身の健康増進また頼る方にもつながるものであるというふうに考えています。

これまでから、例えば1つの例で申しますと、これは学校教育の所管になるわけでございますけれども、例えば西大路小学校でございますと、総合学習の場で地域の高齢者の方々を講師に招かれまして、炭焼き学習の授業をしていただいたり、あ

るいは桜谷小学校でございますと、昔遊び体験として、生活科の授業の中でお年寄りのおじいさん、おばあさん方を招かれまして、お手玉でありますとかこま回しなんかを教わるというような授業もしていただいているというふうにも聞いております。

これら社会教育あるいは学校教育で取り組まれておりますそうしたことも連携をしながら、そうしたことも組み入れて実施をしていく、そのような施策も大切にしながら、なかなか課題もございますし難しい問題もあろうかというふうに思いますが、少しずつそういった部分も拡充していけたらいいのになと考えているところでございます。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 今のご答弁の冒頭で、お年寄りも必要ですよというふうに言っていたので、もうこれ以上聞き返すことはほとんどないんですが、一応、加えて私の思っていることもお話しさせていただければというふうに思います。

なぜそもそも教育委員会じゃなしに長寿福祉課にお聞きしたかということなんですが、町内ではこの10年間、ここ最近10年間、いわゆる団塊世代の人たちがまずは現役をリタイアされて、その方たちが結構地域活動の中心的な役割を担ってきていただいたんじゃないかなと、そういう現状があるかというふうに思っています。しかし、もう数年もたたないうちに、その人たちは今度は地域活動も卒業していくという時期がやってきます。その時期が来ても、団塊の世代の人たちの知恵とか経験というのはまだまだ発揮していただきたいと私は思っています、そういう背景がありますもので、まだまだ必要ですよと、生きがいつくりというだけじゃなしに、いわゆるフレイル予防ということと、もう一つは正味、伝統を守るということで、あなたたち、必要ですよということは、組み合わせる施策としてやっていけるんじゃないかと私は思っていますので、ぜひそのように考えていただければというふうに思います。

日常の暮らしの中で見ている風景の中にも伝統はあるかと思うんですが、近年空き地や空き家が増えている状況で、町並み保全は待ったなしの状況ではございます。棧敷窓のある表通りの風景、もちろん大事ですが、私個人的にはお茶で垣根がしてある畑の風景、裏通りの、結構私はそれが好きでして、今ほとんどもう、失われつつある風景ではあるんですけども、それはともかく、そうした風景や景観の保全という点で、建設計画課にお聞きするんですが、日野町には景観を守る条例はなかったようには記憶しているんですが、実際にはどうなのか、ないとすればなぜないのか、理由と、それから今後どういう予定かということをお考えをお聞きしたいというふうに思います。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 今、景観保全、それから風景保全ということで質問いただいています。

日常の風景、景観を守ることにつきましては、県のふるさと滋賀の風景を守り育てる条例ということで、通常風景条例とっているんですけども、これに基づきまして日野町では基本的に国道307号沿線がその区域に当たるんですけども、これに基づいた景観保全には努めてはおります。ただ、伝統的な景観、風景ということでございますが、町独自の取り組みとしましては、町でも景観計画策定に向けた方針案というのは作成はしておるんですけども、それがどこまで進んでいるかというところにつきましては、いろいろなところで、当然、今、議員言われましたように、いわゆる栈敷窓のある風景、それから1本下がって今の茶畑のある風景、それから西大路やその辺に行きますといわゆる棚田の風景とか、いろいろなところがございまして、そういうようなことで当然、以前から日野町景観100選みたいな資料等もあるんですけども、なかなかそれを総合してどうしていこうというようなところまでまだ、対策が進んでいるかということ、正直なところそこまでは行けていない状態です。

ただ、言われるように、当然守るべきものは守っていかならんという認識はしているんですけども、なかなか手法等についての検討が進んでいないというのが現状でございます。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 簡単に言えば、景観計画をつくるつもりやけど、もうちょっと待ってねという話ですね。分かりました。

景観の保全ということで言えば、町並みを形成する上で木造建築にも関係してこようかと思うんですが、日野町は他の市町に比べて大工さんが結構頑張ってはる、かなり頑張ってはる町やと私は思っているんですよ。こうした産業分野を守ることでも町の伝統として大事ななと思っています。

これもまたちょっと余談になるんですが、今年の議会運営委員会の席上で、そのとき公共施設の建築コストが高騰して入札がおくれているという中で、そうしたら木造でつくったらどうやというアイデアが出されまして、私、結構興味いっぱい聞いていたんですが、そのときはアイデアだけで話が終わりました。ただ、この先、木造で公共施設を整備していこうというような発想は執行側の中であるんでしょうか。どの施設の話というわけでもないんで、これは副町長に伺いたいと思うんですが、いかがでしょうか。

議長（杉浦和人君） 副町長。

副町長（高橋正一君） 木造の公共施設ということへの思いということでございますけれども、町としましては、建てたい、整備したいと思う施設のニーズに合うとい

うことが第一だと思うんですが、そういう施設があるとすれば設置等についても、整備等についても、それはそのときそのときに、その施設にあたって検討していくということやというふうに考えております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） この話題を振ったのは、1つの時代の流れということなんですが、1つその関連で農林課さんにお聞きしたいんですけども、昨年森林経営管理法ができましたね。さらには森林環境譲与税が導入された。そういう環境の変化で木造の公共施設の整備という可能性は広がっているというわけではないんでしょうか。教えていただけたらと思います。

議長（杉浦和人君） 農林課長。

農林課長（寺嶋孝平君） 森林環境譲与税に係りますところの木造建設の可能性ということでございます。

森林環境譲与税の用途といいますのは、間伐や人材育成、そして担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備およびその促進に関する費用というようなことが用途、使い道の内容というようなことで明示をされております。その中で木材利用というようなことからいいますと、用途としては木造公共建設もあかなというふうには思いますが、日野町の方に譲与されます金額につきましては、3年、4年の間は370万円余りの金額、それが最終的には15年かそれぐらいの段階になっても年額1,200万円というような金額でございますので、木造建設をするにあたって、先ほど副町長が申しましたニーズとかがあって、その中での割り振り等々していく中で、必要やということであれば、そういうことも可能かなというふうにも思いますし、あと、木材利用というようなことも環境譲与税の目的になっていますので、ものを建てるんじゃなくて建物の中を木質化するというような方法も考えられますので、その部分につきましても今後、そういうような提案なり計画があったときに対応は考えられるかなというふうに思います。

しかしながら、そもそもの森林環境譲与税といいますのは、放置された森林を整備しようというのがそもそもの目的でございますので、まずはそちらの方からの手入れをしていく必要があるなというふうには考えております。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 森林経営管理法のそもそもの趣旨は、今、農林課長がおっしゃっていただいたように木材利用の促進というところにあるかと思いますが、予算が370万円やからできるとかできひんとか、それで木造建築をつくるという話ではないと思うので、川下の部分での木造利用を広げていきたいと思いますので、これはまさに今日の、今、このテーマで聞いている根っこの部分で、以前からの暮らしとか知恵とか経験というのを生かしていきましよう

いう部分が多分、根っこにあるかと思いますが、その辺の風土づくりというところで、370万円であっても考えていただければいいのかなというふうに思います。

平成27年6月議会、つまり私の一番最初の議会の一般質問で、今の工務店の話とか、それと同時に最寄品の小売商店が頑張っているのが日野町の特徴じゃないかという話を出させていただきました。また日野町の印象を聞いたときに、昔ながらの商店が頑張ってはるなというふうに評価される人も結構いらっしゃいまして、これは日野町の産業分野の特徴であり伝統であるというふうに言ってもいいのかなと思います。商工観光課ではこのような特徴とか伝統というべきなのかはどう評価されておられるでしょうか。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 先ほど議員もおっしゃいましたように、大工さんが日野町は多いなというのも1つの特徴であろうというふうに思いますし、小さな町だからこそ顔が見える関係が築けているのが日野町の状況かなというふうに思います。少子高齢化が進む中で、地域の住民の方々のさまざまなニーズに対応いただいておりますし、経済的な面だけではなくて暮らしの中でも相談事や困り事などにも対応いただいて、暮らしそのものにも温かい手を差し伸べていただいているのかなというふうに思っております。そういったことが日野町の特徴なのかなというふうに理解しておるところでございます。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 地元の小売商店とかあるいは工務店とか、いわゆる地域の需要に応じていくご商売と産業というのは、そのベースの部分で人のつながりが取引を生んでいるというところがあります。その結果、地域の経済循環に貢献しているという産業分野の姿かなと思いますが、その人のつながりこそが実は私は日野町の伝統の風土というふうに思ってもいいのかなと思っています。その上に成り立つ産業のあり方もまた日野町の特徴であって伝統と言っていいたかと思うんですが、そのような産業というのはもう、何も手を講じなければもう、衰退の一途をたどっていつて、やがては日野町から消滅してしまうおそれがあります。

そこで、商工観光課にお聞きするんですが、こうした産業分野の伝統を守っていくための施策を今後、講じていくというお考えはありますか。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 地元商業などの産業の伝統を守る考えについてということでご質問いただきました。第5次の総合計画の施策、23番というところで、人とまちをつなぐ地元商業の振興を進めるということを実施として考えているところ。引き続きまして商工会の支援を通じてであったり商業活性化の取り組みであったり、創業支援、住宅リフォームなどの取り組みを通して地域の消費者のニー

ズに対応していただいている商工業の振興に努めていきたいなというふうに考えているところでございます。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 今ほど商工観光課長から第5次総合計画の方針に沿ってやっていますよとご答弁いただいたということは、別の言い方をすれば、さらに前へ進める施策をやっていくためには総合計画の方針から考えていけばいいということでしょうか。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） そのことをまず総合計画の中にどういう文言で取り込まれていくのかということは、今後の住民さんの議論を通して、どういったニーズがあってということも含めまして対応していくべきものというふうに考えているところです。

議長（杉浦和人君） 山田人志君。

8番（山田人志君） 商工観光課で考えていただきたい地域内での経済循環、その政策理念というのは成長よりも維持と、ご存じのとおりですが、ということですので、これは伝統を守っていくということと根っここのところでは同じものだと思います。そのつもりで施策を進めていただきたいというふうに思います。

もう質問はしませんが、この質問の冒頭で日野町の特徴として聞いたときに、伝統のある町、あるいは伝統を守る町と答える人が結構いらっしゃるという話をしましたが、この2つの表現って実は結構意味が違いますよね。意味が違うと思うんですよ。伝統があるというのはその状態の話であって、伝統を守るというのは行動の話です。だから伝統があったとしても行動がなければ伝統は守ることができないという場合も当然、あり得ます。今回の質問で答えたかったのは当然、後者の伝統を守る町の方で、根っこにある理念というのはさっきも言いましたように守るとか維持する、そのための能動的な行動ということですよ。

最近、経営とか経済の分野では持続可能性とか持続可能という言葉、よく出てくるんですよ。英語でいうとサステイナブルですか。サステイナビリティとかいう言葉、よく出てきます。あるいは滋賀県ではSDGsが政策の柱に置かれるようになったということはお存じのとおりやと思うんですが、このSDGsのSもサステイナブルの頭文字、Sですよ。それらに共通する守っていく、維持するという政策理念は、実は間違いなく次期の総合計画なり総合戦略を考える上での柱の1つになり得ると私は思っていて、さらにその柱を優先順位の何番目に置くかによって、私は目指す町の姿というのが変わっていくのかなと思っています。

今回、今期の町議会では、ご承知のように総合計画特別委員会と地方創生特別委員会というのが誕生しました。それら2つの特別委員会が今後、調査研究を進めて

いく上で、今日やりとりさせていただいたことが少しは議論のきっかけになればという思いで質問させていただいたことを改めて申し上げて、私の質問は終わらせていただきたいと思います。

議長（杉浦和人君） ここで暫時休憩いたします。再開は3時から、15時から再開いたします。

－休憩 14時43分－

－再開 15時00分－

議長（杉浦和人君） それでは、再開いたします。

休憩前に引き続き一般質問を許可いたします。

6番、後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） それでは、よろしく願いいたします。私からは、午前中の質疑に引き続きまして、道路の安全について、1つ目が通学児童の安全と歩行者優先の道路整備について、そして2つ目が農家泊のあり方と子どもの安全性について、この2つについてお尋ねしたいと思います。

まず、1つ目の質問に入ります前に、本年5月8日、先月ですけれども、大津市の大萱6丁目におきまして園児を巻き込む交通事故がございました。この事故においてお亡くなりになりました園児さん、またそのご遺族の方に心からお悔やみを申し上げますと同時に、おけがをされました方のご回復を、1日も早く治っていただきますよう心からお祈りさせていただきます。

それでは、質問に入らせていただきます。一問一答でお願いをいたします。

本年5月8日に大津市大萱6丁目交差点で発生しました交通事故では、直進中の軽自動車に右折の乗用車が衝突いたしまして、そのはずみで歩道で信号待ちをしておられましたレイモンド淡海保育園、大津市ですけれども、の園児らの列に突っ込み、2歳の保育園児2人が亡くなり、園児1人が意識不明の重体、他に園児10人と保育士3人が重軽傷を負うという大変痛ましいものでございました。

当町におきましても、歩行者にとって危険な交差点や歩道のない通学路などが多く存在いたします。そこで、児童の交通安全や歩行者優先の道路整備などについて当局のお考えをお尋ねいたしたいと思います。

まずはじめに、皆様のお手元に資料をお配りしております。この資料を見ていただきたいと思います。こちらにパネルにしたものがございますので、こちらをご覧いただきたいと思いますが、まず資料1と書かれましたものをご覧下さい。

これが大津市大萱6丁目の交通事故の現場でございます。撮影しましたのは交通事故が起こりまして10日ぐらいたったときでございますけれども、資料1の上の段の向かって右側、①の写真でございますけれども、これがちょうど衝突しました車、右折しようとしておりました車から見た景観ということになります。手前の方から

奥の方に向かって進もうとしまして、そこで右折をしようとしたわけですね。そこで前から来た、ちょうどここにも軽自動車が1台写っておりますけれども、直進しようとした車と接触したわけでございます。その左にございます、上の段、向かって左の写真、②と書いたもの、これが信号待ちをしていらっしやいました園児さんや保育士さんがちょうどいらっしやった場所になります。ここに突っ込んできたわけですね。

下の段に行きまして、下の向かって右側、③と書きました写真、こちらの方をご覧いただきますと、ちょうどその直進してきた車がハンドルでよけようとしたということで、止まろうとしたんじゃなくて右折車をハンドルを切ってやり過ぎようとしたものですから、ブレーキ痕がなかったということでして、そのまま突っ込んできて、痛ましいことですが園児や保育士さんをはねた後、その後方にありましたフェンスに突っ込んでおります。この突っ込んで壊れたフェンスの状態が下の段の③と④になります。もう、ぐちゃぐちゃの状態でございます。

私、現場にありました15分ほどの間にも、6人の方がお花を持ってこられたり、お経を唱えたりして、来ておられました。この奥には花を置く台などがございまして、献花台などがございまして、お花やお菓子、ぬいぐるみなどが山のようにお供えしてありました。これが大津市の事故現場であります。

翻りまして、今度、日野町ですけれども、資料2と書かれましたものがございます。これをご覧いただきますと、上の2枚が日野小学校の北にございます、交差点名でいうと日野小学校北交差点になります。ちょうど農協さんと小学校の間の交差点というふうに言うと分かりやすいと思います。これも①の写真、上の段の向かって右側の写真ですけれども、農協の方側からちょうど旧のNTTですか、の方に向かって写真を撮っているわけですけれども、農協の角を見ますともう、全く信号待ちをして何人もが待つスペースもほとんどなくて、しかもむき出しという状態ですね。その向かって左側、②の写真を見ていただくと、ちょうど下校途中の中学生さんの、女子中学生さんですか、お二人、信号を待っていらっしやいましたけれども、このようにもうスペースがないですから、自転車は車道にはみ出して信号待ちをしていらっしやるといような状態が常態化しております。これも、もしも大津の大萱のようなことが起こりましたらもう、目も当てられないような惨事になるというふうに思います。

下の段に行きまして、向かって右側の写真、③ですけど、これは私どもの地元、東桜谷の中之郷交差点になります。ちょうど朝の見守りの方がいらっしやるときに撮影させていただいたわけでございますけれども、東桜谷におきましては、原とそれから小野はバスで通学していらっしやいますけれども、それ以外は徒歩で歩いていらっしやいまして、原、小野以外のお子さんは皆、この交差点を渡られます、東

桜谷の方は。ですので、ちょうどこのところで信号待ちをするわけですが、まだここは縁石がございますけれども、今度、ここを通過して帰ってくるわけですが、渡った向こう側、ちょうど今、小学生さんたちが渡り終えようとしているこの場所には縁石も何もないわけですね。もしこのところに通学の帰りの児童さんが信号待ちをしていらっしやって、車が突っ込んでくると、もう全く段差も何もなくひかれてしまうということになりかねない状態です。

その左側を見ますと、これは西大路交差点で、西大路の公民館の横でございますけれども、ブルーメに行くところですね。ここはご存じのように通学路ではないと思っておりますけれども、ただ、皆さんもご承知のように最近、日野駅からブルーメに歩かれる、健康のためかまちなか散策といたしますか、こういう方も非常に増えてまいりましたし、ブルーメに来た後、ずっと町並みを見てみたいということで歩かれる方が増えてきておられます。ですので、平日はそうでもないんですけど、土日、私もこの交差点を通りますと、結構ハイキングのような格好をされた方がここで信号待ちをしていらっしやるのをよく見かけます。ですけど、赤信号を待つだけのスペースもありません。ほとんど車道で待っていらっしやるような感じですね。三、四人のご家族で来ていらっしやったら、2人ぐらい歩道の中にいらっしやって2人ぐらい車道で待っていらっしやる光景をよく見ます。これも非常に危ないというふうに私は感じます。

そして、資料3と書いたものをご覧いただきますと、資料3の上の2枚はどちらも必佐の三十坪交差点になります。すぐ近くにこぼと園もございます。この向かって右側の写真を見ますと、これは公民館側のところから撮ったところですが、このところは結構広いスペースがございますして、赤信号でも待つことが十分できるわけですが、これもやはり縁石1つで車道と分かれておりまして、何かありますと非常に怖いです。

この向かって右側の写真を見ますと、同じ位置から撮っておりますけれども、横断歩道を渡った向こう側が写るようになんて高い角度で撮らせていただいております。ここもスペースはございますけれども、ガードも何もない状態ですので、突っ込んでくると非常に怖いという状態ですね。

この下の2つを見ますと、どちらも南比都佐小学校の近くですが、右側の③の写真を見ますと、これは南比都佐小学校の前で撮った写真ですが、この写真の中にも自動車がたくさん写っております。平日ですが、ここはご存じのように大型車が非常に多いんですね。トラック、ダンプカー、ミキサー車、こういったのが、私がちょっと写真撮影している間にも何台も通られました。場合によっては渋滞もいたします。ですけど、南比都佐小学校から深山口の方向には歩道と車道の間にはフェンスがございますけれども、そこから深山口のグリーンバイパ

スの交差点向きには全く、縁石以外、車道と歩道を分けるフェンスも何もないんですね。

ちょうど④の写真、その左側を見ていただくと、これは今度、逆にグリーンバイパスの深山口交差点側から小学校に向けて撮ったところですが、交差点のところだけにガードレールがございまして、ここから小学校まではガードレールが全くございません。このように通学路である場所でもガードレールがなかったり、ガードするものが全くない交差点がたくさんあるということを、ちょっと見ておいていただいた上で、質問に入らせていただこうと思います。

今、パネルをご覧くださいましたけれども、日野町におきまして発生いたしました交通事故のうち、児童が絡む事故の近年における発生状況をお尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 6番、後藤勇樹君の質問に対する当局の答弁を求めます。住民課参事。

住民課参事（奥野彰久君） ただいま後藤議員さんから、近年の日野町内の児童が絡む事故の発生状況についてお尋ねいただきました。

平成30年中ですけれども、日野町内で発生した人身事故は32件あり、うち子どもに関係する事故は1件です。自転車と車による事故になります。平成29年中では人身事故は45件です。うち子どもに関係する事故は6件です。その中で1件が歩行者と車による事故で、残る5件は自転車と車による事故になります。平成28年中では人身事故は57件あり、うち子どもの関係する事故は3件です。歩行者と車との事故が1件で、あと自転車と車に関係する事故が2件です。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 今、お伺いしますと、平成30年度に児童が絡む事故が1件、29年度に6件、28年度に3件ということで、この直近3年間では10件ですかね。子どもが絡む事故が起こったということですから、このうち歩道のない通学路での事故件数というのが把握できていますでしょうか。お尋ねします。

議長（杉浦和人君） 住民課参事。

住民課参事（奥野彰久君） ただいまご質問いただきました歩道のないところでの事故の件数ですけれども、10件中、歩道がないところは3件でした。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） ということは、もし歩道ですとかちょっとしたガードレールなどがあって、その外側を子どもさんが歩くような状態があれば、もしかしたら防げたかも分からない事故ではないかというふうに思うわけですが、今現在、児童さんの通学にはシルバーキャラバン隊さんですとか安全なまちづくり協議会さんとかいった方が見守りをやってくださっているとは思いますが、大津市

の事故を受けまして県の方もいろいろ見直しをやられているということで、三日月知事さんの方からも交通安全についてのいろいろなコメントを出していらっしゃるわけですが、この事故を受けまして、日野町としても道路環境の点検であるとか安全対策の再検討などはなさいましたでしょうか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 住民課参事。

住民課参事（奥野彰久君） 道路の安全点検等につきましては、それぞれ建設計画課や学校教育課さんの方で歩道なり道路の確認をいただいているというふうに聞いております。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 安全点検でございます。これにつきましては、建設計画課の方としましては、通学路を中心として町内51カ所の交差点の点検を実施しております。うち、白線等の消えているところで早急に対応が必要な箇所について、約6カ所についてはラインの方も引き直しをしているところでございます。また、歩道の方に車が入るおそれがあるようなところにつきましては、ポストコーンを立てるなどして対応もしているところでございます。あと、横断歩道等につきましては、それぞれ道路管理者の方に報告なりはさせていただいているところでございます。

議長（杉浦和人君） 教育次長。

教育次長（望主昭久君） 学校関係についてでございます。学校関係につきましては、5月8日の事故以来、各学校の方に文書の方を発出いたしまして、それぞれに各学校で点検をするようなことをお願いしているところでございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 今の質問について、もうちょっとあれですけども、今、高井建設計画課長の方から51カ所、急を要するところ、ペイントなどの塗り直し6カ所ということで伺いましたけれども、これは通常の点検でしょうか。それともこの事故を受けての点検をさせていただいたんでしょうか。それをお伺いしたいのと、今、教育次長さんの方から学校の方にそういう要請をしたということですけども、その結果、学校の方からはやりましたというご連絡はありましたでしょうか。お尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） この点検につきましては、基本的には事故を受けて行ったところでございます。それから、教育委員会の方に報告をとということでございますが、基本的にその結果とこういう対応をしたよというのは、教育委員会にというわけじゃなくて、役場の中のそういった会議等の中で報告の方をしているところでございます。

議長（杉浦和人君） 教育次長。

教育次長（望主昭久君） 文書の方は発出はしておりますが、各学校の対応をさせていただきます。また、通学の安全指導ということで、各小学校単位では子どもさんと一緒に登下校されたとかいうケースもありますし、またスクールガードさんとかいう方についての見守りの強化をお願いしているところとか、それぞれ学校によって対応は少しは違います。

議長（杉浦和人君） 総務政策主監。

総務政策主監（安田尚司君） 後藤議員さんの方からご質問がありました全体的な話として、この事故がありまして、すぐに町としてどういうことができるのか、どういうことをするのかということで、2日後ぐらいに会議を関係課でさせていただきました。今、対応でいいますと建設計画は当然あるわけですが、学校教育、そして子ども支援の方は保育所等ございますので、させていただきますして、それぞれに現場を見に行く、そして保育所はその職員間で再度、散歩のところの確認をされ、それぞれの対応をするということで決めさせていただきますして、今後どうするかについては県の動きもありますし、ほかのところの情報を得ながらするというので、今現在、対応を報告させていただいたというような状況でございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 今、教育次長さんの方から学校の方にいろいろな要請ですとかお願いをされたということですがけれども、ぜひ要請やお願いだけじゃなくてチェックシートをつくるなりして、確認もしていただけたらなというふうに思います。また、安田主監の方からお話ありましたように、こういった問題というのはなかなか、縦割りでは対策を立てにくいものだと思いますので、今おっしゃっていただいたように各課で連携していただいて、ぜひお子さんだけでなく歩行者優先の環境づくりというのを考えていっていただきたいな、対策を立てていただきたいというふうに思います。

また、この秋から着工が予定されております県道西明寺安部居線の改良工事について、私も西明寺安部居線の期成同盟会、入っているわけでございますけれども、通学路に当たる中之郷の信号交差点には、先ほど写真を見ていただきましたようにガードレールやフェンスを取りつける必要があるんじゃないかなと私は思うんです。というのは、今度、この中之郷のところの交差点は西明寺安部居線の改良工事が完成しましたら、ちょっと一回り大きくなりまして、車道の車線も増えます。そしてちょっと広がってきて、アールもかなり、今でいう農協の倉庫の方側ですとか、また中之郷の集落営農の倉庫の方とか田んぼの方にも入ってまいりますので、そういう意味でも広がった分だけ道路も逆に突っ込みやすくなってくるといけないかという心配もありますけれども、こういったガードを置くようなご予定とい

うのがあるかないか、ちょっとお尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 今、ご質問いただきました交差点につきましては、当然、工事が完了したときは今とは随分様子も変わってくるかなというふうに思います。これにつきましては当然、今後、協議をしていく上で、必要な措置については講じていかなあかんもんやなというふうには考えております。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 西明寺安部居線につきましては、法線についても私たちの方で確認させていただいておりますので、どういうルートを通るかというのはもう、確定のルートも見させていただいているところでございますけれども、全線に片側ですけれども歩道もついて、2.5メートルの歩道ができるということで、その上に農道もございますので、非常に今よりも環境的にはよくなるかと思うんですけれども、賀川神社さんの前の部分、第1期工事、第1工区が完成するまで仮の道路がつくということで、この間法線を見させていただくと、かなりアールのきつい仮の道路がつくように、私の目から見ると感じます。この仮の道路にも歩道はつけていただけるんでしょうか。またそこの部分の安全対策というのはしっかりとってありますでしょうか。その点もお尋ねいたします。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） ただいまの賀川神社の前の交差点につきましては、前回の役員会の中で県の方から説明があったかというふうに思います。これにつきましても一応、県の方の説明はございましたが、県とも協議をしながら、最終どういう形にしていくかというのは決めていかならんものというふうに考えております。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 前回の役員会の中でも出ておりましたけれども、かなりのスピードで走ってきた車がいきなりあのアールに入ると非常に怖いんじゃないかと思っておりますので、ぜひそこら辺、安全対策をしっかりと検討、協議しながら進めていただきたいというふうに思います。

また、主に通学路におきまして児童の安全を確保するために、今後どのような対策を考えているかお尋ねしたいんですけれども、大津市の大萱6丁目の事故現場、現在フェンスを取りつける工事が行われておりますけれども、縁石も若干、昨日あたりから高くなっているんですかね。私が現場の視察に訪れましたときは、今見ていただいた写真のように黄色いクッションドラムというんですか、これが設置してございました。事故当時はなかったものです。このクッションドラムというのは、私、値段を調べましたら、そんなに高くないんですね。安いものでしたら1万円台

から、ちょっと大型のものでも2万円台であるということで、交差点の歩道部分に置いておきましたら、もしも自動車が突っ込んできまして、一定程度の緩衝材になると思うんですけれども、通学路の交差点などで、置くとかえって危ないところもあるかもしれませんけれども、置けそうなところに設置していくといったことはできないものでしょうか。お尋ねします。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） クッションドラムの設置でございますが、確かに大津の事故のあったところについては今、クッションドラムが置かれているのは確認させていただいております。ただ、町内におきまして各交差点の危険と思われるところに設置をするかどうかにつきましては、現在のところ、設置については考えておりません。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 検討することもしないということでしょうか。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 基本的には、この事故を受けて当然、今後の対策の方を国も方針を出されると思いますので、その方針を待つという形になるかというふうに思います。ということでございますので、クッションドラムの設置については現在、考えていないということでございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 確かに置くことが難しい交差点もございますし、スペース的に無理なところもございますけれども、私、町内のいろいろな交差点を見ていくと、置けそうなところもありますし、あることによって、もしものときにも、直接車が当たる前に1回緩衝材に当たっておけばという言い方はおかしいんですけれども、いくらかでも和らぐかと思うんですけれども、ぜひその辺もまた検討していただきたいなというふうに思います。やっぱり直接車が当たるのと何かに当たってから、緩衝材に1回バウンドしてからというのは全然違うと思いますので。

また、歩道についてですけれども、以前、車で道路を走っておりましても、歩道が1段高くなっているところというのは結構あったと思うんですけど、最近整備されております道路を見てみますと、本当に歩道と車道というのが真ん中に縁石が1つあるだけでして、高さが全く一緒になっておりますけれども、何か理由があるんでしょうか。前のように1段高い方が安全じゃないかと思うんですけど、いかがでしょう。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 歩道の形態につきましては、今言われるようにマウンドアップ型の1段上がった部分と、同じ高さで縁石でという型があると思うんで

すけれども、ここはどうでこうするということについては、特になんではないかなという認識をしているんですけれども、基本的に車道と歩道の間については当然、縁石なりで区画はせんならんと思いますが、ここはこうなのでマウンドアップ型にせんならんというようなことはないように認識しております。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 今度整備されます西大路鎌掛線はどういったタイプの歩道になるのでしょうか。午前中の質疑で全線片側に2.5メートルの歩道がつくということはお伺いしましたが、1段上がったタイプになるのか、縁石だけのものになるのか、この辺も分かっていますでしょうか。お尋ねします。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 西大路鎌掛線につきましては、フラット型でございますので、車道、歩道の高さは一緒に縁石で区切るという形でございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 1段高くなっていますと、道路を走っております者から見ても、明らかに歩道というのはちょっと距離をとらないといけないなという、意識的にも意識づけができるのではないかと思いますので、ぜひマウンドアップ型、確かにフラット型の方が本当はコスト的に安くつくのかもしれませんが、一段高い歩道、昔よく見ましたけれども、こういったのに考えていただくことができないのかなというのをちょっとお願いしておきたいと思います。

また、通学路には通学路であることを示す標識、上がっているところもございませぬけれども、とか看板とか道路ペイントなどがありますと、それだけでもハンドルを握っているドライバーさんは意識して自動車を運転するようになると思いますけれども、そのような標識とか看板などを町内に増設していくというご予定はございますでしょうか。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 路面標示、それに標識等のことではございますが、今のところ、どこに何をするというような計画はございません。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 知らない町に行きましても、すぐ近くに小学校がありましても、小学校の方を向いて走っていなければそれが通学路かどうかで私ども分からないわけですし、通学路って思うだけでやっぱりドライバーの意識、違ってくると思いますので、ぜひ通学路であることを示すような看板であるとかペイントであるとかといったものを増やしていただけるようお願いしたいというふうに思います。

現在、道路交通法では第38条におきまして、交差点における歩行者の優先を定められておりますけれども、交差点以外の部分、まっすぐの部分とかいうところを見ます

と、横断歩道のない道路については逆に自動車などのほかの交通に対して、歩行者に注意を促す内容となっております。これを見ておられますと、日本の社会というのは車優先で歩行者は交差点と横断歩道以外は非優先なんじゃないかと感じるときがありますけど、このような我が国の道路交通環境の中で、どのようにして歩行者を守っていくべきとお考えかをお尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 住民課参事。

住民課参事（奥野彰久君） ただいま、どのようにして歩行者を守っていくかにつきまして、ご質問をいただいております。車を運転する人はもとより、歩行者や自転車など道路を利用する全ての人が交通事故の危険性を認識し、交通事故を起こさない、交通事故に遭わないという行動を実践することが大切であると考えています。地域住民に交通安全対策に関心を持っていただき、生活地域における安全・安心な交通社会の形成を自らの問題として受け止めていただき、町民主体の意識を高めることが大切かと思っております。

また、日野町の方では東近江地区交通安全協会日野支部やシルバーキャラバン隊、また安全なまちづくり協議会によります街頭啓発を行っていただいております。このような地域の活動とあわせて関係団体、住民、行政が連携した取り組みの中で進めていきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 地域ボランティアの方々が毎朝、子どもさんの見守りといいますが、やってくださっていたり、いろいろな啓発活動をしていただいていることは本当に頭が下がりますし、ありがたいなと思って私も感謝いたしておりますけれども、都会に比べまして人口や車の絶対数は日野町とか地方に行きますと少ない分だけ、事故の絶対数も都会の方が多くなっておりますけれども、私の居住しております東桜谷の地域でも、歩道のない通学路を本当にすごいスピードで走る軽トラなどを頻繁に見かけます。私も朝晩、犬の散歩で周りを歩くわけでございますけれども、本当に体に触れそうなすれすれのところを猛スピードで走り抜ける車がございますし、携帯電話でしゃべりながら走っているドライバーもよく見かけます。警察や公安に対して、スピード違反ですとか走行中の携帯電話などの取り締まりを強化してもらうように、こういったお願いというのは町行政からしていただくことはできないものでしょうか。お尋ねします。

議長（杉浦和人君） 住民課参事。

住民課参事（奥野彰久君） 状況を把握させていただいて、必要に応じて関係機関に依頼の方をさせていただきたいと思っております。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 状況を確認していただかなくても、いつも町を走っていただい

たらお気づきだと思いますけれども、本当にスピードを守って走っていらっしゃる車の方が少ないんじゃないかというふうに思います。私、日野町に越してきました一番思いますのは、走っている車のスピードが非常に速いということと、携帯電話でしゃべりながら走っている人がすごく多いというのはもう、いつも気になっております。ぜひこの辺を徹底していただだけでも、随分違うんじゃないかなと思いますので、そこら辺についてもぜひ、警察とか公安の方に要請していただきたいというふうに思います。

もうこの件について質問いたしませんけど、自動車だけでなく自転車で通学していらっしゃる中学生さんなんかヘルメットをかぶらずに通学しておられたり、並列で車道を走っていらっしゃるのもよく見かけます。以前、奥平議員さんも一般質問の中で指摘しておられました。学校にも再度、交通安全に対する児童の意識を高めていただくように、ぜひ教育委員会さんにもお願いしたいなというふうに思います。

ただ、どちらが悪いという問題はあるかもしれませんが、確かに並進している自転車はいいことないわけですが、ただ事故が起こっちゃいますと歩行者や自転車のダメージというのは自動車のドライバーよりはるかに大きいです。歩行者を守る道路環境の整備と同時に、ドライバー、歩行者の双方に交通安全への意識を高めてもらうための環境づくりというものを、もう1回ちょっと考えてみていただきたいなというふうに思いますので、これはお願いでございますけど、よろしくお願いたします。

次に、2つ目の質問に移ります。

農家泊のあり方と子どもの安全性について、お尋ねしたいと思います。

本年4月25日の朝、田舎体験として日野町鳥居平の農家に農家泊をしておられました神戸市立中学校の中学2年生、女子児童さんが佐久良地先の農道におきましてトラクターの運転を誤り、約3メートル下にトラクターごと転落いたしまして重傷を負うという事故が発生しました。これはパネルや資料で皆さんにお渡ししていませんけれども、ちょうど私、転落したトラクターのところ、現場検証中に撮影させていただいておまして、警察の許可を得て撮影しておりますので、見させていただいているわけですが、見ましたら命があったのが逆に奇跡だなと、命あってよかったと思うぐらい高いところからトラクターと一緒に転落していらっしゃるという状態でございます。

日野町は十数年前から農家泊事業に力を入れておまして、他の自治体からも先進地として評価されております。私どもも8年ほど前から受け入れ家庭をさせていただいております。そこで、農家泊事業のあり方と体験児童の安全性などについてお尋ねしたいと思います。

まず、田舎体験の体験校および受け入れ家庭の募集はどのように行っていって、現在、どれくらいの規模で行っていらっしゃるのかをお尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） ただいま田舎体験の体験校、受け入れ家庭の募集、そして現在どれくらいの規模でということでお尋ねをいただきました。

田舎体験の平成30年度の受け入れにつきましては31校です。そして約3,700人を受け入れたところでございます。受け入れ家庭の募集につきましては、近江日野交流ネットワークの広報紙であったりとか、事務局、受け入れ家庭の連携でいろいろな情報を交換しながら、1軒ずつお願いをしながら受け入れ家庭を開拓していているというところでございます。平成30年度における受け入れ家庭、ホームステイをご厄介になった、受け入れていただいた方につきましては約110軒という状況でございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 田舎体験農泊におきましては、町の最上位計画に位置づけられております第5次日野町総合計画の中でも政策の13と政策の16にまたがりまして、施策の39の中に、施策の現状というところを見ますと、「三方よし！近江日野田舎体験」を通じて情報発信に努めるとともに都市や海外の人たちとの交流を進めていますというのと、また主な事業や取り組みという中でも、「三方よし！近江日野田舎体験」による交流を通じて「たから」の再発見とさらなる情報発信を進めますと記載してございまして、こう書かれておりますように、町としても非常に重きを置いて進めておられる政策であるというふうに思います。

私も田舎体験自体には大賛成でございますけれども、田舎体験につきましてはかつては日野町商工観光課の所管であったと思っておりますけれども、現在、元副町長さん、藤澤政男さんを理事長として設立されました一般社団法人近江日野交流ネットワークが中心として請け負っていらっしゃいます。日野町と一般社団法人近江日野交流ネットワークとの関係をお伺いしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 町と近江日野交流ネットワークの関係につきましてご質問をいただきました。

議員がおっしゃいましたように、平成21年度から三方よし！近江日野田舎体験については受け入れを開始しているところでございます。当初は地域づくり事業の一環として、私どもを含めまして職員が地域づくりの事業のために1つの事業をやってきたわけですが、その中で経過する中で、プロパー職員を雇用する、いろいろな制度を活用しながらということでもございましたけれども、一定の体制を整備

していく中で1つの団体を、任意団体ですが、当時からあったんですが、そちらの方で職員の雇用ということになってきますと、やはりそういったところでの雇用と
いいですか、働く者に対しての責任が生じてまいります。そういったところから、
しっかりした体制を整えていこうということで、一般社団法人化を任意団体からさ
れたというのが経過でございます。

そして、町につきましては、当初は町が先頭に立って取り組んできたわけではあ
りますけれども、一定の段階を経て、やはりプロパー職員がやってくれていますの
で、そこに対する支援という形、そして今現在では町の方から委託という形で受け
入れ家庭の新規開拓であったり研修の事業につきましては委託をして、町も支援す
る中で地域づくりの事業を進めているという関係でございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 今、委託をしてということでもございましたので、事業としては
町の事業であって、これを一般社団法人に委託をしていらっしゃるというふうに受
け止めてよろしいんですか。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 委託につきましては、先ほど申し上げました内容です。

1つは受け入れ家庭の新規開拓でございます。先ほど受け入れ家庭110軒と申し上
げましたけれども、受け入れ家庭の開拓状況につきましては、やはり開拓を10軒進
める、そうすると、それでも家庭の事情で、介護であったりいろいろな関係で、や
はりご高齢ということもございましたりということで、それを上回る数で減るとい
うことは多々ございます。そういう中で新規開拓というのはやはり毎年毎年やって
いかなければならない業務というところから、地域づくりのためにその業務、そし
てこの事業を何のためにやっているかということをしっかり研修した上で取り
組んでいただきたいということから研修事業について、そして農家民宿の開業であ
ったりといったところについての支援であったりという部分についての業務とし
て委託をしているというところでございます。

ですので、こういった教育旅行の受け入れに関しましては、今現在は町が委託を
しているものではなくて、近江日野交流ネットワークとして主体的に取り組んでい
る事業ということになります。行政の方も当然のことながらネットワークがやって
はるので知らんということではなくて、地域づくりにつながるものですので、しっ
かりと支援をしていくという関係でございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） ということは、町の事業ではないですけれども日野町総合計画
に上がっているということになるわけですか。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 町の事業でないといいますが、事業として経済活動になる部分でございますが、やはり地域の方々に取り組んでいただくことが、山田議員のお話の中にもありましたように、いろいろな地域における生活の知恵であったり伝統であったり技であったりというものを、日野の外から来ていただく生徒さんに体験いただく、そういう中でやはり、自分の地域ともまた比べていただきながらしっかりと、日本というのはいすばらしいな、地域というのはいすばらしいな、人のつながりは大事やなということを学んでもらう、それによって今度はそれを伝えて行く受け入れ家庭にとっては、そのことに対してのやりがいであったり地域に生きる意味であったりといったことをしっかりと自覚をしていきながら、地域づくりに貢献いただいていると。そういうことから総合計画の中で位置づけているというところでございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 大体分かるわけでございますけれども、ということは、この事業の責任主体というのは町じゃなくて社団法人の方ということで、認識でよろしいんですか。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） この事業の責任の主体ということにつきましては、今現在、近江日野交流ネットワークが窓口になっていますので、いろいろな旅行会社との関係であったり、旅行会社を通じてお越しいただく学校さんとの関係であったり、そういった部分についての窓口につきましては、当然のことながら近江日野交流ネットワークが主体ということになりますので、今おっしゃっていただいています取り組みの主体といえますか、基本的な責任の主体といえますかにつきましては、近江日野交流ネットワークが、教育旅行という部分に関しては当然のことながら、近江日野交流ネットワークが窓口になっているということでございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） ということは、近江日野交流ネットワークさんの方が責任主体ということでございますね。

今回、事故が起こってしまったわけですが、非常に痛ましいことで、私らもショックだったわけですが、今回の事故の詳細状況およびその後の経緯の詳細、今日までの詳細、それからけがを負った児童およびそのご家族や中学校への対応状況ですとか、この事故についての責任の所在などをお尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 今回の事故の詳細状況と経緯、けがを負った生徒さん、家族、中学校へ対応状況などについてお尋ねをいただきました。

今回の事故につきましては、平成31年4月25日午前10時30分ごろですが、地先は

日野町佐久良地先になります。において、神戸市から農村生活体験で来られていた女子中学生さんが、受け入れ家庭の指導でトラクターの乗車体験中に、約3メートル下の土手下に転落して左上腕部、そして左大腿骨を骨折するという重傷を負ったという事故であります。

その後の件につきましては、県内の病院に直ちに搬送いただいたということで、事故の翌日には手術を受けられました。そして現在は神戸市内の病院に転院されまして、リハビリも順調に進んでいるということで、保護者さんであったり学校さんからもそういった状況やということで伺っているところでございます。

県内の病院の入院中から生徒さんや保護者さんへの謝罪に、お見舞いにお伺いするなど誠意を持って対応させていただいているところです。中学校さんに対しましては、謝罪も当然のことながらさせていただいて、また生徒さんや保護者さんへの対応のこと、転院後の状況を伺うなど、随時いろいろな形で連携をとらせていただいているところでございます。

責任の所在についてでございます。事故は田んぼの外、田んぼ外でトラクターの乗車を体験したことが原因でございます。責任の所在につきましては、安全管理マニュアルの徹底ができていなかった受け入れ家庭を含めた近江日野交流ネットワーク、今日まで地域振興の一環として推進をしてきた町、それぞれにあるものというふうに考えています。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 先日全員協議会の中で1回ご説明はいただいておりますけれども、けがをされました児童さんの回復までの見込みであるとか、どれぐらいかかりそうで今後どういった経過をたどられるのか、この辺もちょっとお尋ねしたいと思えます。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 事故の当初、保護者さんからお伺いしていましたのは、入院加療が2カ月、そしてリハビリで一月かかるやろうという話をお伺いしていましたが、今現在もう二月目に入っております。そういう中で、学校さん、保護者さんからも、すぐリハビリについても順調に進んでいるというふうに伺ってしまして、同じ側の骨折でしたので、とはいうものの今現在ではリハビリも順調に進んで、車椅子から立ち上がったとかいうこともできるような状態になってきたというふうに伺っておりますので、順調に回復していただけるように願っているという状況でございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 今回、私、事故が起こりました時刻にちょうどこの役場の4階におりまして、会議に臨んでいるときに現地の方から私の携帯の方に、大変なこと

が起こったみたいと連絡が入りまして、すぐに現地に、現場に駆けつけました。ちょうど救急の方がけがをされた方をストレッチャーに乗せておられるところまでございました。救急車がちょうど鳥居平バイパスの下のガードの下を、背が高過ぎて入れないということで、ストレッチャーに乗せられた後、ずっとガードの手前で待機している救急車までストレッチャーを運んでいらっしゃるという段階のときに私、ちょうど行ったわけですが、けがをされました中学2年生の女子生徒さんと一緒におられましたクラスメートさん3人は、この一部始終を現場で見られておまして、その後も現場に長時間とどまったままでいらっしゃいましたけれども、その後のメンタル面でのケアなどはされていらっしゃるかどうかが、この辺もお尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） クラスメートでありました3名さんの生徒さんにつきまして、非常に私どもも心配をしてきたところでございます。生徒さんのその後の状況につきまして、学校さんの方にもお尋ねしながら、学校さんの方としては家庭訪問を学校の方で実施していただいたということで、ほかの3名さんのケアに当たっていただいているというところがございます。現在のところ、学校生活なり個別面談をされる中でも、特に大きな、そこの部分について、事故当初は非常にショックを受けられていたけれども、今現在では普通に学校生活を送れる状態というふうに伺っておりますが、引き続きその状況につきましてはこれからも学校さんとはお出合いをさせていただいたりお話しさせていただくことになっていきますので、そのあたりの状況につきましては折を見て状況把握に努めていきたいなと考えています。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 私、現場にその後しばらくいたわけですが、普通でしたらあのような状況ですので、残りの3人の生徒さんは本来でしたら、そこに当該受け入れ家庭さんのところの奥様もお見えになっていらっしゃいましたので、自動車の後部座席に乗せていらっしゃいましたから、だったらご自宅にでも連れて帰られて、警察から事情聴取されるにしても、また場所を変えた上でされるのが普通じゃないかなと思うんですけども、あの場にずっと長いこと、現場に全てを見せながら子どもさん3人いらっしゃったわけですが、何か事情があってそうされたんでしょうか。お尋ねします。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 現場の方で長いこと事情聴取が警察の方でされていたのは事実でございます。私どもも近江日野交流ネットワークの事務局の者も、警察の方に何度もそのあたりは申し出ています。学校の先生の方からも大分、私どもの

方にも近江日野交流ネットワークの事務局の方にもそういうお声をいただいていたし、こちらの方としても子どもたちの状況はなかなか、外に置いておくのはどうかということで、何度も警察の方に話しておったんですが、その中でようやく、何度か話をさせていただいて、場所を変えて事情聴取をお願いできないですかというところまで具体的に何度もお話をする中で、ようやく警察の方も移動して場所を変えてしようかということで対応いただいたところでございますので、なかなかこちらの方で何度もそういうことはお伝えしているものの、捜査についてこちらの方でだめとかいうことができませんので、そこについては一定、こちらの方も警察に対応を求めながら、警察の判断に従うしかなかったというのが現実でございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） ということは、町当局であるとか交流ネットワークさんとか学校さんが何度も警察に場所を変えたいというふうに願い出られましたけれども、警察の方がそれを当初拒否していらっしゃったということですか。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 拒否ということになるのかどうか分かりませんが、場所を変えてというふうにならなかったということでございます。ただ、それがいろいろな事情が、現場で聞かなければならないことやらもあったのかどうか、そのあたりにつきましては私どもでは分かりませんが、警察の方がそこで聞くということ、そしてある程度聞かれていましたので、そこで場所を変えてもいいかという判断をされたのかというふうには思いますが、そのあたりにつきましては、私どもでどうやったのかということにつきましては何とも判断がしかねるかなというふうに思いますが、警察として一定、長い間、何度も人が入れかわりながら話を聞かれていたということもありましたので、一定の状況はつかめたということからそういう対応をしていただけたのかなというふうに思っております。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 拒否をしているのかどうか分からないけれどもということですが、でも現実、拒否ということですので、でしたら、ちょっと私どもも知り合いの県会議員を通じまして、警察の方にも、なぜ子どもさんの心のケアを最優先にしなかったのかということについては厳しく追及していきたいと、警察に対して思います。

今回の事故におきまして、けがをされました女子生徒さんが済生会病院に入院されました段階で、議会からもお見舞いに行かせてほしいという旨を打診しましたが、ご遠慮願いたいという返事がございましたけれども、これはどなたのご意向でしょうか。お尋ねします。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） そのあたりにつきましては、保護者さんにお話をさせていただいています。保護者さん、お父さんでございますが、直接そういうお話をさせていただいたんですが、事故後ということもございまして、本人さんも余り知らない人という、僕らも含めてなんですが、知らない人と出会うというのはどうかということもあって、お見舞いについてはありがたいお話ですがご遠慮させていただきたいというご意向がございましたので、そういうことで対応させていただいたというところでございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） ということは、被害者さんのお父さんのご意向ということでございますね。

田舎体験事業を担っておられます一般社団法人近江日野交流ネットワークさんですとか受け入れ家庭への指導というのは、これまでどのように行ってこられたのでしょうか。また今回の事故を受けまして、当局としてどのように捉えまして、上記の一般社団法人近江日野交流ネットワークさんですとか受け入れ家庭に対してどのように対応されたのか、今後の事業継続に対してどのように考えていらっしゃるかをお尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 近江日野交流ネットワークや受け入れ家庭の指導につきましては、近江日野田舎体験が三方よしの取り組みである、売り手よし、買い手よし、世間よしです。その取り組みでそれぞれの地域が活性化していく、人としてのつながりが豊かになっていくといったことのためにやっぴいこうということでやっぴいしているところでございます。そのためにはやはり、安全・安心というのは当然のこと、最低限のことで、責任でありますので、そういったことにつきましてこれまでから指導もしてきたところでございます。

指導といいますのは、なぜこの事業をやるのかということ、そして安全・安心が当たり前であることと、無事に帰っていただくことが当然であるということが当たり前ですので、そのことについてしっかりとした対応をしていく、研修はしっかりとして下さいよということやらも含めまして、その徹底を図るということは、これまでからずっとやっぴいしてきたところでございます。

今回の事故につきましては、重大な事故であるということはもう、考えておりますので、今回の事故に関しまして、早急な危機管理対策とその徹底を図るということが重要でございましたので、その部分について緊急の理事会において、私も理事として参加をしておりますので、その中で発言をさせていただいて、近江日野交流ネットワークとして当面、農業用機械、動力を備えた機械の体験の禁止を、対策を講じるということで、その受け入れ家庭へは役職員が1軒ずつ回って、それで徹

底を図るということで決められたというところでございます。

事業の継続につきましては、近江日野交流ネットワークの中で議論をされまして、危機管理対策を講じ、安全・安心の取り組みに万全を期した上で、受け入れを継続することとされたところでございます。町としましてはその方針を尊重していきたいというふうに考えているところでございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 今回、この事故を受けてそういったことをされたということでございますけれども、常日ごろから受け入れ家庭さんへの研修というのをやっていらっしゃると思うんですね。これはどういうタイミングでどなたがどのような形で行っていらっしゃるのかお尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 近江日野交流ネットワークの研修につきましては、いろいろな研修がございます。やはり1つは受け入れ家庭の方々に、日野で受けていることが全てではないので、よその地域を見ていただく機会をつくる、先進地のところに行っていただいて、そこでほかの地域の方々の思いであったりとか、どんな受け入れ体制でやられているか、どんな思いでやられているかということに触れていただくことが、訪れる子どもたちに伝えていく方法として勉強になるということから、1つは視察研修ということもございます。

さらには、それぞれの受け入れ家庭はいろいろなスキルをお持ちです。竹細工が上手であったりタケノコ掘りが上手であったり料理が上手であったり、そういったそれぞれの、特技と受け入れ家庭は余り思っておられないかも知れませんが、私らから見たら特技です。そういった特技をやはり、受け入れ家庭に引き出しを、いろいろな引き出しを持ってもらうことが重要ですので、小グループである受け入れ家庭を訪問して、そこでいろいろなことを、物づくりであったりを教えていただく。そういう中で教えること、そして教わることを学んでいただく、そういうところで受け入れのスキルアップをしていただいている、そういった研修を平成30年度あたりですと30回、40回という、小さなグループですけども、そういった研修を積み重ねているというところでございます。

いろいろな、時には全国のよその地域のコーディネーターの方にお越しをいただいて、うちではこんなことをやっていますよと、こんな思いでやっていますというお話をしていただいたりということもございますし、学校の先生からお越しをいただいて、日野にお越しをいただいた効果であったりとかいうことをお話いただく、そういった研修もやりながら、今、子どもたちが置かれている状況であったりということも含めて、学んでいただいているというところでございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 今、お話ししていただいたタケノコ掘りであるとか竹細工であるとかいう部分については、町内の受け入れ家庭さんが専門とするところを他の受け入れ家庭さんにアドバイスといいますか、お互いに教え合うというのでやっていらっしゃると思うんですけど、それ以外にまた食中毒なども含めたり、それから体験の安全というものについての研修というのも、外部の講師さんを迎えて毎年していらっしゃると思うんですけども、こういったものについてはどなたがどのようなタイミングで講師をして研修をしていらっしゃるのか、この辺もお尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 研修につきましては、救命救急もありますし衛生研修もあります。そういった部分につきましては、県の方もご協力をいただく中で、保健所の衛生指導の担当の方にお越しをいただいて研修をする、またいろいろな救命救急の関係につきましては、そういう研修とあわせて消防署の方にお越しをいただいております。そして講師につきましてはそういった方々にお越しをいただくんですが、タイミング的には春の4月、5月、6月ぐらいというのはなかなかそういった日程がとれませんもので、少し落ち着く夏場ぐらいをめどに研修を毎年させていただいているところでございますので、今年度、令和元年度につきましても、そのあたりの時期になろうかというふうに思いますが、別途協議をしていただきながら研修をするという形で進むべきところでございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） その人選というのは、講師さんの人選ですけど、どのようにして行っているのか、ちょっとお尋ねします。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 講師さんの選任につきましては、こういったテーマでやりたい、例えばいろいろなノロウイルスであったり、こういうようなことが起きた場合にはどう対処したらいいのかとかいうこと云々についてお話をいただきたいという一定のテーマを、例えば保健所であれば保健所をお願いをします。嘔吐であったりとか、そういうときの対応のときにどうしたらいいんやろうとかいう形で、こういう内容についてお願いしたいという一定のテーマを、毎年少しずつ変えながらテーマを保健所をお願いする中で、保健所の方からそれに係る保健師であったりという方にお越しをいただくと。そこの人選につきましては、こちらの方でテーマをお願いする中で、それぞれの機関の方に講師を選任いただくという形で、こちらの方から講師についてお願いするということがございません。

ただ、いろいろなアレルギーの研修であったりしますと、やはりいろいろところで情報が出ておりますので、そうしたアレルギーの専門家であったりという先生

方にお越しをいただくということにつきましても、いろいろなネット情報もございますし、いろいろな本やらもございますので、そういったところで勉強させていただきながら講師をお願いする場合も中にはございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 大体分かりました。平成27年5月かな、東近江市で毎年それまで行われておりました大凧まつり、ここで事故がございまして、それ以降この大凧まつりが中止されているわけですね。小椋市長さん、東近江市長さんが民事、刑事で結論が出たからといって、すぐに再開できるわけじゃないというコメントを出していらっしゃいまして、これからの安全対策というものについてしっかりとしたものができるあがないと、民事、刑事で結論が出たからといってすぐに再開できないんだというふうにおっしゃっていらっしゃいます。既に令和になっても、いまだに再開されていないわけでございますけれども、日野町の田舎体験は、この事故の後、農泊を行っていらっしゃるんでしょうか。もし行っていらっしゃるんでしたら、事故の後、今日までの、どこを受け入れたかはよろしいですけれども、受け入れられた回数と日程、日付を教えてくださいたいと思います。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 事故が発生しました4月25日、終わってからですが、学校の数的には7校受け入れをしているところでございます。回数と日付ですか。日付につきましては、5月9日から、そして次は5月12日から、それぞれ1泊2日です。5月18日からは2泊3日、5月21日からは2泊3日、5月26日からと6月3日からは1泊2日、そして6月5日からは2泊3日という7回、そういった形で受け入れをさせていただいているところでございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 今までも同様の指導というのは行ってきていらっしゃると思うんですけれども、気をつけるようにということとか安全が大事であるとかいう指導をしていただいておりますけれども、やっぱり事故が起こっちゃったわけですが、事故の後、動力のついたものに乗せないようにとかいった指導の書いたものを配られたということでございますけれども、口頭でもおっしゃられたということですが、今までも口頭で何度も、動力のついたものに乗せるなどはおっしゃっていませんでも、十分注意するようにということをお話ししていらっしゃって、この事故が起こったわけですが、同じことを繰り返していて効果があるんでしょうか。命の危険もあったかもしれないような大事故の後で、なぜ再開できると確信されたんでしょうか。お尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 今回の事故につきましては、動力、車両といたしますか、

農耕用のトラクターを使ってということに、それも圃場の中でないところでの体験ということになったことが、明らかな原因でございます。そういう中で、今回の危機管理対策につきましては、一切のそういったものについては使わないと。そして動力も使わないという形で、徹底を図ってきたところでございます。

そういう中で、事故原因につきましては、今回の場合ははっきりしておりますので、そのことについては学校さんにもご理解もいただく中で、しっかりと対策を講じると、こうやさかいにこういう対応しかできませんがどうでしょうかという中で、しっかりと危機管理対策をするということをする中で、安全確保というところに至るということから、近江日野交流ネットワークとして受け入れをするという形で決定をしてきたところでございます。

繰り返しの研修がやはりこういったことになってきたというのは、どこかに心のすきであったり油断があったということは明らかでございます。そういう中で、機械を使わないということの、まずは使わないということをしっかりと徹底するということで、その危機を取り除く、リスクを取り除くということが非常に重要な点であったというふうに考えています。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） この事故の後、福本商工観光課長が受け入れ家庭への指導の紙を持参されまして、私の自宅の方にもお越しいただきました。覚えておいでだと思いますけれども、私からそのとき、けがをされた児童さんの状況をお伺いしたわけですけれども、そのとき腕と足の骨がぼっきんと折れただけの単純骨折と表現されまして、それを聞いた私の態度が変わったのを覚えていらっしゃるというふうに思います。忘れてはいらっしゃらないと思います。この事故に対して、課長や町当局は責任をどの程度感じておられるのか、私はこの表現を聞いて非常に驚いたわけですけれども、どの程度感じていらっしゃるのか、お聞かせ願いたいと思います。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） 単純骨折と言いましたのは、病院の方でそれをお聞きしたので、その話をしたのでございます。私が、単純に折れただけですという話の部分ではなくて、そういう表現で、私どもが先生方と直接お話しすることはできませんので、病院にずっと詰めさせていただく中で、学校の先生からそういうお話をお伺いしたので、そういう言葉を使ったのが単純に軽く思っているのかというふうに捉えさせてしまったのかも分かりませんが、表現はちょっと悪かったかも知れませんが、ただ、そこの表現につきましては、病院の方でお聞きしていますと、お医者さんから学校の先生がお聞きになられた話が単純にぼきっと折れたらしいですと、単純骨折と言われるやつですというお話の表現がありましたもので、ちょっと説明が不適切やったんかも知れませんが、そういうようなお話をいただ

いて、ぽきっと折れた状態やお伺いしましたので、そういう言葉も含めてお伺いしたそのままを使ってしまいましたので、表現としてそういうふうに捉えさせてしまったのかも分かりませんが、その点は表現が不十分やった部分もあって、その部分についてはおわび申し上げますが、そういうような、軽く考えているとかは全くございません。

この事業が、やはり子どもたちに何かを伝えていくという事業でございますので、そのことをしっかりとやっていく、なおかつ安全・安心を当たり前にして、普通に来て普通に帰っていただくことが当たり前のこととございましたので、その中でこういう事故が起こったということにつきましては非常に、言葉ではあわせてませんが、非常に悔しい思いを私自身もしているところでございます。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） いや、私、単純骨折について言っているわけじゃないです。単純骨折というのは医療用語、医学用語ですので、骨が肉から外に出ておりましたら複雑骨折ですし、内部で折れておりましたら単純骨折ですので、そうではなくて、腕と足の骨がぽきんと折れただけの、ここです。私、これを聞いて態度が変わったというのは、現場にいてお気づきになられたと思いますけれども。

この事故が起こりましたときに、トラクターのステップに立っておられた受け入れ家庭の方ですけれども、どなたかということは、ここでは個人名は申し上げませんが、2016年6月に飲酒した状態で農家泊の体験児童を車に乗せて運転されたことで問題になったことがあったと思います。これは課長も、まだそのころ参事でしたらっしゃいましたけれども、覚えていらっしゃると思います。記録にもあると思います。また、その年の秋にもこの方が飲酒した状態で田舎体験の児童を車に乗せて鹿ウオッチングに行かれ、私もこの件については当時、参事でしたらっしゃいました福本課長に相談に行ったことがあります。覚えていらっしゃると思います。これを受けて、商工観光課さんやネットワークさんもご本人の家に行かれたと思います。相談に行ったことがございますけど、先日、福本課長が私の家に来られたときに、その件について私が追及しますと、どうおっしゃったか覚えていらっしゃいますか。飲酒運転と今回のことは別だからとお答えになりました。これも私は非常にショックになりました。私は事故現場で福本課長にお会いしましたときに、今回のことが大ごとになってほかにも影響しなかったらいいですねという話をしたと思います。私はそのスタンスでした。ですけど、この課長の態度を見て、こんなことをしていたら、いつか大変なことが起こると思って、スタンスを変えることにいたしました。

一般社団法人近江日野交流ネットワークのホームページをけさも拝見いたしました。今もスマホをお持ちの方、見てもらったらいいですけれども、ページのトップにこの方の写真を大きく看板として扱っておられます。かつてこんなことがあつ

たにもかかわらず、看板として載せていらっしやいます。また、その下にはトラクターの運転の体験もできると、今日現在も堂々と書いてあります。トラクターに乗っている写真も載っております。法を守るという観点からも、子どもの安全を第一に考えるという観点からも、ご自分の行動がどのような影響を周囲に及ぼすかという観点からも、私は今回の件と別であるとは全く思えませんけれども、商工観光課長はどのようにお考えでしょうか。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） ホームページなどの対応について、できていないというのは申しわけないところでございます。しっかりと確認をさせていただいてなくて、その対応がおくれているということで、申しわけなく思います。

今回の事故につきましては、非常に重大な事故ということはもう、非常に認識しております。そういう中で、以前のお話をいただいたことはございますので、そういったところのことも含めまして、こちらの方としても対応は一定させていただいたというところでございます。

その関連性につきましては、今回は当然のことながらそこには直接、関係性はなかったわけですが、議員おっしゃるのは、原因があったのではないのかということをおっしゃっていただいているのかなというふうに思いますが、その部分につきましても、これまでから意識の啓発であったりとかいろいろな場での研修、そういうような場でずっと繰り返しこれからもやってきたところでございますので、そういったところで、今回、そういった部分が十分至らなかったというところにつきましては、非常に申しわけないというふうに思っております。今後もそういった対応について、しっかりと安全・安心を確保できるように、強く、理事会の中でもしっかりと話しながら、再発防止に努めていきたいというふうに考えております。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 申しわけないところちに謝られても仕方ないわけですが、本当に命、子どもの命ですので、ぜひもっと真摯に受け止めていただいて、対応をしっかり検討していただく必要があるんじゃないかと思えます。

私は、繰り返し言いますが、農家民泊といいますか農泊に対しては大賛成でございます。こういうことは私らが子どものころに全くありませんでしたし、私も実際、日野町に来て田んぼをやったりするまで稲作なんていうのは全く遠いところの存在でございましたけれども、これが今、子どものうちからそういったところに触れることができたり、またキノコの栽培であるとか、ホームページを見ておりましたらイノシシ狩りですか、こういった実際のところも見たりしていらっしやるようですので、本当に貴重な体験だと思いますので、ぜひこれがすばらしいなと言ってもらい続けられるように、そこら辺も対応していただかないと、逆にアットホーム

で和気あいあいと仲良しでやっていることがあだになったら、本当に日野町だけじゃなくて民泊を推進しようとしていらっしやる他の自治体とか団体にも影響が及ぶというふうに私は思いますので、こういった流れを潰さないでほしいなというふうに思います。

また、この事故があった場所というのは農道であるから道路交通法は適用されないというふうに、読売新聞を読んでおりますと載っておりましたけれども、この道路は、ご存じかもしれませんが、私たち地元民が普段からよく使う道路でございます。道路交通法では特定の人以外が入れないように閉鎖された場所以外は公道とみなすと認識しているわけですが、この辺はどうなのでしょう。

道路交通法が適用されないんでしたら、この道が無免許の人が、免許を持っていない人が自動車を運転してもいいということなんでしょうかね。またシートベルトもしないで携帯電話でしゃべりながら車を運転してもおとがめなしということなんでしょうか。また、当該トラクターにはナンバープレートも何もついておりませんでしたけれども、何か積載車にでも乗せてこの場所まで来て、運搬して子どもに体験させたということなんでしょうか。

私どももトラクターを持っておりますけれども、公道を走らないと田んぼまで行けませんので、ナンバープレートを取得しておりますけれども、この車には、トラクターにはついておりませんでした。落ちた拍子に外れたんでしょうか。この辺もお尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 商工観光課長。

商工観光課長（福本修一君） まず、農耕車として登録につきましては登録をされているトラクターでございました。そして、ナンバープレートをつけておられなかったということにつきましては、その件については把握はしておりませんが、登録はされていたということは確認をしているところでございます。

公道、どこまでどういうふうにとということにつきましては、トラクターにつきましては田んぼの方に置いておかれたものというふうに聞いております。そういう中で移動させられる中で、今回の体験に至ってしまったと。そして、田んぼの中で通常されているものが農道になってしまったということが今回の事故の原因であったというところから、非常に残念に思っているところでございます。

公道につきましては、こちらの方でいろいろな意味合いがあるかというふうに思いますし、道路交通法の関係云々ということにつきましては、警察の方が判断されるかなというふうに思いますので、捜査は順次進められているのかなというふうに思いますが、そのあたりにつきましては捜査の行方を見守るしかないなというふうに考えております。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） ぜひしっかりとご対応いただきまして、二度とこういうことのないようにお願いしたいというふうに思います。本当に、何度も繰り返し言いますが、日野町だけの問題じゃなくて、こういった農泊ですとか漁村泊ですとか、いろいろ今、日本中でやっておりますけれども、こういったものに悪影響が出ないようにしていただきたいなというふうに思います。

最後に、町長さんにお伺いしたいんですけれども、今回の事故をどのように捉えられて、けがを負った児童やご家族に対しましてどのように対応されたのかを、田舎体験事業を先頭に立って牽引されてきた町長さんにお尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 今回の事故は、日野にお越しいただいた方に重傷を負わせたという重大な事故でございまして、けがをされた生徒さんに痛い思い、怖い思いをさせ、家族に多大なご心配をおかけしたことを大変申しわけなく思っております。

事故発生後は、随時対応について協議をし、共通認識を持ちながら生徒さんや家族の気持ちに応えながら対応してきているところでございます。また、受け入れの主体であります近江日野交流ネットワークに同行して、副町長、商工観光課長も謝罪に伺うなどの対応をしてきたところでございます。

けがをされた生徒さんは、現在のところリハビリも順調と学校からも伺っております。一日も早い回復を願いながら、近江日野交流ネットワークとともに誠意を持って対応してまいりたいというふうに思っております。

この間のこの事故を通じて交流ネットワークの役員、さらには受け入れ家庭の皆さんも大変ご心配をいただいているところでございまして、しっかりと共通歩調で取り組みを進めてまいりたいと思っております。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

6番（後藤勇樹君） 今、この議場にも傍聴でお越しいただいているこのネットワークの理事長さんの方からも、総会のときには町長さんを先頭にとすることで声を張り上げておっしゃってくださってましたので、まさに民泊事業というのは私もそういうものだと思ってきておりますので、ぜひしっかりとこの辺を受け止めていただいて、これからも他の市町に対して誇れる農家泊であり続けてほしいというふうに思います。

先ほどお話ししましたように、東近江市におきましては、安全対策が十分に行えるまで大風の祭りは再開できないという姿勢で臨んでおられます。今回の事故は命が助かったのが幸運であったと言っても過言ではないような、本当に大事故でござります。私は十分な安全対策が確認でき、町当局であるとか一般社団法人近江日野ネットワークさんで受け入れ家庭の子どもの安全に対する認識を改めて確かなものにできるまで、私は田舎体験の受け入れを本当は中止すべきではないかと思ってお

ります。

子どもにとっては生涯の思い出になる修学旅行である場合も多いですし、また体に負った傷だけでなく心に負った傷も生涯残ることになります。そのところを、責任を再度真剣に考えていただきますようお願いをいたしまして、私の質問とさせていただきます。

議長（杉浦和人君） 次に、7番、奥平英雄君。

7番（奥平英雄君） 私の方からは2点、分割方式にて質問したいと思います。

まず1点目ですけれども、今、後藤議員がただされました大津の事故についてなんですけれども、重複するところがあると思いますけれども、ご了解願いたいと思います。

交差点の安全対策について1点目。去る5月8日午前10時15分ごろ、大津市大萱6丁目の丁字路で乗用車と軽乗用車が正面衝突し、はずみで軽乗用車がレイモンド淡海保育園の園児13人と保育士3人の計16人の列に突っ込み、2歳の園児男女2人が死亡し、男児1人が意識不明の重体となり、園児10人と保育士3人の方が重軽傷を負う大変痛ましい事故が起きました。このことから日野町の中で、私、また以前言っていますが、交差点、信号のある交差点や信号のない交差点、また丁字路について町は何か考えておられるのか、また中学生の通学路や保育園児の散歩のコースの中の交差点の安全対策はどのようにされているのか、町の考えをお聞かせ下さい。

議長（杉浦和人君） 7番、奥平英雄君の質問に対する町長の答弁を求めます。町長。

町長（藤澤直広君） 交差点の安全対策についてでございますが、町では、通学路となっている主要な交差点51カ所で緊急点検を実施し、改善が必要な箇所については既に工事を発注いたしました。また滋賀県は、管理をしている国道・県道において、1日当たり1万台以上の交通量のある主要な交差点で緊急点検を実施されました。町内での点検対象区間は、国道307号北脇地先からグリーンバイパス深山口交差点までとなっております。幼児の散歩につきましては、コースについて職員同士で危険箇所等の再確認をし、散歩時には黄色旗を活用するとともに、職員をプラス1名増の体制で実施することとしております。今後につきましても、園児の安全確保につきまして、十分注意したいと考えております。

小中学校の通学路における安全対策については、教育長が答弁をいたします。

議長（杉浦和人君） 教育長。

教育長（今宿綾子君） 大津市におけます事故の後の安全対策でございますが、まず、事故後に各学校に注意喚起を促す文書を発出しております。その内容につきましては、登下校や校外学習における基本的な交通ルールの再確認、そして交通ルールを遵守しなかったときの危険性等について、これまでにしてきた取り組みについて再

度しっかりと指導しようということで、そういった内容を記載しました。そして、さらに児童生徒の通学路の危険箇所等の再確認をするということ、そして通学路以外でも校外での活動をするというような道路がございますので、その校外活動を実施する際の道路の状況ですとか安全対策と、万が一緊急時何か起こったときにどのような対策をするかといった点についての対応等について、しっかりもう一度考えるというような内容でございます。

これを受けまして、各学校ではまずは教職員にそのことについて周知をしていただいたということと、それから子どもたちには通学時の交通ルールの遵守について、指導をしていただいたということでございます。また、今後、地区懇談会がございますので、通学路の危険箇所とか、また改善が必要な箇所につきましては、その懇談会の中でも出していただきまして、町の方にも報告をしていただくということで、町と学校、家庭、地域がしっかりと情報を共有しながら取り組んでいきたいと考えているところでございます。

議長（杉浦和人君） 奥平英雄君。

7番（奥平英雄君） 先ほど後藤議員が質問された中と一緒になんですけど、さっき51カ所の緊急点検をされた中で、51カ所の中で白線を6カ所、建設計画課長が言われたと思うんですけども、私、この間、9月の議会のときにも白線を直してくれという依頼をしたと思うんですけども、あの後、言ったところだけしか見ておられなくて、まだ日野町は大きい町なんですけれども、言われたらほかのところも見に回ってもらうのが普通だと思うんですけども、止まれの標識がないと字が消えたあるところとか、やっぱり事故が起きてからでは遅いので、この辺をもうちょっと把握してもらいたいと思うんですけども。

それと、今、南比の方に茶色のガードパイプというんですか、先ほど後藤議員がクッションドラムの蓋で、あれは場所をとりますけれども、ガードパイプというのは10センチぐらいか、ちょっと勉強不足で分かりませんが、ああいうものを立ててもらうとかは考えられないのかが1点と、それと、さっき旗、幼稚園の方の散歩コースの旗、1人職員さんを増やされたと言われましたけれども、今の事故が起きた淡海保育園ですか、あそこは何かロープをみんなに持たせて一緒に、電車ごっこではないですけども、あんな感じで先生が後、先と真ん中におられたとか聞いているんですけど、日野の方は何人ぐらいの方が、生徒さんがおられて散歩されているのか、その辺の安全確保は極端に、言い方悪いですけども、黄色旗1つ増やして職員を1人増やして、それで安全確保ができるのか、その辺、ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） ただいま奥平議員より白線の関係で一部お叱りを受

けながら再質問いただきました。

基本的にこの51カ所につきましては、点検をいたしまして町が管理する道路について余りにもひどいところはすぐに引かなあかんということで、させていただきました。議員が言われるように、前も言うたけどそこしかできていないよということでございます。確かに全てに今、目が行き届いて対応ができていないかという、そうではございませんので申しわけないんですけども、基本的にはもう、せんなんところはせんなんというふうに思っていますので、今後についても同じような思いで対応の方はさせていただきます。

それから、クッションドラムをポールにかえられへんかということでございますが、なかなかポールを設置するとなりますと、しっかりとした形で設置もせんなんし、すぐにまた移動したりというのもなかなか難しいところがございますので、基本的には今、クッションドラムを置いているところをポールにかえるというのは、現段階では非常に厳しいかなというふうな判断をしております。

議長（杉浦和人君） 子ども支援課長。

子ども支援課長（宇田達夫君） ただいま幼稚園、保育園の子どもたちの散歩のことについてご質問をいただきました。

散歩については、人数は大体10人から15人程度でございます。現在までは前後に職員がついていたわけですけども、今後は真ん中にも職員が出てということで、対応をさせていただきたいというふうに思っております。

それと、ちょうどこの事故が終わった後に春の遠足、子どもたちのことですので山王山までの遠足とか、その程度なんですけれども、遠足時につきましてはいつもの散歩より少し遠くなりますので、日野警部交番の方に連絡をさせていただいて、交差点に立っていただくなどの対応をしているところです。

それと、現在まだやっている途中なんですけれども、散歩に私ども子ども支援課の職員と建設計画課の職員とが同行いたしまして、ついている保育士とは違う目で散歩コースについて確認をさせてもらって、危険箇所がないのか、交通安全だけでなく水路であるとかブロック塀はないのか、いろいろな目で確認をしながら現在、対応をしているところでございます。

議長（杉浦和人君） 奥平英雄君。

7番（奥平英雄君） 幼稚園の方につきましては分かりました。

こっちの道路の方なんですけれども、この間、またですけども、私がいつも言っている小林電機さんのあそこの十字路、また事故が起きまして、ここ4日ほど前です。また相手さんは他府県でした。私、いつも言っているんですが、日野の方は皆知っているんです、あそこが危ないのは。なぜもっと分かりやすい印とか看板を立ててもらえへんのかなと思っているんですけど、ここに仮に、今言っている児童

の方が下校当時とか学校の行く時間帯にあった場合と考えたらぞっとしますよ。今の大津の事故と同じような形ですわ。右折されるのにぶち当たったという話をこの間、聞きました。

今、撤去された、滋賀銀行の一方通行のあそこの点滅信号を取られましたね。それと松尾の方の点滅信号。あそこの、僕が前、してもらえんやろかと要望していた赤の線、あそこ、していますよね。これを僕が小林電機さんのあそこにしてほしいなという要望をしたんですけど、なぜか知らんけど黄色になっているんですよ、真ん中だけが。止まれの字の端に赤い線があるとやっぱり見やすいのと、気がつくのかなと思うんですけども、あそこの南大窪町の酔屋忠さんの方から上がってくると止まれの標識が見えないと前もここで発言させてもうたと思うんですけども、その辺のことは町としては考えておられるのか、あそこは県道になるんですか、47号線、という中なのでなぶれないと言うのか、カーブミラーもいまだにちょっと見にくい状態です。

他府県の方が来られると、やっぱり分からないんですよ、あそこ。たまたま車同士で終わった事故でおさめたらだめなんですけれども、子どもさんとか入ってほしたら、それこそ今、こんな話をしていられませんかけれども、もうちょっと町として考えられることはできないんでしょうか。その辺をお伺いします。再々質問で済みません。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 再々質問いただきました。

いつも言っていただきますように、あそこの交差点、非常に危険なことは町の方としても認識の方はしております。カーブミラーがまた見にくいとかの件につきましては、大至急現地の方を確認いたしまして、その辺は対応はさせていただきます。

路面標示の色の関係、信号機を取ったところは赤ができたのにここは黄色や、何とか同じようにもっと分かりやすいようにでけへんかということでございます。これにつきましては、県道と町道の交差点でもございますので、当然、県とも協議をしますし、公安の方とも協議をしながら、可能であれば当然、対応させていただきます。とりあえず協議の方はさせていただきます。

今現在、不備になっていますカーブミラー等につきましては、大至急点検をした上で対応をさせていただきます。

議長（杉浦和人君） 奥平英雄君。

7番（奥平英雄君） もう質問はできませんけれども、最後にちょっと要望なんですけれども、昨日、ちょっとある方が来られまして、今、毎日のように高齢者の方がブレーキとアクセルを間違っって車同士で事故したり、よその民家に突っ込んだりされています。その中で、来られた方が高齢者のお父さん、お母さんを抱えておられ

る中で、日野町の交通面が不便だということで、免許を返せと言うことはできません。その中で今、僕もちょっと昨日聞いたところで分からないんですけれども、アクセルを踏んでもすぐブレーキが効くという装置の機械、機械というか安全対策のブレーキ安全装置というんですか、あれがオートボックスかどこかに売ったあるとか言われていたんですけれども、そういうのを買うにあたって、町として補助とかいうような制度はないのかという話をまた聞かれたんですけど、この辺、あれば、なかったらまた考えてもらいたいし、これからまさに高齢化が進んでいくと思います。やっぱり事故はよそでも起きています。日野でも絶対起きないということはないと思うので、あればあるでまたこういうパンフレットなり、何かあげてというか回してもらったり、自治会に送ってもらったりされたら、利用される方もおられると思うので、この辺、なかったらなかったで考えてもらえたらなと、要望として伝えておきます。よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、1点目はそれで終わりたいと思います。

2点目なんですけれども、高齢の方に安全で安心な道路をとという題名でちょっと質問します。

村井新町の山倉の東にある道路ですが、マンホールが盛り上がり、雨が降ると水たまりができ、大変歩きにくい状態です。地元の方の話では、道の段差に高齢者の方がつまずかれ、けがをされたと聞きました。また、大窪の岡本町の道路もマンホールが盛り上がったところがあります。また大通りの道路際にあるグレーチングなんですけど、大きいものには滑り止めがついていますが、小さいグレーチングには滑り止めがなく、雨降りになりますと大変危険な状態になります。そのことから、道路、マンホール、グレーチングを直せないかと町にお伺ひします。

議長（杉浦和人君） 町長。

町長（藤澤直広君） 町道の維持管理についてご質問をいただきました。

ご指摘の部分につきましては確認をいたし、マンホール等や舗装の修繕については、必要な箇所については工事を発注することとしたところでございます。また、グレーチングの件でございますが、これについても維持管理を日ごろからやっておりますが、滑り止めができるばかりではございませんので、不具合のある部分についてはまた対応してまいりたいと思います。

議長（杉浦和人君） 奥平英雄君。

7番（奥平英雄君） このことにつきましては、建設計画の課長にお礼を言いたいですけど、松尾参事が早速私の家に来て、現場と一緒に来てくれという話で、対応していただきまして本当にありがとうございます。

しかしながら、グレーチングなんですけれども、今、大窪内池線の工事も完了しましたけれども、そこから上の大窪の本町通と僕らは呼んでいるんですけれども、

そこのグレーチングがほとんど滑り止めがありません。今、町長が言われたようにすぐにはでけへんと思うんですけれども、真っ茶色の昔からの鉄板のグレーチングというんですか、ふたというんですか、あれがところどころあるんです。あれは高齢者の方でなくても雪が降ったときでも中学生やら歩行者の方、滑られると思うんです。まだ筋が入ったある滑り止めがないグレーチングの方がましかなと思うんですけれども、その辺は直してもらえるのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 奥平君、通告外の質問ですので。今回はよろしいですけど。建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） グレーチングのふたについて再質問いただきました。

鉄板ふたというのは多分、縞鋼板のことかな。鉄板の中でもちょっと模様があって、縞鋼板といってちょっと滑り止めになったタイプと、全然何もないタイプがございます。町の管理する道路の側溝のふたが、当然そういう形になっているということであれば、安全対策も考えなあかんというふうに思いますので、それについてもちょっと現地の方、把握できておりませんので、確認した上でそれなりの対応はとらせてもらわんなんかなというふうに思いますので、とりあえず現地の方を確認させていただきます。

議長（杉浦和人君） 奥平英雄君。

7番（奥平英雄君） 済みません、質問外ということ。

そうしたら、またできるだけ早く現場を、松尾参事さんの方は見にいったとは言っていたんですけども、課長の方には話が入っていないということですね。分かりました。またできるだけ早く対応してもらえるように、よろしくお伺いしたいと思います。

再々質問ですけど、道の方の発注されたと聞いているんですけども、いつごろかかれるか、最後に聞きたいと思いますので、よろしくお伺いしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 建設計画課長。

建設計画課長（高井晴一郎君） 再々質問いただきました。道の発注というのは……、マンホール関係は、済みません、上下水道課長の方から答弁させていただきます。

議長（杉浦和人君） 上下水道課長。

上下水道課長（長岡一郎君） マンホールの補修関係でございますけれども、もう既に補修業者の方へ頼んでおりますので、もうすぐかかってもらえると思いますので、よろしくお伺いします。

議長（杉浦和人君） 奥平英雄君。

7番（奥平英雄君） これからまた梅雨に入りますので、できるだけ早く直していただいて、安全な道にさせていただきたいと思います。

これで終わります。

議長（杉浦和人君） ここで本日の会議の時間を議事の都合上延長いたしますので、ご了承をお願いいたします。

それでは、次に、12番、西澤正治君。

12番（西澤正治君） 後藤議員また奥平議員と同じような質問で、まことに申しわけございませんが、続いて同じような質問をさせていただきます。ひとつよろしくお願いいたします。

もう簡単に抜かさせていただきたいなと思っておりましたが、簡単にさせていただきたいと思います。

何の落ち度もない幼稚園の子、保育園の園児がけがをされた、交通事故の巻き添えでけがをされたということで、本当にまことに気の毒で申しわけない、一般人、我々は本当に気の毒なことをございます。これも交通事情によりまして、高齢者のドライバーまた普通の一般ドライバー、ほんまは自己の不注意で大きな事故になったということをございます。大津で、我々、小さな孫を持つ者にとっては本当に心の痛む思いでもございます。これも交通安全対策のおくれでこのように犠牲にされた。本当に何とも言いようのない事故でもございました。

それ以降、本当に全国で高齢者のドライバーが不注意で駐車場から遊園地へ飛び出し、また東京ではアクセルとブレーキペダルの踏み間違いの事故、そしてこの間、福岡でも本当に、病気か何か分かりませんが、事故を起こしてそれから120キロほどのスピードで交差点へ飛び込んで、大きな事故がございました。本当にこれも高齢者ドライバーが皆絡んでおる事故だと思えます。

いずれにしても、尊い命が奪われております。県ではこの大津の事故に絡んで、安全対策工事も既に交差点では行われておると聞き及んでおります。当町では通学通園の安全対策はどのようにされているのか、お伺いをいたします。

そして、また主要地方道土山蒲生近江八幡線の日野地先の這い上がり地先では、本当に電柱も多く、五月台、また椿野台から通われる、小井口から通われる通学道路でもございます。本当に見通しも悪く、道路には電柱も出ているということで、本当に危ない、朝夕は本当に危険な場所でもございます。それから、通学路の、通学道路としてカラー舗装をしていただいておりますところも、本当にちょっと色もあせてきて、分からない状態でもございます。色もあせておりますし、これも改めて修理、直していただきたいなと思えますが、当局のお考えをお伺いいたします。

議長（杉浦和人君） 12番、西澤正治君の質問に対する町長の答弁を求めます。町長。

町長（藤澤直広君） 通園、通学路に対する安全対策についてご質問いただきました。

私の方からは、幼稚園・保育園・こども園について答弁させていただきます。

この幼稚園や保育園、こども園につきましては、親が園内まで送り迎えをする事になっておまして、送迎時の安全確保について、保護者に対し園よりお願いを

しております。また、事故以降、散歩につきましては職員を増員し、注意をした中で実施しております。

次に、主要地方道土山蒲生近江八幡線に設置されているグリーンベルトの維持補修についてでございますが、県道でございますので、東近江土木事務所に要望をしているところでございます。

小中学生の通学路における安全対策については、教育長から答弁させていただきます。

議長（杉浦和人君） 教育長。

教育長（今宿綾子君） 通学路の安全点検についてでございますが、まず、通学路点検につきまして答弁をさせていただきます。

点検につきましては、毎年4月に関係の合同点検をしております。その関係機関と申しますのは、東近江警察署、そして道路管理者でございます県の土木事務所、そして町の建設計画課、さらに通学路アドバイザー、また当該学校、学校教育課の職員が集まりまして現地確認を行いまして、危険箇所の情報共有を行っているところでございます。そして、その中で指摘があったところなどにつきましては、道路管理者、また公安委員会により安全対策の検討を行っていただいているというところでございます。

また、このような中で合同点検につきましては、町内を2グループに分けまして、隔年で実施をしているものでございまして、今年度につきましては西大路小学校、日野小学校、必佐小学校で実施をいたしました。

また、各学校では、これらの合同点検とは別に、加えてPTAと連携を図りながら通学路点検をされておりました。そこで新たに気づかれた、発見された危険箇所などがございましたら、その都度、学校を通じて町に報告をしていただいております。また、道路等の危険箇所の修繕と同時に、何と申しましても児童生徒の安全教育が大事であるというふうを考えておりました。新学期早々には各学校で交通安全教室を行いまして、歩行者としての安全教育ですとか、また自転車運転の指導を実施しているところでございます。

議長（杉浦和人君） 西澤正治君。

12番（西澤正治君） 私も昨日、今の土山線のところの小井口地先で、田んぼが近くにありますので草を刈っておりましたら、やはり警察の方が絶えずパトロールで夕方4時ごろ来ていただいて、道に車を止めておくのを怒られるのかしらと思ったら、草を刈っていて警察にほめてもらいました。こんなことは初めてでございますので、こんなことで、安全点検には我々、十分注意していかなければならないなと思っております。

また、幸いなことに鎌掛の小学生の児童はバス通学をさせていただいております

ので、本当にありがたい、朝の見送りだけでよいということで、朝の見送りだけは皆が送っているということで、そこでも交通安全には十分気をつけよということも十分、皆、保護者の方や見守り隊の方に言っていただいておりますので、本当に安全には注意をしておるところでもございます。

しかし、小井口からの這い上がりのあそこはもう、両方とも家もあるし石垣もあるし、本当に危ないところでもございます。対向車が来る、そこへ中学生や高校生が自転車で通うというところになりますと、本当にひやっとすることがたびたびございますので、できれば電柱の移転とか、また対策というんですか、なかなかできんところではございますねけど、十分主要道になっておりますので、県道になっておりますので、また県の方へ十分、建設計画の方で働きかけをいただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

もう、いろいろ重複しておりますので、これで質問を終わります。

議長（杉浦和人君） 次に、3番、高橋源三郎君。

3番（高橋源三郎君） それでは、防災無線の活用状況について質問をさせていただきます。この防災無線は、今から30年ほど前に設置されているわけですが、30年前といいますと携帯電話も全くなかった時代でございますし、設置から長い年月が経過していますので、その経緯も含めて質問をさせていただきたいというふうに思います。

今から30年前の平成元年、政府は日本のすべての自治体に対して、ふるさと創生事業と称して各自治体に一律1億円の交付金を無条件で交付しました。日野町もこの1億円を受けて、ふるさと創生事業として、有識者や住民の方も交じて検討委員会を設置されて、そこで幾つかの事業案が提示され、その中から5つほど事業が実施されたというふうに聞いております。そのうちの1つの事業として同報無線の設置があったわけでございます。この同報無線は防災無線といってもいいかと思いますが、正式な名称は防災行政無線と呼ぶようでございますが、私は質問の中では防災無線というふうに言わせていただきます。

近年、日本全国で台風被害や地震災害が多発する中で、日野町においても台風被害は現実には毎年発生しているところがございます。また大きな地震もいつ起こってもおかしくないような状況となってきたところがございます。そうした中で、この防災無線が毎年どのように活用されているのか、これについて3点質問をさせていただきます。

まず、1点目でございます。この防災無線の基地局、親局ともいうようですが、役場の庁舎の中にあると思うんですが、現在これを管理している担当課は何課になるのか。また、各公民館やへき地、あるいは辺地というんですか、そこには支局あるいは子局があると思いますが、現在、支局は全部で幾つあるのでしょうか。

次、第2点目でございますけれども、台風のとくに地域によっては緊急の避難勧告等が必要な場合があります。このとき、町は防災無線をどの程度活用されているのか。また、今までに活用された実績なり記録等がありましたら教えて下さい。

3点目でございますが、この防災無線は兵庫県龍野市の防災無線を参考につくられていると思うんですが、そのために平常時には各支局の防災無線塔のスピーカーから毎日メロディーチャイムが流れています。朝の10時と昼の3時と夕方の6時、1日3回流れているわけでございますけれども、私を知る限りでは、この3曲が曲目が30年間変わっていないように思うんですけれども、四季に合わせてか、または年に1度は曲を変えられてはどうかというふうに思います。ただし、午後3時に流れている、日野町にお住まいになられていた細川雄太郎氏の作詞の「あのこはたあれ」はそのままでもよいと思います。それと、最後に、冬期においては夕方の6時はもう真っ暗であたりは完全に日が暮れているわけですが、その時間帯の中で「夕焼け小焼け」の曲が流れるのは非常に違和感がありますので、何かいい方策を考えていただければと思います。

議長（杉浦和人君） 3番、高橋源三郎君の質問に対する町長の答弁を求めます。町長。

町長（藤澤直広君） 防災行政無線の活用状況について、ご質問をいただきました。

防災行政無線の基地局は役場本庁舎にございまして、担当課は総務課でございます。屋外拡声子局につきましては、町内に9カ所設置してございまして、日野公民館を除く各公民館6カ所と西明寺、熊野、小野の3カ所にと設置してございます。

次に、活用状況でございますが、主に気象情報などが発表された場合に、Jアラートを通じ、自動的に屋外拡声子局へ放送される仕組みとなっております。なお、これらの放送記録についてはとっておりません。

次に、メロディーチャイムについてでございますが、吹鳴している回数や曲は地域により異なった運用を行っております。曲の種類としては「よろこびの歌」「野ばら」「夕焼け小焼け」「あのこはたあれ」の4種類とサイレン音がございます。吹鳴時間や選曲につきましては、それぞれの地域において決定をいただいております。区長会等からご要望があれば変更等、対応してまいりたいと考えます。

議長（杉浦和人君） 高橋源三郎君。

3番（高橋源三郎君） 何点か再質問させていただきます。

まず1点目は、確認なんですけれども、気象情報が発表された場合にJアラートを通じて自動的に9つの屋外拡声子局に放送されるということでございますが、日野公民館には局がなく、基地局の役場から放送されていると思うんですが、役場からの放送でよいというふうに理解していいというふうに思いますので、その点は確認をしたいと思います。

次に、質問でございますけれども、大字西大路そして熊野、小野は地区の公民館から距離が離れている関係で、字単位で屋外拡声子局が設置されていると思いますが、あと原とか平子について、その地区の公民館から距離的に離れているわけでございますけれども、この二字について、音声の届くエリアとしてカバーされているのかどうか、その辺が疑問に思いますので、質問させていただきます。

2点目としまして、水害や土砂災害に対する避難行動を支援するために、令和元年6月1日、今年の6月から警戒レベルの運用が開始されたというふうに聞いております。防災情報を5段階の警戒レベルに分けられていますけれども、その中で警戒レベルが1と2の場合は気象庁が発表するというので、テレビなどで放映されると思うんですけれども、警戒レベルが3、4、5に達した場合には日野町が発令するという事になっています。警戒レベルで3ではもう避難の準備と、高齢者においてはもう避難を開始すると。警戒レベル4においては全員避難を始めると。そして警戒レベル5では命を守るために最善の行動をとると、このようになっているわけでございますけれども、この警戒レベルに達したときの避難勧告や、あるいは避難誘導の発令は、テレビを見ていてそれぞれの人が判断をするのか、それとも防災無線を通じて放送が流れてきて、それに従って行動を開始するのか、あるいはまたほかに二重、三重に連絡方法が考えられているのか、その伝達方法についてもお伺いをしたいと思います。

最後、3点目でございますけれども、災害が発生したときに、各地区や各字によって災害の程度や状況は異なると思うわけでございます。ただ単にJアラートに従うのみで行動するのではなくて、その地区の状況によっていろいろ異なりますので、そのときには屋外拡声子局から直接に住民に通報する必要があるのではないかと、いうふうに思います。このときに、公民館の職員なり、あるいは字の区長さんなりが緊急に子局を使うことができるのかどうか、その点についてもお伺いしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 総務課長。

総務課長（藤澤 隆君） 高橋議員より4点ご質問いただきました。

1点目でございます。気象情報が発令されたときには、町長が申しましたように親局が役場にございまして、そこにJアラートを通じて各子局に流れるということでございます。おっしゃいましたように日野公民館には設置はございませんので、日野公民館にはどうか日野地区には一定、放送が流れないというような状況になっておるところでございます。これについてはまた後ほど申し上げたいと思います。

もう1点、原や平子がカバーできているのかというような話でございます。現実、各子局を今現在つけておまして、避難情報等が流れるわけでございますけれども、それは気象の状況また深夜であったり早朝であったり、いろいろな時間帯によって

それはカバーできているときもあればカバーできていないときもあると、さまざまであるというふうに思っております。相対的にはなかなかカバーできていないというご指摘をいただいているところでございます。

それから、もう1点、気象情報がレベル1から5までの運用をしていこうというふうに国の方が定められました。これはそれぞれ気象台が発表される土砂災害情報、それから河川氾濫情報、それから町が発令する避難情報、それぞれ分りにくい。避難がなかなか、住民の方が7割はもう、避難されていないという昨年の状況を受けて、住民の方が分かりやすい方法はないかということで、ひとつレベル1から5までの統一した考え方を示されたというところでございます。

ただ、ここの運用につきましては、例えば気象台でございまして警報が出されたときに、例えば大雨警報が出されたときに今はレベル3程度というような補足資料としてつけられると。それを受けて町は、それじゃ3が出たのですぐに発令をするのかといいますと、そこはまた違いまして、町は町で気象台からさらにまた県の危機防災管理局から県のシステム等の情報をいただきまして、土壌の湿潤状態を見させていただいて、どの地域に雨が非常に多いのかというような5キロメッシュなんかの情報をもとに、土砂災害の危険がある区域はどこかという判断をさせていただいて、その中で、日野町の中で警報は日野町に出ておりますけれども、危険な箇所はどこかという集落を一定、特定する中で、一定の地域を避難情報を出させていただいて、レベル3ですよ、レベル4ですよというような情報を流すというようなところでございます。

ですから、国の方はテレビで流れるのはレベル3、レベル4というふうに流れるわけでございますけれども、町としての判断は、それぞれの集落で非常に河川の氾濫状況とか違いますので、雨量が違いますので、そこはさらに詳しい情報をもとに発令をしていくというような判断をしていくところでございます。

今のところ、情報の発令については、第一義的には、区長さんにまずは町の職員から連絡をさせていただくというのが第一義的にっております。Jアラートが発令されますと、動きますともう、同時に放送も流れるわけでございますが、ただ、大雨のときで夜ですと、全く雨戸も閉められておりますので、防災行政無線の音声がかえらないということもございまして、そこはまずは職員が区長さんへ伝えると。事前に避難所をあげながら、こういった状況であるということを伝えていくというような体制をこれまでからとっているというところでございます。

一応、今、子局、各地にございますけれども、ポールの下の方に専用マイクがございまして、そこで直接そこからマイクを使って放送ができるというようなシステムになっているところでございます。

1点、ただ、今の現状がそういった状況でございまして、できれば来年度からこ

ういった防災行政無線をもう一度整備し直して、個別にお知らせできる方法を検討しようということで、今年度実施設計、それからできれば次年度から整備に当たっていききたいという、今、最中でございます。それにあわせて集落へ出向きまして、区長さんと膝を交えまして、個別に支援が必要な方はどういった方を支援していこう、誰が支援していこうというところまで膝をつき合わせて話しながら、スマホや個別受信機でのお知らせをしていくというような情報も考えているということも普及しながら、今年度、各集落へ入って説明に行きたいなというふうに思っておりますので、どうかよろしく申し上げます。

議長（杉浦和人君） 高橋源三郎君。

3番（高橋源三郎君） 再々質問で申しわけないんですが、防災無線、停電した場合はどのような対応になるのか、それについて最後、教えていただければと思います。

議長（杉浦和人君） 総務課長。

総務課長（藤澤 隆君） 再々質問いただきました。

残念ながら、停電した場合は放送ができないということになるわけでございます。その辺の対応については一定、役場の親局については発電機で一定、動くようにさせていただくということで、今度、個別に個別受信機なんかを整備するとか、またスマホなんかで防災アプリなんかですと、何とかそこらまでは各個人さんにはうまく伝わるのではないかなというふうに思っております。

議長（杉浦和人君） 以上で5名の諸君の質問は終わりました。その他の諸君の一般質問は明14日行いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

－異 議 な し－

議長（杉浦和人君） ご異議なしと認めます。それではその他の諸君の一般質問は明14日行いますので、定刻ご参集をお願いいたします。

本日はこれをもって散会いたします。

一同起立、礼。

－起 立 ・ 礼－

議長（杉浦和人君） ご苦労さまでした。

－散会 17時12分－